

57
32

醫士白山日公著
白癬之診斷及其療法
全

南堂堂

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 i

始



醫學博士 山田弘倫 著

白癬診斷及其療法
全

東京南山堂書店發行

大正
1.12.3
丙寅

余ノ嘗テ本問題ヲ研究シタル經路ハ載セ
テ本書第一頁ニアリ後日更ラニ恩師土肥
博士ノ教示ニ從ヒ戶塚軍醫正弘岡軍醫兩
氏ノ助力ヲ以テ動物ノ白癩ノ實驗ヲナシ
今其成績等ヲ増補シテ上梓セルモノナリ

大正元年十一月

山田弘倫識

白癬之診斷及其療法目次

日本ニ於ケル白癬ニ就テ……………一

白癬ニ關スル歴史……………二

白癬ノ臨牀上ノ名稱……………五

白癬ノ症候……………七

(一) 頭部白癬……………八

(二) 小水疱性白癬……………九

(三) 斑紋性及落屑性白癬……………九

(四) 頑癬……………一〇

(五) 寄生性鬚瘡……………一〇

(六) 水疱性白癬……………一〇

(七) 手掌足蹠白癬……………一〇

(八) 屋瓦狀白癬……………一一

余ノ實驗セル患者例	一八
頭部白癬	二二
顔面落屑性白癬「はたけ又白たむし」	二五
無毛部白癬	二八
頑癬	二九
爪ノ白癬	三六
白癬性毛瘡	三七
屋瓦狀白癬	三八
口腔粘膜ノ白癬	四〇
白癬ノ經過	四一
診斷	四四
白癬ノ解剖	五〇
白癬ノ豫後	五一
白癬豫防法	五二

治療法	五三
頭部及鬚髯部白癬	五三
無毛部ノ白癬	六四
白癬傳染ノ狀況	七一
白癬菌培養上ノ形態及之ニ關スル業績摘要	八二
培養方法	九二
余ノ培養セル白癬菌肉眼の所見	九九
余ガ培養セル白癬菌ノ鏡檢的所見	一一一
動物移植試験	一二八
人體接種試験	一三七
余ノ大小芽胞菌鑑別標準	一三八
臨牀症候及白癬菌培養上形態異同辨	一四二
結論	

白癬之診斷及其療法

陸軍二等軍醫正醫學博士 山田弘倫著

日本ニ於ケル白癬ニ就テ *Trichophitie in Japan*

主肥博士教室ニ於ケル白癬ノ研究ハ旭憲吉君(明治三十三年)ヲ第一トス同君ガ孜孜
之ガ研究ニ従事セル其第一回報告ハ載セテ明治三十六年九月ノ皮膚科學會雜誌ニ
アリ君ガ中途官命ニ依リ渡歐スルヤ時ノ介補土肥章司君第二ノ研究者タリシモ亦
其業ヲ終ヘズシテ歐洲留學ノ途ニ上レリ余ハ日露戰役後明治三十九年再ビ土肥教
室ニ於テ研究スルノ好機會ヲ得タルヲ以テ教授ハ余ニ日本ニ於ケル白癬ノ全般ニ
亘リテ原因的研究ヲナスベキコトヲ懇懇シ必ズ其業績ヲ完成スベキコトヲ懇示セ
ラレタリ依テ余ハ第三研究者トシテ教授ノ懇切ナル指導ノ下ニ白癬ノ臨牀的及ビ
微生物的研究ニ従事シ遂ニ此業績ヲ公ニスルノ榮譽ヲ荷フニ至レルモノナリ

白癬ニ關スル歴史

二

左ニ順序トシテ白癬ニ關スル歴史ノ概要ヲ摘録セントス
歐洲ニ於テハ黃癬 Favus ナル名稱ハ已ニセルシユース時代ニ存シテ現今ノ濕疹又膿
疱疹ノ如キモノヲモ包含セシモノノ如シ中世紀ニ及ビテ「チチア」Tinea 或ハ「モットー」
Motto ナル名稱ノ下ニ其病性ヲ寄生性ト見做スニ至リ下テ千八百三十九年シュンラ
イニー Schonleini 氏甫メテ黃癬菌ヲ發見セルノ後未ダ幾何ナラズシテ千八百四十三
年グルービー Gruby 氏ニヨリテ小兒ノ頭髮或ハ毛瘡 Sykosis ヨリ前者ト異ナル一種
ノ絲狀菌ヲ發見シ苔癬學者ノ用名ヲ假テ之ヲ Microsporon Audouini 「ミタロスボロン」
アウドヴニー即チアウドヴニー氏小芽胞菌ト云ヘリ而シテ其毛瘡ノ病原菌ヲ詳細
ニ記載シ其菌ハ髮外ニ生殖スルコトヲ確メタリ又第一ニ千八百二十九年モーン
Mohon 氏ガ第一ニ記載ヲ Porrigo decalvans ト命名シタル如キ小兒ノ頭部ノ一白癬症ヨ
リノ菌ハ髮中ニアルコトヲ確メタリ是レ今日ノ小芽胞菌性白癬ニシテ當時顯微鏡
及ビ染色法等ノ發達セザル時代ニモ關セズ之ヲ精査研究シテ今日ノ基礎ヲ定メタ
ル同氏ノ功ハ多シトスベクグルービー氏病ナル名稱ノ今尚ホ保存セララルハ誠ニ

所以アリト謂フベキナリ千八百五十三年バザン Bazin 氏ハ此グルービー氏ノ發見
ヲ證認セリ千八百四十五年マルムステン Malinsten 氏ハ落屑性小疱疹 Porrigo decalvans
ヨリ更ニ絲狀菌ヲ發見シ之ヲトリコヒートン、トングーランズ、 Trichophyton tonsurans
ト命名セリ後人乃チ誤テ之ヲアウドヴニー氏絲狀菌ト同視セリ獨乙國ニ於テハ千
八百六十四年ケブネル Köhner 氏ハ寄生性毛瘡 Sykosis parasitaria ニ就テ特ニ精査シ又
頑癬 Ekzema marginatum ヲ白癬ト認識シ又千八百五十三年乃至五十五年バウム Baum
及マイステルス Meissner 氏等ガ爪甲ニ於ケル菌ヲ白癬ニ屬スルコトヲ發見セリ白
癬ノ所在ハ益々擴大セラレ爾來更ニ世人ノ注意ヲ喚起シテ諸說紛起シテ千八百九
十四年佛ノサブロー Sbraud 氏ガ更ラニ一新機軸的ニ之ニ關スル精細ナル研究ヲ公
表シテ一層此疾患ノ注意ヲ喚起シ概テ此絲狀菌ノ分類ニ就テハ大體ニ於テハ一致
スルニ至レリ然レドモ尙獨英派ト「サブロー」學派トハ全然一致ヲ見ルニ至ラズ
動物ニ於テハバザン氏千八百三十三年甫メテ馬ヨリ菌ヲ發見セリ然レドモ千八百
五十七年乃至五十九年ニ於テゲラハ Caletti 氏ガ牛體及ビ犬ニ於テ之ヲ發見セ
ルヲ歴史的家畜ニ發見ノ嚆矢トシ次デホイブネル Haubner 氏ハ千八百六十一年フ
ンゲル Fenger 氏ハ猫ニ千八百七十二年ペロンチト Peronchio 氏ハ之ヲ羊ニ發見シハ

アンEam氏ハ千八百六十一年贖ノ口ノ癬Maulgrindハ白癬菌ニ因スルコトヲ報告シ
 爾來諸學者相踵デ之ヲ各種ノ家畜鳥類ニモ證明スルニ至レリ
 支那ニ於テハ隋煬帝大業六年巢元方ノ著書病源候論我ガ推古天皇十八年西歷六百
 十年ノ毛髮病諸候中ニ白禿候及ビ赤禿候ヲ説キ又瘡病諸候中ニ癬候ヲ舉ゲタルモ
 ノヲ見ルニ其症狀略々白癬ニ一致セリ而シテ其病源ヲ蟲ニ歸シ且ツ牛及ビ狗ヨリ
 傳染スルコトヲモ明記セリ千余年前ノ支那醫學ガ斯ノ如キ爛眼ヲ有セルハ之ヲ彼
 國今日ノ幼稚ナル醫學ノ狀態ニ比シテ寧ロ驚歎ニ價セズンバアラズ降テ宋高宗紹
 興十六年寶材集ノ著書扁鵲心書我ガ近衛天皇久安二年西歷千四百四十六年中ノ寶材
 灸法ノ條下ニ頑癬或小兒禿瘡云々トアリ而シテ禿瘡者初起者即是頭也ト記載シ明
 陳實功著外科正宗我ガ後水尾天皇元和六年西歷千六百十五年中ニ白屑風白禿瘡ノ
 字アリ又御纂醫宗金鑑我ガ櫻町天皇寛保元年西歷千七百四十一年中ニモ禿瘡ノ字
 アリ其症候記載最モ明瞭ナリ瘍醫大全清高宗乾隆三十八年我ガ後桃園天皇安永二
 年西歷千七百七十三年中ニハ療法トシテ殺蟲藥ヲ用ユベキヲ示セリ
 我邦ニ於テ醫書中最古ト見做スベキ丹波康賴著醫心方圓融天皇永觀二年宋太宗雍
 熙元年西歷九百八十四年ハ今ヲ距ル九百余年前ノ撰述ナリ書中ニ治小兒白禿方ア

リ又治小兒面白屑方アリ又同時代ノ著書和名類聚鈔源順著ナルモノアリ庶物ノ和
 名ヲ舉ゲ對譯スルニ漢名ヲ以テシ醫書ニアラザルモ我邦現存ノ古書中ニテ病名ヲ
 舉ゲタルハ此書ヲ以テ始トス書中病名ノ下ニ瘍カシラガサ禿カフロ等ノ語アリ下
 テ南北朝頃ノ著書五體身分集釋生西ノ撰ナル醫書中ニハ實ニ本朝ノ病名ト見ルベ
 キモノアリテ其頭病中ニハ白雲瘡白禿疹ヲ舉ゲタリ之レしらくもナル病名ノ初メ
 ナランカ天正九年明神宗萬曆九年西歷千五百九十一年應取秀次著外科新明集及ビ
 外療細壘慶長十一年頃明萬曆三十五六年頃西歷千六百八九年頃中ニハ瘡瘍部ニ風
 癬(タムシ)禿瘡(シラクボ)白屑(疱癬)ヲモクサウロコタツナドノ字アリ又今日殘存スル
 所ノ大同類聚方ニハ之良保世加差(シラホセカサ)安介久差(亦名多牟之)ノ病名ヲ載セ
 タリ要スルニ白癬ハ我國ニテモ數百年前已ニ現存セシコトハ疑ヲ容レズ唯一モ其
 傳染ノ事實ヲ記述セシモノナキハ遺憾ナリ

白癬ノ臨牀上ノ名稱

西洋ニ於ケル白癬ニ就テノ臨牀上ノ名稱ヲ舉グレバ左ノ如シ
 (一) 頭部白癬 Kopfrichophytie, Scherende Flechte, Porrigo decalvans, Trichophytia tonsurans.

Herpes Tonsurans capillitii. Teigne tondante.

別テニトス

- (A) 小芽胞菌性頭部白癬 *Microsporin*
- (B) 大芽胞菌性頭部白癬 *Mycrosporin* 又ハ固有頭部白癬 *Lechte Kopptrichophytie* 之ヲ更ラニ菌ノ所在ヨリニ別ス
- (1) 髪内大芽胞菌 *Megarosporon endothrix* ト (2) 髪外大芽胞菌 *Megarosporon ectothrix*
- (C) 蜂窠様白癬 *Kerion Celsi*
- (二) 鬚瘡 *Bartrichophytie*. *Sykosis parastaria*. *Barflechte*. *Phytosycosi Sykosis of The Beard*
- (三) 皮膚白癬 *Trichophytic des übrigen Körpers*. 左ノ如キ名稱アリ
- (A) 限局性白癬 *Trichophytia circumscripta*
- (B) 播種狀白癬 *Trichophytia disseminata*
- (C) 頑癬 *Eczema marginatum*. *Tinea trichophytina crinis*. *Herpes inguinum Bärenprung*.
- (D) 屋瓦狀白癬 *Schuppenringwurm*. *Tinea imbricata*. *Pita*. *Tokelan*. *Sanna disease*.
- (E) 小水疱性白癬 *Herpes tonsurans vesiculosus*
- (F) 水疱性白癬 *Herpes tonsurans pemphigoides*

(四) 爪ノ白癬 *Trichophytic der Nägel*. *Onychomycosis trichophytina*

其他口腔粘膜ノ白癬ヲ報告セル者アリ又斑紋性白癬 *Herpes Tonsurans maculosus* 又手掌足趾寄生性濕疹 *Eczema parasitarum palmalis et plantalis* 等ノ名ヲ冠セルモノアリ支那ノ醫書ニ於ケル異名ヲ列舉スレハ左ノ如シ

- 癬、圓癬、風癬、牛癬、狗癬、白禿 (病源候論)
- 頑癬、小兒禿瘡、禿瘡 (扁鵲心書)
- 白屑風、白禿瘡、頑癬 (外科正宗)
- 風癬、又花癬、白禿瘡 (瘍醫大全)
- 禿瘡 (醫宗金鑑)

和名ニテハ左ノ如シ
波太介、錢加佐之爾、保世加佐、賀之賀、加佐多牟之、之良久毛、オモカサ、ウロコタツ等アリ

白癬ノ症候

西洋又支那ニ於テモ學者ト時代トニ因テ其記載ニ多少ノ精粗繁簡アリ今之ガ大要

ヲ略記シテ比較スルハ興味ナキ業ニモアラズ又全ク無用ノ事ニモアラザルベシ
西洋ニ於ケル白癬ノ證候ヲ摘録スレバ左ノ如シ

(一) 頭部白癬

大サ。五厘貨大乃至一圓貨大ニシテ限局ス

形。圓形或ハ橢圓ナリ

髮。脱落或ハ斷折ス、長短不同ニ折斷ス、脱色シテ灰白色トナル、わらび様ニ曲ル、灰

白色ナリ此鱗屑アル所ニハ髮少ナシ寄生性白色枇糠症、Pityriasis alba parasitariaト

モ云フ、灰白色ノ鞘ヲ以テ被ハル

鱗屑。塵埃ノ如ク髮ニ附著ス、白色ノ鞘ノ如ク髮ヲ取卷クコトアリ、殊ニ疹ノ周圍

ニ於テ著明ナリ、白色乃至汚穢黄色ナリ、灰白色ニシテ髮ニ固著ス

通常ハ炎衝症狀ヲ缺如ス

頭皮。僅カニ發赤ス、圓斑ノ縁邊ニ小水泡或ハ小結節アリ、時ニ限局性ナラズシテ

瀰蔓性ニ落屑ニテ被ハレ恰カモ乾性脂漏ト酷似スルモノアリ、或ハ厚キ痂皮ヲ

形成シテ恰カモ落屑性濕疹、脂漏性濕疹、頭部乾癬若シクハ黃癬ノ洗滌後ノ外觀

ヲ呈スル如キモノアリ、或ハ板狀ノ鱗屑ニテ被ハルルコトアリ

癢痒。缺如ス或ハ僅カニ存ス

又全ク特有ノ狀態ヲ示ス所ノ蜂窠様、白癬ハ刺戟ヲ與ヘタルトキ或ハ病竈ヨリ水

疱結痂ヲ伴ヒタル一ノ腫瘍ヲ呈シ其大サ三—四cmナリ髮ハ鬆粗トナリ折斷セル

毛ハ拔去スルコト容易ナリ腫瘍ヲ壓スレバ毛孔ヨリ膿ヲ洩ス、癢痒及疼痛アリ

(二) 小水泡性白癬

頰部、前膊、手背等被覆セラレザル部位ニ輪狀ニ遠心性ニ小水泡或ハ丘疹ヲ生ズ、細

小ナル落屑アリ、中央部ハ僅カニ發赤ス、通常一—三cmノ圓斑ナリ、下肢ニ發生スル

コトハ極メテ稀レナリ

(三) 斑紋性及落屑性白癬

發赤ハ指壓ニテ消失ス、蔓延ハ中央ヨリ周圍ニ及ボシ、遂ニ落屑ヲ來タシテ消退ス

ル所ノ圓斑ヲ形成スルモノニシテ、項部、顔面ヲ多シトス、形狀ハ多クハ橢圓形ヲ呈

シ、中央腿色シテ滑澤トナリ周圍ニ薄キ落屑及ビ紅暈アリ、落屑後ハ健康皮膚トナ

ルコトアレドモ又大ナル圓斑ノ儘ニ一二年現存スルコトアリ、而シテ限局性ト瀰

蔓性ト別ツ、後者ハ粟粒大乃至扁豆ノ大結節或ハ斑紋ヲ發シ、忽チ全身ニ蔓延シ

テ、其中央ハ恰カモ針ニテ裂キ破リシ如キ輝裂ヲ呈スル灰白色ノ鱗屑アリ、周圍ハ

發赤セル圓斑ヲ形成ス、限局性ノモノハ忽チ擴大シテ手掌大ニ達スルモノアリ

(四) 頑癬

通常陰股ノ皺襞ニ發生シ、陰阜、臀部ニ蔓延ス、其邊緣ハ常ニ發赤シテ堤狀ヲ呈ス、結節、小水疱及ビ落屑アリ、中央部ハ治癒或ハ發赤浸潤ス、病竈ノ周圍ニ往々孤立ノ小圓斑ヲ見ル、中央ニハ暗褐色ノ色素沈著アリ、堤狀ノ邊緣ハ鋸齒狀ヲ呈ス、又已ニ治癒セル中心部ニ再發スルヲ特有トス

(五) 寄生性鬚瘡

第一期ニハ限局性枇糠狀落屑アリ、尙輕度ノ發赤アリ、蔓延シテ頰部、頸部ニ圓斑ヲ作ル、第二期ニ至リテハ毛囊ノ炎衝ヲ特兆トス、即チ結節、膿疱或ハ膿瘍ヲ形成シ、次テ痂皮ヲ結ビ甚シキハ菌狀息肉腫ノ如キ觀ヲ呈スルコトアリ、又急性皮膚炎ノ如ク瀰蔓性ノ浸潤及ビ化膿等ヲ來タスコトアリ、又ハ篩狀ノ如ク多數ノ孔ヲ認メ、恰カモ蜂巢ノ如キ外觀ヲ呈スルコトアリ、毛ノ大半ハ膿疱、結節ノ中央ヲ貫通スルヲ特有トス

(六) 水疱性白癬

初メ小水疱ヲ發生シ、炎衝アリ、滲出物多量トナリ乾燥ス、其大サ帽針頭大乃至五厘

貨大ニテ菲薄ノ被膜ヲ有ス、水疱ノ内容ハ多少溷濁ヲ呈シ、四五日ニシテ痂皮脱落シ、水疱性環狀ヲ形成ス、其内容乾固シテ傳染性膿疱疹ニ酷似スルコトアリ

(七) 手掌足蹠白癬

手掌足蹠ニ限局性ノ濕疹狀ヲ呈シ、其發病經過及ビ鏡檢的所見ニ因テ白癬タルコトヲ知ルベシ、初ハ或一點ヨリ起リ周圍ニ蔓延ス、邊緣ハ結節及水疱ニテ境サレ、中央ハ落屑及ビ潮紅ヲ呈スルノミ、其經過甚ダ長キモノナリ

(八) 屋瓦狀白癬

初メ小結節及ビ小水疱ヲ作り、忽チ水疱ニ變シ、遠心性ニ重疊シテ屋瓦狀ノ落屑ヲ作ル、顔面及頭部ハ侵サル、コナシ、通常胸部ニ發生シ、小結節或ハ小水疱ニテ初マリ、後中央部ニ落屑ヲ來タス、新生セル發疹ノ爲メ漸次屋瓦狀ノ落屑性圓斑ヲ形成シ、全身ニ蔓延ス

支。那ニ於ケル白癬ノ證候ヲ摘録スレバ左ノ如シ

白禿候(頭部白癬)

凡人皆有九蟲在腹内、值血氣虛則能侵食而蟻蟲發動、最能生瘡、乃成疽癬、癩疥之屬、無所不爲、言白禿者、皆由此蟲所作、謂在頭生瘡有蟲、白痂甚痒、其上髮並禿落不生、故謂之

白禿病源候論

白禿瘡

因剃髮際理洞開外風襲入結聚不散致氣血不潮皮肉乾枯發為白禿久則髮落根無榮養如禿斑光潤不癢內血已潮禿斑乾枯作癢者內必有蟲徐曰此症之因亦數種(外科正宗)

小兒禿瘡

皆汗出入水濕淫皮毛而致也(扁鵲心書)

禿瘡

寒濕客於髮湊浸淫成瘡久之生蟲即乳頭上灸五十壯自愈看其初起者即是頭也(扁鵲心書)

禿瘡

風熱化生蟲騷癢難堪常不疼白癩如錢生髮內此證候白癩小者如豆大者如錢俗名錢癩又名肥瘡多生小兒頭上騷癢難堪却不疼痛日久延漫成片髮焦脫落即成禿瘡(醫宗金鑑)

白禿瘡

生蟲作癢瘡痂高堆是也風襲則起白屑熱甚則禿久則傷孔不生髮也(瘍醫大全)

瘡病諸候

癬候(無毛部白癬)

癬病之狀皮肉隱疹錢漸々增長或圓或斜痒痛有匡郭裏生蟲搔之有汁(病原候論)

狗癬候

俗云狗舐之水洗手面即生癬其狀微白點綴相連亦微痒是也其裏亦生蟲(病原候論)

牛癬候

俗云以盆器盛水飲牛用其餘水洗手面即生癬其狀皮厚抓之韌強而痒是也其裏亦生蟲(病原候論)

圓癬候

圓亦之狀作圓文隱起四圍半赤亦痒痛是也其裏亦生蟲(病原候論)

白癬候

白癬之狀白色碎々然而痒此亦是腠理虛受風風與氣並血澁而不能榮肌肉故也(病原候論)

風癬候

風癬是惡風冷氣客於皮折於血氣所生亦作圓文匡郭但搔抓頑痺不知痒痒其裏亦有

蟲病源候論

正肯堂曰面上風癬初起瘡癩或漸成細瘡時作痛癢發春月名曰花癬女人多生之或生眉目之間久而不愈(癩醫大全)

頑癬

乃風熱濕蟲四者爲患其形大小圓斜不一有乾濕新久之殊風癬如雲朵皮膚嬌嫩抓之則起白屑濕癬如蟲形搔之則有汗出頑癬抓之則全身不痛牛皮癬如牛項之皮抓之如朽木馬癬微癢白點相連狗皮癬白斑相簇外科正宗

白屑風

多生於頭面耳項髮中初起微癢久則漸生白屑疊々飛起脫而又生(外科正宗)

此證初生於髮內延及面目耳項燥癢日久白屑飛起脫去又生(醫宗金鑑)

我邦ニ於ケル本症ニ關スル記載ハ諸書殆ド皆同一ニシテ症候ヲ記セズ唯病名ノミノ如キモノニシテ多ク支那醫書ニ基キシモノナリ

白禿

謂在頭上生瘡有白痂甚癢其上並禿落不生故謂之白禿也(醫心方)

治小兒白禿方白禿之狀頭上白點斑剝初似癬而上有白皮屑生痂生瘡頭髮禿落謂之

白禿(醫心方)

治小兒面白屑方(醫心方)

癬

癬(セニカサ)説文云癬俗云錢加佐乾瘍也(和名類聚鈔)

疥癩(ハタケ)内典云疥癩和名波太介(和名類聚鈔)

之良保世加差(シラホセカサ)之良保世波男女共爾頭頂爾白斑(良爾而白粉吹支髮乎枯而不長後大爾廣支頭普久而難愈者爾附之乎(大同類聚方)

白雲瘡(白禿疹(五體身分集))

風癬(タムシ)風癬痒癬錢瘡(ゼニカサ)ト名ツク物ハ皆田蟲ノコトナリ(外療細整)

禿瘡(シラクボ)赤禿(白禿ト云フ瘡ナリ)或ハカブ(瘡トモ云フ(外療細整))

顔瘡(カオガサ)何ニテモ顔ニ出ル瘡ナリ白屑瘡瘡ヲモクサ(ウロコタツ)ナド云フモノアリ(外療細整)

「しらくも」又「ほーのくそ」又「はたけ」ハ白禿風 Favus ナリト(漢洋病名對照錄)

「はたけ」皮膚甲錯病或鱗甲瘡之類乎淺田宗伯其症ハ黄色或ハ褐色ノ斑點ヲ生シ其點次第ニ蔓延シテ遂ニ數個相合ニ其表面ハ鱗屑狀破裂ニ由テ粉樣ヲ呈シ輕痒ヲ起ス

「いんきんたむし」又「いんきん」腎囊風ニシテ陰股部白癬ナリ(漢洋病名對照錄)

余ハ患者ニ俗稱ヲ質シタルニ越後地方ノ患者ハ黃癬 Favus ヲ「しらくも」ト云ヒ又其ノ他ノモノヲ赤「たむし」ト答ヘタリキ常陸地方ノ患者ニ「はたけ」ヲ示セバ之ヲ「白」たむしト云フ是レ甚ダ趣味アリ且頗ル當ヲ得タル名稱ナルヲ想ハシム而シテ此「はたけ」トハ一般ニ顔面ニ限リタル癬ノ通有名稱ニシテ「しらくも」モ此中ニ算入セシコト疑ヒナク又黃癬白癬ノ共有名稱ナルヲハ明カナリ

今支那ト我邦ノ白癬ニ係ル症候ヲ比較考査スルニ頭部白癬ハ疑モナク支那ノ白禿瘡即チ發爲白禿久則髮落ト云ヒ又ハ白痴如錢ト云ヒ又ハ白痴小者如豆大者如錢ト云ヒ或ハ日久延漫片髮焦脱落スト云ヒ其多生小兒頭上ト云フニ至テハ實ニ部位及ビ形狀且ツ髮ノ光澤ヲ失ヒタル形容ニ焦ノ字ヲ以テシテ灰白色ナル鱗屑ノ鞘ノ如ク附着シアルコトヲ意味スルモノト斷定シ得ラルベシ

我邦ノ記載ニテハ唯醫心方記載ノ白禿之狀上白點斑剝ト云ヒ有白皮屑頭髮禿落スト云ヒ小兒禿瘡ヲ記述シ大同類聚方ノ之良保世加佐ハ即チ頭部白癬ヲ意味シ其部位ヲ頭頂ト云ヒ白斑ニシテ其圓斑ナルコトヲ示シ白粉吹キハ以テ糝糠狀ノ落屑ヲ

想像スベク髮枯レテ不長トハ髮ノ折斷ヲ示シ其蔓延ノ狀況ヲ大ニ廣ク頭部ニ普シト云ヒ經過ノ頑固ナルコトヲ難癒ト述ベタリ是レ蓋シ疑ヒモナク白癬ヲ記シタルモノト見ラルベシ

支那ニ於ケル無毛部白癬ヲ記載セルモノハ皆癬候中ニ網羅シテ或ハ狗癬圓癬白癬牛癬頑癬等ノ字ヲ用ヒタリ而シテ癬ハ其大サ錢以上ニシテ形ハ圓或ハ斜ト云ヒ其圓斑ナル限局性ヲ意味シ圓癬頑癬將タ亦牛癬等ハ恐ラク今日ノ頑癬ニ適當スルガ如ク狗癬風癬殊ニ狗癬ハ小水疱性白癬ヲ意味スルニアラズヤト思ハル又風癬ハ作圓文ト云ヒ不知痛痒ト云ヒ或又如雲朶皮膚嬌嫩抓之則起白屑ト云フガ如キ落屑性白癬ノ記載ニアラザルヤヲ思ハシメ又面上風癬ト云ヒ女人多生之ト云フヲ見レバ是レ恐ラク顔面ノ落屑性白癬「はたけ」ニシテ女子ノ罹病多キヲ云フモ亦余ノ實驗ニ適合スルガ如シ尙ホ白屑風ナル病名アリ多ク頭面又耳項髮中ニ生ズト云ヒ微癢アリ白屑アリ疊々飛起スト云フ又此證初生髮內延及面目耳項ト云フヲ見レバ其蔓延ノ狀態實ニ余ガ例ノ顔面落屑性白癬「はたけ」ニ一致スルガ如シ故ニ白屑風ハ風癬ト同病異名ノモノナラザルナカランカ之ヲ要スルニ癬候中ニ無毛部白癬ハ正ニ含有セラレアルモノト認メテ可ナリ

我邦ニ於ケル無毛部白癬ト見ルベキハ錢瘡、痒癬、安介久差ノ如キハ小水疱性白癬タルコト疑ヒナク疥癩(波太介)又白屑、ウロコツタ等ノ字ハ必ズ顔面落屑性白癬ヲ指セシモノナラン大同類聚方中ノ波多介加差ハ其名はたけ「ナルモ記載ニ依テ他ノ疾病タルコト明カナリ

上記ノ如ク支那ニ於テ已ニ千有餘年前白癬ヲ頭部ノモノト其他ノモノトニ區別シ之ヲ白禿及ビ癬ト命名シ而シテ其癬ヲ又諸種ニ分類シ且ツ皆其病源ヲ蟲ニ歸シ又牛癬、狗癬ノ字ヲ用ヒテ動物ヨリノ傳染ヲモ想像シタルニ至テハ之ヲ今日ノ支那醫學ノ進歩セザルニ比較シテ寧ロ驚歎奇異ノ觀ナクムバアラズ殊ニ外科正宗中白禿瘡ノ註曰此症之因亦有數種ト云ヘリ即チ頭部白癬モ其病源數種ナルコトヲ看破シアリ然リ而シテ白禿瘡ハ必ズ黃癬ヲモ包含シアルコトハ勿論ナルベシト雖モ主トシテ小兒流行性ノモノナルコトヲ唱ヘタルニ見テモ白癬之ガ主タルモノト見做サル其記載簡潔ニシテ善ク其要領ヲ得ルノ一事誠ニ賞揚スルニ足ル

余ノ實驗セル患者例

本邦殊ニ東京及ビ其附近ニ於ケル白癬ノ蔓延流行ノ狀況ヲ推如シ得ベキモノハ獨リ東京醫科大學士肥氏教室ノ統計アルノミ三十二年—四十二年間ノ該統計別表ハ

左ノ如シ之ニ據レバ其患者總計ノ如キモ頗ル少數ナルヲ見ルモ是レ恐ラク頭部白癬(らくも)ノ如キハ中流以上ノ子女ナルカ或ハ家族の傳染ノ猖獗ニシテ特ニ注意ヲ喚起シタル場合ノ外受診セズ無毛部白癬ノ如キ自然治癒ニ委スルカ或ハ又「たむし」ノ妙藥ト云フガ如キ賣藥的療法ニ依頼スル者比々皆然ルヲ以テナラン其臨牀的區別ハ別表ノ如シ

余ガ統計

病別	男女別		計
	男	女	
頭部白癬	四九	五	五四
小水疱性白癬	一一	七	一八
紅斑落屑性白癬	七	三	一〇
頑癬	七	五	一二
白癬性爪甲炎	三	五	八
はたけ	二	〇	二

我邦ニ於ケル白癬ノ臨牀上ノ諸症ヲ見テ殊ニ注目スベキハ日本ニ於テハ西洋ノ如ク寄生性鬚瘡ヲ見ルコト稀ナルニアリ是レ余ノ例ニ於テモ左表大學統計ニ見ルモ

共ニ他部ノ白癬ニ比シテ殆ド皆無ト云フモ可ナルガ如シ又蜂窠様白癬ノ如キモ極メテ稀ナリ屋瓦狀白癬ハ勿論馬來半島特有ノモノナルヲ以テ之ヲ見ルコト少ナキハ敢テ奇トスルニ足ラズ

爪ノ白癬ハ我邦ニ於テモ比較的の多ク實驗スル所ノモノニシテ西洋ニ於テモペリッツァー Pelizzari 氏ハ全白癬ノ十三%、又アルノサン Arnosan ツブライル Dubreuilh 氏ハ八・八%ヲ算ス之ニ反シアンデルソン Anderson 氏ハ百七十八例中ツイト White 氏ハ百八十例中一名ヲモ實驗セザリシト云ヘリコハ恐ラク看過シタルニ由ルナランカ

東京醫科大學皮膚科ニ於ケル寄生性皮膚病ノ統計明治卅二年ヨリ同四十二年

病名	性別		合計	寄生性皮膚病 對總數ニ スル%	皮膚科 外來總 數ニ對 スル%	斷髮菌 性皮膚 病ニ對 スル%
	男	女				
頭部白癬	11	11	22	0.88	0.06	1.77
面部白癬	8	1	9	0.36	0.00	4.60
斑狀及水疱性 斷髮菌性癩疹	25	1	26	2.36	0.00	4.60
菌狀癩疹	1	1	2	0.08	0.06	1.77
合計	46	24	70	0.88	0.06	1.77

水疱性癩疹 菌性癩疹	性別		合計	寄生性皮膚病 對總數ニ スル%	皮膚科 外來總 數ニ對 スル%	斷髮菌 性皮膚 病ニ對 スル%
	男	女				
頭部白癬	11	11	22	0.88	0.06	1.77
面部白癬	8	1	9	0.36	0.00	4.60
斑狀及水疱性 斷髮菌性癩疹	25	1	26	2.36	0.00	4.60
菌狀癩疹	1	1	2	0.08	0.06	1.77
合計	46	24	70	0.88	0.06	1.77

余ガ實驗患者ノ頭部白癬ノ臨牀上所見ヲ記載スルニ先チ大小芽胞菌ニ因スル各特有ノ症候ヲ便宜上摘録スベシ是レ診斷上又治療上必要條件ナレバナリ

小芽胞菌性ハ灰白色圓形ニシテ稍々隆起シ鱗屑アル大小不同ノ斑面ニシテ髮ハ鬆粗ナリ此局部ニアル髮ハ切斷シ又屈曲シテ頭皮上三—五mmマデ灰白色ノ鞘ヲ以テ被ハル炎衝症狀ハ多ク缺如ス

大芽胞菌性ハ髮ノ犯サルルヨリ以前ニ於テ表皮ニ環狀ヲ起コスコト早ク此環狀ハ輕度ニ隆起スルヲ以テ毛ノ短カキ者ニ在ツテハ看過スルコトアリ此環ニハ鱗屑ハ極メテ少ナク且ツ周圍ヨリ稍發赤ス髮ガ脱落セバ病竈ハ健康ニ又清潔ナレドモ髮ノミ依然脱落ス其長サハ小芽胞菌性ノモノヨリ尙短カク太ク且ツ鞘ヲ有セズ多數ハ他ノ皮膚ノ白癬ト併發スルヲ常トス

頭部白癬(しらくも)

形及大サ。通常圓形其最大直徑ハ一・二〇cmヲ算セシモノアリ又橢圓形アリ最小ハ小豆大ナリ又不正形ヲ認ム是レ多クハ隣接セル發疹ト融合シタル結果ナラン波紋狀ニ遠心性ノ環狀圓斑ヲ呈スルモノアリ

髮。局部ノ髮ハ脱落シテ鬆粗トナリ又ハ折斷シテ然ルモノアリ此ノ如キ變化ハ少ナクトモ扁豆大以上ノ病竈ニ於テ甫メテ確認スルコトヲ得髮ハ細クシテ短ク頭皮上三―四mmヲ普通トス且ツ色澤ヲ失ヒ赭色トナリ恰カモ毳毛ノ如キ觀ヲ呈シ其根元ニ於テ灰白色ノ塵埃乃至ふけノ如キモノ之ニ固著シ又全ク鞘ノ如ク之ヲ包ムモノアリ此ノ如キ灰白色ノ鞘ヲ有スル細毛多キ場合ニ患兒全頭部ヲ短カク理髮セルトキハ

遠ク之ニ見レバ禿斑ニアラズ寧ろ限局性白髮ヲ想起セシム唯白髮ニ比シテ其光澤ヲ缺クノミ其落屑性毛鞘ハ普通頭皮上二―三mmマデ達ス此ノ如キ細短ナル毛ハ指ニ挾ミテ拔去スルモ患兒何等ノ痛痒ヲ感ゼズごく容易ニ抜キ得ベシ其際鞘ハ髮ト共ニ抜クルヲ常トスルモ稀レニ髮ノミ抜ケテ鞘ハ頭皮ニ殘留スルコトアリ又病竈モ健髮ノミニシテ脱髮或ハ切斷シテ唯鬆粗トナルノミノコトアリ又時ニハ僅カニ三四本ノ髮ノミ灰白色ノ鞘ヲ有スルヲ認ムルコトアリ故ニ一箇ノ病竈ヲ認メタルトキハ叮嚀ニ全頭部ヲ検査スレバ尙他部ニモ病竈ヲ發見スルモノナリ然レドモ看過シ易キ小病竈ヲ發見スルニハ頭部側方後頭部ハ斜メニ下ヨリ横ニ上方ニ見ルヲ可トス然ラザレバ脱髮ナク鱗屑少ナキ場合ハ之ヲ發見スルコト難シ

落屑。ハ限局シテ多クハ圓斑狀ニ發生シ其色灰白色乃至汚穢灰白色ナリ時トシテ厚ク且大ニシテ鱗屑狀ノモノアリ普通ハ細小ニシテ糝糠狀ノモノトス比較的頭皮ニ固著スルヲ常トシふけノ如ク飛散セズ又其落屑瀰漫性ノコトアリテ特有ノ圓斑ヲ呈セザルコトアリ其孰レヲ問ハズ落屑ハ必ズ毛髮ヲ中心トシテ増大蔓延シツツアリ又灰白色ノ落屑厚ク堆積シテ痂皮ヲ呈スルモノアリ又稀ニ脂漏性様ノ痂皮ヲ作ルコトアリ又禿髮部ハ圓斑ヲ呈シ落屑著明ナラズ恰カモ圓形禿髮ノ初期ノ如キ

觀ヲ呈スルモノアリ

頭皮。患部ハ普通多少ニ關ハラズ健康皮膚部ヨリ稍々隆起スルノ觀アリ、又全ク落屑以外何等變化ヲ認メザルコトアリ、或ハ輕度ニ發赤スルコトアリ、此際ハ殊ニ病竈周縁ニ於テ著明ナルヲ多シトス、又落屑ヲ剝離セバ其下ニ輕度ノ發赤ト、僅カニ認知シ得ベキ濕潤トヲ呈スルコトアリ、此ノ如キハ殊ニ固著セル落屑ヲ剝離セル時ニ認ムル場合多シ、又小膿疱ヲ認ムルコトアリ、此ノ如キモノニアリテハ必ズ其局部ノ邊縁ニ小水疱ヲ形成スルモノナリ、從テ邊縁ハ稍々隆起ス、又蜂巢樣白癬ニ於テハ皮膚ハ腫脹發赤シ濕潤、糜爛膿疱、結痂ヲ作り、厚キ痂皮ヲ形成シ、一ノ扁平ナル軟カキ腫瘍ヲ生ス、一般ニハ發病當初ハ粟粒大乃至麻實大ノ結節或ハ疹ニシテ多クハ帶黃淡紅色ヲ呈シ、容易ニ落屑ヲ形成シテ特有ノ病竈ヲ呈スルモノナリ、頭皮ニ搔抓ノ痕跡ヲ呈スルコトハ稀レナリトス

部位。大ナル局部ヲ認ムルハ顛頂部最モ多ク、次テ顛顛部、額部、後頭部ノ順序トス、病竈多發スル所モ亦顛頂部ナリ、後頭ノ發疹ハ其數極メテ少ナシ、頂部ニ於テ殊ニ然リ、自覺症。多數ノ患者ハ搔痒ヲ訴ヘザルヲ例トス、若シ搔痒アル時モ極メテ輕度ナリ、例外トシテ二三患者ハ甚ダ之ヲ訴ヘ、搔抓シタル爲メ血痂ヲ認メタル者アリ、蜂巢樣

白癬患者ノ搔痒アルハ勿論ナリ

顔面落屑性白癬「はたけ」又「白たむし」

臨牀上ノ處見ヲ記述スルニ先チテ病歴三四ヲ掲ゲントス

宇山某 八歳 診斷 「はたけ」

既往症ヲ其ノ母ノ言ニ徵スルニ患者ノ近隣ニ本症ノ如キモノヲ患フル者ナシ、患者ハ四五年來前額部ニ現今ト同様ノ發疹ヲ生シ、後チ後頭部、上膊、肩胛ニ「ふけ」ノ如キ大ナル落屑ヲ生シ自然治癒シ、毎年春季ニハ何等ノ原因ナク突然圓形ニ發赤シ、後チ腿色シテ此ノ如キ白屑ヲ生ズ時ニ搔痒ヲ訴ヘ爲メニ搔抓シテ稀ニ出血點ヲ認ムルコトアリト

中山某 十七歳 診斷 「はたけ」

七八歳ノ頃ヨリ左右頰部及ビ左口角ニ約一錢貨大ノ圓形ノ糝糠樣落屑ヲ有スル、發疹ヲ生ジ爾來時々自然ニ治癒シテ再發ス、季節ニ關係ナキガ如キモ春夏ノ候再發スルコト多シグリセリンヲ塗布セバ日ナラズシテ容易ニ治癒スト

山口某 十二歳 「はたけ」

患者曰ク昨年四月頃左口角、鼻唇溝部及ビ頤部ニ爪大ナル枇糠狀落屑ヲ有スル圓斑アリ治療ヲ加ヘズシテ治療シ只輕度ノ瘙痒ヲ覺ユルノミ今年一月再ビ此發疹ヲ生ジ自然ニ治療シ更ラニ四月中旬再發セルモノナリト

本患者ハ余ガ「はたけ」ト診斷セルモノヨリ白癬菌ノ純培養ヲ得タル第一患者ナリ

木村某 九歳 「はたけ」

右耳外側ニ二錢貨大ナル健康皮膚ニ比シ稍々潮紅セル圓斑アリ薄キ大ナル白色鱗屑ヲ被ムル

宇山某 八歳 「はたけ」

頸部ニ二個ノ爪大白斑狀ノ部位アリ肩胛及ビ上膊ニ於テ大ナル落屑ヲ有スル不正形ノ手掌大以上ノ斑面アリ其色澤等更ニ變化ナシ

井上某嬢 十八歳 「はたけ」

患者曰ク十五歳以來「はたけ」ニ罹リ時トシテ蔓延シ顔面爲ニ赤肌ノ如ク紅ヲ呈スルコトアリ又時ニ全治セシガ如ク輕快スルコトアリ醫治ヲ受クル約十日ニテ治愈スルモ再發容易ニシテ根治シタルコトナシト僅カニ瘙痒ヲ覺ユト云フ

形及大サ、病竈ハ大小種々ニシテ小ナルモノハ粟粒大ヨリ大ナルモノハ徑六cmニ

達セシモノアリ(附表第一ノ二圖)形ハ圓形ヲ多シトスレドモ又橢圓形ノモノアリ色素減少シテ白色ニ見ヘ健康皮膚ニ比シ稍々光澤ヲ帶ビ一見白斑ノ如キ觀アルモノアリ即チ唯皮膚ノ蒼白トナリシ外、異狀ヲ認メザルモノアリ

落屑。局部ハ普通枇糠狀ノ白屑ヲ被ルノミニシテ更ニ隆起等ヲ認メズ之ヲ爪ニテ輕ク搔抓スルモ剝離癩風ノ如ク容易ナラズ(支那ノ所謂白屑風?)又比較的褐色ニシテ大ナル鱗屑ヲ被ムルコトアリ(我邦病名中ニ舉ゲタル白屑或ハ「ウロコタツ」或ハ淺田宗伯ノ所謂皮膚甲錯症ナド皆顔瘡中ニ記シタルヲ見レバ此「はたけ」ニ一致スルモノニアラザルナキカ「ウロコタツ」ハ鱗立ノ意ニシテ落屑ノ鱗狀ニ見ユルヨリ命名セシニ非ルナキカ)發病當初ハ稍々潮紅スル小結節ニシテ其周縁ニ枇糠性ノ落屑アリ漸ク増大シテ爪大ニ達スレバ此ノ發赤セル發疹ヲ認メザルヲ常トス婦人ノ如キ化粧洗顔ノ頻繁ナル爲メ落屑剝落シテ病竈ハ却テ限局性圓形ヲ呈スル光澤アル潮紅ヲ認ムルノミナルコトアリ又病竈周圍ニハ決シテ水泡或ハ結節等ナシ落屑ノ性状モ部位ニ從ヒ多少ノ差違アリ眉毛髮際及ビ口圍ニ發生セルモノハ多クハ枇糠狀ナルモ頰部ニ發スルモノハ鱗屑狀ニシテ比較的大ナルコトヲ實驗セリ耳ニ來タルモノモ亦比較的大ナル落屑ナリトス

部位。最モ注意スベキ點ハ即チ好發部位ニシテ眉毛附近、眼ノ外側ニ多ク發生シ次テ口圍、頤部、頰部、前額部ナルコトヲ實驗セリ殆ンド侵襲ヲ蒙ラザル部位ハ眉間及ビ鼻梁ナリ時ニ頸部ニ於テハ限局セル圓斑ニシテ毳毛下端即チ皮膚ニ接シタル箇處ハ落屑ヲ被ムリテ一種苔癬様ノ外觀ヲ呈シ其色蒼白紅色ナリ耳ノ病竈ノ如キモ注意セザレバ看過スルコトアルベシ。

自覺症。殆ンドナシ患者ノ之ヲ自覺スルハ洗面ニ當テ其部位ノ粗糙ヲ觸ルルトキニアリ時ニ輕度ノ搔痒ヲ覺ヘ搔抓スルニ際シ白屑ノ飛落スルヲ以テ甫メテ注意スルガ如シ之ヲ要スルニ色素ノ減少(蒼白トナルコト)ト落屑トノ外更ニ續發症狀ヲ惹起シタルモノヲ認メタルコトナシ

無毛部白癬(たむし)

無毛部ノ白癬ハ大體ニ限局性ト播種性トニ區別セララル限局性ハ最モ屢々手、背部、頸部、前膊又鼻、耳ニモ來タル其形圓形ニシテ鮮紅色ヲ呈シ邊緣ハ隆起シテ小水疱或ハ結痂アリ中央ハ時ヲ經ルニ從ヒ治癒ノ傾向ヲ呈シ且落屑ヲ伴フ然レドモ附近ノ圓斑ト融合シテ不正形ヲ呈スルコトアリ決シテ化膿ヲ來

タスコトナシ手掌ニモ發生スルコトアリ又全ク濕疹狀ヲ呈シテ發病スルコトアリ耳、頸部、前額等ノ發疹ハ頭髮ニ移行スルコトアリ又搔抓シテ他部ニ新病竈ヲ發生スルコトアリ搔痒ハ中度ニ存ス
播種性ハ最モ急性ニ發生シテ初メハ一ノ丘疹ナルモノ其中央ニ小落屑ヲ戴キ容易ニ遠心性ニ増大シ之ト共ニ中央部ハ治癒ニ傾キツツ以前ノ丘疹性ハ漸次ニ變化シテ爰ニ特有ノ輪狀ヲ呈ス普通犯サル所ハ胸部、腹部次テ手、頸部及ビ顔面、頭部トス搔痒ハ劇シキヲ常トス

頑癬

初メハ扁豆大ニシテ紅色ニ且落屑アルモノ二週以内ニ擴大シテ二錢貨大ニ達シ其中央ハ稍々陷沒シ其邊緣ハ非常ニ高ク恰カモ堤狀ニ周圍ト明劃ニ境界ス而シテ其中央ハ漸次落屑ヲ伴ヒテ自然治癒ニ趣キツツアルモノ周圍ハ小水疱小結節或ハ其乾燥セル結痂アリテ恰カモ普通ノ環狀白癬ノ如シ然レドモ其特異トスル點ハ更ラニ自然治癒ノ傾向ヲ示サザルト堪ヘ難キ搔痒ト共ニ新タニ小結節ヲ生ジ且其ノ一端治癒セル如キ中央部ニモ新發疹ヲ來タスニアリ特ニ部位ハ最モ多キヲ陰股部、陰囊ト

シ之レニ次グヲ頸部トス
此無毛部白癬ハ上記ノ如キハ模範定型的ノ證候ニシテ必シモ常ニ此ノ如クニハア
ラザルナリ從テ其症候多種多樣ナリ今左ニ實驗ノ數例ヲ摘録シテ之ヲ證セン

柳澤某 十二歳學童 小水疱性白癬

左頰部ニ五十錢貨大赤色蛇目形ノ環狀ヲ呈シ一見光彩膜様紅斑 Erythema iris ト
誤診シ易キモノナリシ其環ハ皮膚面ヨリ隆起シ皆小水疱及ビ結痂ヨリ成ル中心
部ハ全ク健康皮膚ナリ搔痒ハ輕微ナリト云フ(附表第二ノ一圖)

木村某 五歳 紅斑落屑性白癬

左耳迎珠部ニ二錢貨大ノ灰白色糝糠狀ノ落屑ヲ有スル環アリ其中心部ニ相當ス
ル所ハ僅カニ赤色ノ結節アリ邊緣ニハ稍々大ナル落屑ト薄キ結痂アリ輕症ナル
蛇行性膿疱疹ノ邊緣ヲ想起セシム搔痒甚シク常ニ搔抓シツツアリト云フ

高橋某 二十八歳乳母 小水疱性白癬

木村某五歳ノ乳母右下顎骨隅ニ相當シテ二個併列セル五厘貨大ノ帶黃紅色ノ楕
圓形ノ發疹アリ然レドモ全圓ナラズシテ恰カモ三個ノ弧線ヲ以テ一環ヲ形成セ
ントスルガ如シ其環ハ小水疱落屑アリ中央ハ何等ノ變化ナシ甚シキ搔痒アリト

云フ

小澤某 二十一歳看護婦 小水疱性白癬

右乳房上ニ皮膚面ヨリ隆起セル一錢貨大鮮紅色ノ發赤アリ中央ハ邊緣ヨリ稍々
陷凹スルヲ認ムルノミ邊緣ヲ精査セバ小水疱ノ簇生シアルコトヲ認メラル搔痒
甚シカラズト云フ

須釜某 十七歳鋸職 紅斑落屑性白癬

本患者ハ頭部ヨリ足趾ニ至ルマデ全身ニ同様ノ發疹アリ頭部ニハ白癬アリ顔面
ニハ「はたけ」アリ手掌足趾ハ肥厚輝裂セル恰カモ手掌足趾角化症ノ如キ狀ヲ呈シ
下肢ノ前後面ニハ小ハ爪大ヨリ大ハ手掌大ニ達スル限局性ニシテ稍々隆起シ其
形モ亦多樣ナル發疹アリ一見恰カモ慢性斑面性濕疹ノ觀ヲ呈ス臀部ノ疹ハ概テ
一錢貨大乃至手掌大圓形或ハ橢圓形ニシテ共ニ糝糠狀落屑ヲ被ムリ或ハ又大ナ
ル鱗屑狀ノモノアリ糝糠狀ノモノハ「はたけ」ニ酷似ス左肩胛部及ビ左肘部ニハ白
斑狀ニ色素減少セル一錢貨大圓形ノ斑ヲ認ム搔痒甚シカラズ手掌足趾ノ如キハ
輝裂ノ爲メ職業ニ從事シ得ズ三四年前ヨリ手掌足趾ニ此ノ如キモノヲ認メタリ
全身ノモノハ漸次ニ發生セルヲ覺ユト

太田某 十九歲學生 頑癬

陰股部ヨリ會陰臀部ニ亘リテ廣キ模型的頑癬アリ左膝蓋外側及ビ左腓腸部ニ手掌大ノ發疹アリテ特有ノ環狀白癬ヲ呈セリ右乳房及ビ右鎖骨下部ニハ橢圓形ニシテ二錢貨大ノ斑面アリ其色暗赤色ニシテ落屑水疱等ヲ認メズ腓腸部及ビ膝蓋部ノモノハ水疱性白癬ノ特徴ヲ呈セリ之ニ反シ乳房部鎖骨部ノモノハ落屑ナク恰カモ斑面性濕疹ノ如シ

伊藤某 二十七歲學生 小水疱性白癬

陰囊正前面ニ橢圓形天保錢大暗赤色ノ環アリ環ノ幅ハ約半cmニシテ厚キ黃色ノ痂皮ヲ被ムリ包皮ニハ不正圓形ノ一錢貨大ノ環狀ヲ呈ス其色帶黃赤色ナリ水疱等ヲ認メズ瘙痒モ亦缺如セリト云フ

川名某 二歲 小水疱性白癬

顔面中右鼻翼ヨリ頰部ヲ經テ右口角ニ亘リ天保錢大ノ環ヲ畫シ其環ヲ距ル約一cmニシテ更ラニ中層環アリ更ニ又一cmヲ距テテ中心環アリ其環ノ幅ハ $\frac{1}{2}$ cmニシテ厚キ痂皮ヲ被リ之ヲ剝離セバ出血ヲ認ムル箇所アリ頭部ニ於テハ後頭部ニ三個ノ五厘貨大圓形紅色ニシテ灰白色ノ鱗屑及ビ薄キ痂皮ヲ被ムル所アリ一部

ハ發疹互ニ融合シテ不正橢圓形ヲ呈ス脫髮等ナク頭部白癬ノ特有證候ナシ顔面ノ發疹ハ瘙痒アルモノノ如ク常ニ搔抓セントシツツアリト云フ

山岸某 二十四歲歩兵 小水疱性白癬

兩頭部ニ數個ノ扁豆大乃至五厘貨大ノ發疹アリ水疱ハ殆ド一列環狀ニ配列シ其中央部ハ健康皮膚ト異ナラズ左肩胛骨下部ニ不正圓形ニシテ皮膚ヨリ隆起セル慢性濕疹ノ如キモノアリ臀部ニハ亞急性濕疹ノ如キ觀ヲ呈スル發疹アリ其境界明劃之ヲ精査セバ水疱ヲ認ム左右兩手ハ共ニ拇指ヨリ手背ニ亘リ限局性角質増殖症ノ如キ觀ヲ呈ス

高野某 三十四歲婦人 小水疱性白癬

右前膊內側ニ正圓形ナル爪大ノ四個ノ發疹配列シ圓斑ヲナス帶黃赤色ニシテ中央ハ邊緣ヨリ稍陷凹ス落屑ノミニシテ水疱ヲ認メズ甚シキ瘙痒アリト云フ

小林某 二十歲職人 水疱性白癬

兩耳前一指橫徑ニ於テ相對性ニ二錢貨大ノ大小不定ナル一列ヨリ成レル水疱性環狀發生シ水疱ノ内容透明ナリ其後方ニ隣接シテ「はたけ」ヲ認ム本人ハ嘗テ七八歲ノ頃ヨリ「しらくも」ニ罹リシコトアリト云フ本症ハ三日前輕度ノ瘙痒ト共ニ兩

耳ノ位置ニ一錢貨大ノ環狀ノ水疱ヲ發生シ緊脹シテ一種牽引様ノ感アリシト云フ(附圖第二表二圖)水疱ノ周圍ニハ肉眼的ノ變化ヲ認メズ尙精査セバ左顳額部ニ於テ限局性ニ灰白色ノ落屑ヲ有スル部ニ箇所ト左耳輪ニ「はたけ」アリ口角及ビ頰部ニ枇糠狀落屑ヲ被ムル部即チ「しらくも」ヨリ「はたけ」ハ「たけ」ヨリ水疱性白癬ヲ惹起セルコトハ臨牀上ノ傳染徑路ト見做シ得ベシ其純粹培養ニ就テハ同僚博士田中友治氏之ヲ得テ皮膚科學會ニ報告セラレタリ而シテ大芽胞菌性白癬タルコトヲ知レリ

水疱性白癬 *Herpes tonsurans bullosus* ハ稀有ノ症ニシテヤーリツシ氏此病名ヲ特記セリ

小林某 十一歳學童 小水疱性白癬

右頰部ニ一圓貨大ノ小水疱及ビ小結節ノ集簇アリテ稍發赤ス其周圍ニ細キ赤色ノ邊暈アリ頰部ノ毳毛ニ一致シ其根部ニ白色ノ落屑ヲ有スル二錢貨大ノ「はたけ」アリ

齊田某 十歳學童 小水疱性白癬

右頰部ニ徑六cm大ノ圓斑アリ之ヲ精査セバ二層環ヨリ成ル外層環ハ幅〇・五cm帶黃赤色ニシテ稍々橢圓ナリ厚キ痂皮ヲ有ス中心環ハ一錢貨大ニシテ唯僅ニ帶黃

赤色ヲ認ルノミ兩環ノ中央ニ小結節及ビ小水疱ノ不定配列ヲ認ム

大石某 二十八歳婦人 小水疱性白癬

其女兒ヨリ感染セリトテ左腕關節尺骨突起部ニ二錢貨大ニシテ周圍ハ小水疱中尖部ハ結節及ビ輕度ノ落屑ヲ伴ヘル紅色ノ圓斑アリ搔痒甚シト云フ

中村某 十三歳學童 小水疱性白癬

左頰部ニ徑約八cmノ紅色圓斑アリ中央ニ又一層ノ環ヨリ成ル徑約三cmノ圓斑アリ村越ふく 十八歳 手ノ頑癬

左右手掌ヨリ手背ニ亘リ角質増殖症ノ如ク皮膚肥硬且ツ乾燥シ延ヒテ腕關節部ニ至リ該部ニ於テ邊縁堤狀ニ隆起シ僅カニ浸潤アリ厚キ表皮ノ剝離スルヲ認ム搔痒甚シト云フ

本患者ハ爪及ビ無毛部白癬ヨリ純粹培養ヲ得タルモノノ第一者ナリ

河野れん 二十一歳 手ノ頑癬

左中指環指小指ノ間ヨリ手背腕關節ニ亘リ境界不明ノ慢性濕疹狀ヲ呈シ精査セバ小結節ヲ認ムル發疹アリ恰カモ慢性ノ職業性濕疹ヲ想起セシム

爪ノ白癬

原發性ニ來タルコトナキニアラザルモ殆ンド他ノ部位ニ續發スルヲ例トス然シ一定ノ素因アルモノノ如シ爪ニ刺戟ヲ與ヘ又ハ指ノ濕疹等爪ニ波及セル場合ノ如キハ菌ノ侵襲ヲ蒙ルニ便ナルニヨルコトアルベシウンナ氏ハ病初ハ前方乃至側方ノ邊縁犯サルルヲ常トスト云ヘリデブルイル氏ハ三型ヲ記載セリ第一型ハ二層アリ其ノ一層ハ硬ク象牙様ニシテ一層ハ軟カク朽木ノ如シ此型ノ者ハ爪ガ横ニ彎曲スルモノナリ第二型ハ爪ノ剝離或ハ一部ノ破壊ヲ來タス第三型ハ爪ガ菲薄トナリ又短クナルモノナリト云ヘリ色ハ帶黃白色ナルヲ普通トス然レドモ其形狀ハ實際上實ニデブルイルノ三型ヲ混合セルモノヲ多シトス左ニ其ノ一二例ヲ掲ゲン

村越某 十八歲婦人

左右ノ爪皆一見帶黃灰白色ニシテ爪ノ横徑ニ凸凹不平ヲナシ一部剝脫セル所アリ或ハ又爪ノ縱徑ニ線狀ノ皸裂ト隆起ヲ生ズル所アリ其ノ菌ノ巢窟ハ單ニ黃色ノ線狀ヲ呈シ乃至點狀ヲ示シテ爪固有ノ光澤ヲ失フ

河野某 二十一歲婦人

左拇指、中指、小指ノ爪ハ一般ニ肥厚シテ粗糙トナリ殊ニ爪端ハ小板狀ニ分裂シテ一部剝脫セル處アリ其爪ノ厚サハ健康ノ者ヨリ大ニ厚ク約五六倍ヲ示ス精査スレバ爪ノ表層下ニ帶黃灰白色ノ部アリ

小岩某 十九歲婦人

右手ノ爪ノ變色ハ帶黃ナラズ寧ロ白色ナリ又左示指爪甲ハ僅カニ點狀ナル光澤ヲ失セル部アリ又爪緣ハ凡テ肥厚シ且黃色ノ恰カモ痂皮ヲ被ムリシ如ク爪端粗糙ナリ爪ノ厚サハ約三倍トナリ凸凹不平一様ナラズ

白癬性毛瘡

本症ハ已ニ歴史ノ部ニ於テ記述セル如ク最モ古クグルビー氏ニ依テ發見セラレアリ氏ハ之ヲ *Microsporon Mentagophyte* ト唱ヘタリ佛國ニテハバザン氏獨乙ニテハケブネル氏等ハ寄生性毛瘡ニ著目シ研究セリ而シテ學者間ニ於テモ此白癬性毛瘡ナル疾患ヲ認定セザルモノアリ又稀有ナリトスル者アリ又非常ニ屢々遭遇スル者ナリトセル者アリ

症狀ニニアリ一ハ乾キタルト一ハ化膿セルトナリ又此化膿ニ表在性ト深在性トヲ區別ス病初ハ白癬固有ノ如ク普通ハ輪狀ニ稍隆起シ其邊緣ニ小水疱アリ輪ノ中央ハ落屑アリ一タビ或刺戟ノ爲メニ急ニ深在性ノ者トナルヤ毛ノ周圍ニ第一著ニ小膿疱ヲ形成シ容易ニ膿ヲ漏シ乾固シテ結痂ス此時ハ組織ノ深部ニ浸潤アリ毛囊ハ擴大シ又結節ヲ形成ス同時ニリンパ腺腫瘍ヲ併發スルトキハ一種ノ腫瘍狀ヲ呈スルニ至ル之ヲマヂョチーMajocchi氏ハ白癬菌腫 Granuloma trichophyticumト云ヒシナリ然レドモリンパ腺ニハ菌ノ竄入ナク一ノ化膿菌アルノミ往々惡性腫瘍ト誤診スルコトアリサブロー氏ハ其症狀及ビ病菌ヲモ區別シテ四種トセリ即チ(一)蜂窠樣 Kerion Sycosisトナルモノ(二)乾キテ落屑アル輪ヲナスモノニテ毛囊ハ圓錐形ニ腫脹シ毛ハ其中央ヲ貫通シ最モ頑固ニシテ治療スルモ年餘ヲ要ス(三)膿疱性ノモノ(四)固有學童白癬ノ症候ト同ジモノトセリ

屋瓦狀白癬

本症ハ馬來半島ニ屢々見ルモノニシテ眞ニ稀有ナレドモ歐洲ニモ報告アリ我日本ニ於テハ臺灣島ニ於ケル本症ニ就テ青木大勇君ノ報告アリ左ニ摘録ス

其症候ハ名ノ如ク主トシテ背胸腹及ビ肩部ニ僅カノ彎曲ヲ有スル屋瓦狀ニ層重セル輪ヲ皮膚上ニ形成ス其鱗屑下ノ皮膚ハ其輪ト輪トノ間ノ皮膚ヨリモ發見ス頭部ヲ除キ全身ヲ侵襲シ最モ慢性ノモノナリ菌ハ患部ニテ容易ニ發見スルヲ得マンソン Manson 氏ハ此菌種ハ毛ヲ侵スヲ厭フモノナラント云ヘリ

今本邦ニ於ケル本症候ニ關シテハ青木君ノ報告ヲ假ラントス其一節ニ曰ク臺灣ニ於ケル本病ニ就テハ余ガ實驗シタル六症例以外ニ和辻學士ガ明治三十二年五月東京醫事新誌ニ臺灣五指山マイバライ社ニ於ケルブラスナル一種ノ皮膚病ニ就テト題シ報告セラレタル症例ヲ記憶ス而シテ和辻氏ハ症例ニ糠狀落屑ヲ來タスト云ヒ又白色ノ斑點ヲ成スト云ヘリ然レドモ余ハ成書ニ依リ又余ノ實驗ニ徴シテ糠狀落屑ト云ヘルコトヲ絶對的ニ否認シ鱗狀落屑ナルヲ確認スル者ナリ而シテ和辻氏ガ白色ノ斑點ト云ヘルコトモ余ヲシテ甚ダ不穩當ナル形容ニアラザルヤヲ疑ハシムル所ニシテ寧ロ波紋狀殊ニ圖上山脈ノ卷線ニ類スル形ヲナシ而カモ全部白色ト稱スベキニアラズシテ只内側ニ向ヘル部ノ剝離セル部分ノミ白色ナルコトヲ認メ其ノ未ダ剝離セザル部分ハ寧ロ褐色ニ近キヲ信ズルモノナリ蓋シ其一般ハ極メテ本病ニ酷似スベケレバ悉ク本病ナルコトヲ是認シ得ベカラザルニアラズ暫ク記シテ

疑ヲ存シ、他日同地方ノ調査ヲ行ヒ後チ重ネテ述ブル所アルベシ。又氏ノ説ク所ニ據レバ同地方ノ蕃人中本病ニ冒サル者多數ナリト、若シ果シテ信ナランカ臺中地方ニ於ケル一流行地ト稱セラルル公館庄ト相俟チテ一流行地ト稱スルヲ得ベケン。然レドモ想フニ余ガ今日ニ至ルマデノ實驗例ニ據レバ必ズシモ同家族ニ又同地ニ限ラレズシテ無關係ナル場合多シ(本病患者ノ甥ニ本患者アリト稱スルモ實見セザレバ云々スル能ハス)是ニ由テ考フレバ本病ハ縱令傳染シ得ベシトスルモ其傳染力ハ極メテ薄弱ニシテ餘程ノ要約例ヘバシンメルビルツノ發育ニ適當ナル皮膚ノ汚穢、不潔濕氣ヲ備ヘ一方ニ於テハ頻回ノ觸接ト云ヘル事實ヲ具有スルニアラザレバ困難ナルモノノ如ク其關係ビチリアジス、ウエルジコロールニ類似シ而カモ其傳染力ハ尙薄弱ナリト云フベシ(臺灣ニテハビチリアジス、ウエルジコロールノ極メテ汎キ蔓延ヲ有スルニ拘ハラズ本病ハ極メテ少シ)

口腔粘膜ノ白癬

千八百九十五年アレキサンドロ、ギレッチー Alessandro Gilletti 氏ガ青年ノ一男子ノ硬口蓋、頰部ノ内側及ビ下唇ノ粘膜ニアリシモノヲ報告システルン Stein 氏ハ口腔粘膜ヲ犯

カセシニ例ヲ報告セリ其一例ハ下唇縁ヨリ二cm 粘膜ニ亘リテ環狀ヲ他ノ一例ハ頰ヨリ頰部粘膜ニ移行セル者ニシテ共ニ少數ノ菌ヲ證明セリト云フ

夫レスノ如ク白癬ノ症候ハ種々ニシテ必シモ特有ノ徵候ヲ呈セズ殊ニ手ノ頑癬ノ如キハ其觀察ヲ精密ニセザレバ慢性ノ濕疹ト誤診スルコトアルベシ頭部白癬ノ如キモ小病竈ニ於テハ然リトス余ガ東京ニ於テ實驗シタル白癬患者中獨リ毛瘡ヲ缺ケリ獨逸佛國ニ於テハ白癬性毛瘡患者比較的多數ナルニ反シ東京ニテハ實ニ稀有ナリ要スルニ土肥氏教室ノ統計ニ徵スルモ白癬性毛瘡ハ實ニ少數ニシテ日本少ナクトモ東京及其附近ニ於テ鬚髯部ニ寄生スル白癬ノ少ナキコトハ大ニ流行病學上又菌性上一ノ注意スベキ事實ナリトス

白癬ノ經過

頭部白癬ハ一般ニ其治癒最モ困難ナリトス殊ニ小芽胞菌性ノモノハ經過長クヤーリツシ氏ハ八年間持續シタル者ヲ實驗セリト云フ然レドモ成書ニ於テモ已ニ春機發動期ニ至レバ自然ニ治癒スルコトヲ唱道セルガ如ク十歳以上ノ者ニ於テ頭部白癬ヲ見ルハ稀有ナルコトニ屬ス此少年ヲ犯カスモノハ主トシテ小芽胞菌ニシテ大

芽胞菌性ノ頭部白癬ハ之ヲ青年ニモ認メタルコトヲ報告セル者アリサプロー氏ハ十五歳乃至十八歳ノ者ニ認メタルコトアリドクトルトラツクスレル Dr. Treloster 夫人ハ千八百九十八年十一月ノ患者中九人ハ二歳乃至十二歳ニシテ二人ハ二十歳ナリシコトヲ報告セリニコラウ Nicorau 氏ハ千九百年ブカレスト及ビ其附近ニテ四十五例ノ頭部白癬ヲ實驗シ中三十八童子十五ハ女兒ニシテ年齢ハ四歳乃至十二歳ナリシモ其後更ニ十九歳ノ青年ニ頭部白癬ト顔面白癬ノ併發セル者ヲ見タリト報告セリ軀幹ノ白癬中ニテモ小水疱性紅斑性ノ如キハ自然治癒アルモ頑癬白癬性毛瘡屋瓦狀白癬ノ如キニ至ツテハ經過最モ長ク殊ニ爪ノ白癬ノ經過長キガ如キハ其組織的關係ヨリ見ルモ固ヨリ當然ナリトス今左ニ余ノ患者ニ就キ發病以來余ノ診斷ニ至ルマデノ經過ニ就キ其ノ最長最短ヲ試ミニ一表トセバ即チ左ノ如シ

經過表

病別	經過年別	
	員數	平均
頭部白癬	五四	六年
小水疱性白癬	一八	十年
		最短經過
		一日
		平均
		九 月

病別	經過年別	
	員數	平均
紅斑落屑性白癬	一〇	三月
頑癬	一二	十四年
爪ノ白癬	八	十年
はたけ	三一	八年
		最短經過
		五日
		平均
		一ヶ月半

又病類ニ依リ年齢別ヲ一表トセバ左ノ如シ

年齢表

病別	年齢別	
	總人員	平均
頭部白癬	五四	二十歳
小水疱性白癬	一八	三十四歳
紅斑落屑性白癬	一〇	二十六歳
頑癬	一二	五十五歳
爪甲白癬	八	三十一歳
はたけ	三一	二十六歳
		最少年齡
		三 歳
		平均
		八 歳

右表ノ如キ固ヨリ患者ノ醫治ヲ乞ヒシ時期其治療ノ良否ニモ關シ差違アルヲ以テ必ズシモ之ヲ信憑スベキ價値アルモノトスルニ足ラズト雖モ其ノ年齡ノ如キ頭部白癬ハ實ニ平均十歳以下ノ幼年者ニ好發スル者ナルコトヲ知ルベク春機發動期ニ近ヅクニ從ヒ自然治癒スルコトモ疑ヒナキモノナリ高橋眞琴氏ハ盛岡市及ビ其附近ノ學童ニ就キ頭部白癬ヲ調査報告セルガ其年齡ハ十歳ノ者ヲ最多トセリ又其經過ニ於テモ平均六ヶ月ヲ費サザル可カラザルヲ知ルベシ

頑癬ノ如キ余ノ患者ニテモ平均四年一ヶ月ヲ費シ爪甲炎ノ如キ三年半ヲ要セシハ當然ナリト謂フベシ

頭部以外ノ無毛部ニ來タリシモノハヤーリツシ氏ノ所謂淺在白癬ニシテ自然治癒スルコトアリ經過モ亦從テ速カナリ小芽胞菌性白癬ハ右表ニ於テ九ヶ月ヲ示スハ是レ十年ノ再發ヲ訴シモノアルヲ以テナリ故ニ之ハ探ルニ足ラズ爪及ビ鬚髯部ノ白癬ハ解剖的組織ヨリ考フルモ其經過極メテ緩慢頑固ナルコトハ想像ニ餘リアリ

診 斷

頭部白癬ニシテ學童年齡ニ來タリ細短ナル毛髮ニシテ皮膚表面ニ四—五mmノ長サ

ヲ有シ塵埃ヲ蒙リシガ如ク灰白色ノ鞘ヲ以テ包裡セラレ「ピンセット」或ハ爪ニテ抓ミ抜クモ容易ニ抜ケ其毛ハ殆ド色素ヲ失ヒタル如キモノハ是レ肉眼的ニ特有ノ小芽胞菌性白癬ト診斷シテ誤リナキガ如シ然レドモ此特有ノ落屑性毛鞘ヲ有セズ又毛髮端ヲ皮膚上ニ示サズシテ禿髮ヲ來タシタル者ニアリテハ圓形禿髮ト誤診ヲ來タス場合ナキニアラズホルボルン Holborn 氏ハ圓形禿髮ノ寄生性ナルコトヲ研究シ「トリコフィトンウアデニス」Trichophytonradus ト云フ絲狀菌ヲ發見セシコトアリ又實ニ稀ニハ白癬後圓形禿髮ヲ來タス例アルヲ以テナリ千九百九年ハッチンソン Hutchinson 氏ク ロツカー 氏 Crocker 氏等ハ圓形禿髮ハ實際吾人が想像スルヨリ一層多ク白癬ニ由來スルモノナリトセルガ如シ此場合ニ於テハ勿論鏡檢ニ依ラザル可カラズ即チ皮下ニ隠レタル髮ヲ拔キ鏡下ニ照ラセバ其毛根鞘ニ芽胞ノ存在ヲ確認シ得ベシ

脂漏性禿髮 Alopecia Seborrhoicum トノ鑑別トシテハ乾性且ツ急性ニ限局性脫髮ヲ來スモノハ其毛髮ノ細短ト毛鞘ノ有無ニ因ルベク又脂漏性ノ禿髮ハ寧ロ壯年者ニ多クシテ十歳前後ノ者ニ見ルコト稀ナリ然レドモ確診シ得ザルトキハ固ヨリ鏡檢ノ外ナシ蜂巢様白癬ハ其臨牀的症候特有ニシテ殆ド他ト誤診スルコトナシ即チ小兒癩

症 Frankulosis ノ如キハ局部ノ一腫瘍ニシテ本症ノ如ク小結節ヲ集簇スルコトナシ又瘰癧性蟹足腫 Aknekeloid ハ年齢三十歳以上ニ多ク部位一定シ及ビ脱毛ナク毛ノ束狀ニ一毛囊口ヨリ發生シアル等ニテ明カナリ

鬚ノ白癬ハ往々尋常性毛瘡 Sykosis Vulgaris ト誤診スルコトアリ然レドモ若シ病初輪狀發疹ヲ認ムレバ白癬タルコトヲ證シ得ベシ又球菌ニ因スルモノハ毛髮ノ貫通セル小膿點ノ多數現在スルモノナルガ故ニ其點ヲ以テ豫診シ得ベク其他ニ於テハ必ズ鏡檢ヲ以テ確診スルヲ正當トス又鬚ニ來タル結節性微毒疹 Knottige Syphilid ノ如キ又ハ慢性再發性濕疹 Chronische-Recidivirende Ekzema ノ如キモ各特有ノ徵候アルヲ以テ誤診ニ陥ルノ恐れナカルベシ

無毛部ノ白癬ト誤診シ易キモノ左ノ如シ

- (一) 脂漏性濕疹 Ekzema Seborrhoicum ハ多ク胸部ヲ犯シ又其蔓延大ニシテ且其名ノ如ク落屑稍々脂肪様黃色ヲ帶ビ爪ニテ搔クモ白癬ニ比シ固著ス又小結節小水泡等トノ劃然タル境界ナク赤暈モナシ
- (二) 環狀微毒疹 Zircinäre Syphilid ハ中央消削及其ノ落屑極メテ少ナク其邊緣ノ浸潤強ク且暗赤色ナリ癢痒ヲ缺ク

- (三) 乾癬 Psoriasis ハ其落屑板狀ニシテ大キク且厚ク又好發部位ハ殊ニ白癬ト異ナリ伸展側ナリ又決シテ中央ノ陷凹スルガ如キ傾向ヲ示サズ

- (四) 初期黃癬 Beginnende Favus ニテ未ダ其特有ノ甲ヲ形成セザルモノハ培養及動物試驗ニ因ルノ一法アルノミ

水泡性白癬 Trichophytia bulloun ト誤診シ易キモノハ左ノ如シ

- (一) 紅彩膜様疱疹 Herpes iris ハ即チ多型滲出性紅斑ノ一症候ナルヲ以テ殆ド必ズ他ニ此症ヲ認ムルニアリ癢痒モ極メテ輕度ナリ
- (二) 天疱瘡 Pemphigus ハ其既往症ト經過トニ於テ差アリ

- (一) 顔ノ脂肪減少 Asperities faciae 其ノ局部ノ形ハ不定ニシテ又主トシテ頰部ナリ其落屑モ秕糠狀ニアラズシテ大ナリ

無毛部白癬中播種性白癬 Trichophytia disseminatus ト鑑別ヲ要スルモノ左ノ如シ

- (一) 微毒性薔薇疹 Roscola Syphilitica ハ落屑及癢痒ヲ缺キ其發疹モ亦輪狀ヲナサズ
- (二) 乾癬 Psoriasis 上記ノ如シ
- (三) 赤色秕糠疹 Pityriasis rosca ハ即チ一ノ白癬ニシテヘブラ氏 Hebra ノ所謂紅斑性白

癬 Herpes tonsurans maculosus ニ外ナラズトスルモノアリ然レドモ其經過ハ非常ニ速ニシテ數日間ニシテ消失ス

(四) 斑紋癩 Lepra maculosa ニシテ殊ニ中央ニ枇糠様落屑ヲ伴ヒ邊緣ニ浸潤アルモノハ誤診シ易キ場合ナキニアラズ然レドモ其癢痒ノ有無及知覺鈍麻ヲ檢スレバ直チニ鑑別シ得ラルベシ歐洲ノ醫書ニハ之ヲ掲ゲズ日本ニ於テハ大ニ鑑別ノ必要アリ

頑癬 Ekzema marginatum ト誤診セラルベキモノ次ノ如シ

(一) 陰部濕疹 Genitalekzem ハ俗間ニモ已ニ「いんきんたむし」ト唱フル如ク最モ慢性ノ濕疹ヲ本症ト誤診スルモノ獨リ患者ノミニアラズ醫士ニシテ已ニ然リ濕疹ハ頑癬ニ反シ其境界ハ此ノ如ク堤狀ノ明劃ヲ示サズ又環狀ニアラズ健康皮膚ニ自然ニ移行スルモノナリ又皮膚ノ浸潤モ彼ノ如ク甚シカラズ一タビ治癒シタル部位ニ再發スルコトナシ然レドモ陰囊ノモノハ往々鏡檢ニ依ラザレバ確診シ難キコトアリ其他ノ部位ニシテ手掌足蹠ノ頑癬ノ如キハ必シモ陰股部ノ如ク其ノ特徴ヲ具備セザル場合ナキニアラズ慢性濕疹トノ鑑別ハ特徴アル場合ノ外ハ鏡檢ニ據テ之ヲ確診セザル可カラズ

爪ノ白癬ト最モ酷似スルモノハ爪ノ黃癬ナリ

(一) 爪ノ黃癬 Onychomycosis Favosa ハ他ニ病竈アレバ診斷ハ時ニ容易ナルモ唯爪ノミノ時ハ培養及ビ動物試驗ニアラザレバ診定シ得ザルナリ即チ培養シ次デ動物試驗ヲ行フカ將亦南京鼠ニ種ヘテ鑑別ス即チ黃癬甲ノ形成ヲ認ムルニアリ之ヲ形成セザルトキモ陽性ノ移植試驗ヲ得タルモノハ寧ロ黃癬ト見做スベシ
(二) 爪ノ黴毒 Onychomycosis Syphilitica ハ爪ノ變形等ハ之ヲ疑ハシメ又時ニ白色線狀ヲ印スルコトアルモ帶黃灰白色ニシテ點狀乃至線狀ノ多數アリテ光澤ヲ失フ如キコトナシ

屋瓦狀白癬 Tinea imbricata ノ如キハ馬來半島ノ如キ熱帶特有ノモノニシテ日本ニテモ臺灣ニ於テ青木大勇君ノ實驗アリシノミニシテ殆ド特有ノ症候アルヲ以テ誤診スルモノ少カラシ疑ハシキトキハ鏡檢シテ診斷ヲ下スベキノミ
其他口腔粘膜炎 Trichophytie der Mundschleimhaut ハ最モ「ゾール」Soortト誤診シ易シ但シ「ゾール」ノ芽胞ハ醱酵作用アルモ白癬ハ之ヲ缺ク其他黴毒性白斑 Leucoplasia Syphilitica 水銀性口腔炎 Stomatitis mercurialis ノ如キモノニシテ疑ハシキトキハ鏡檢ニ據ルベシ口腔粘膜炎ノ白癬ハ極メテ稀有ノモノニシテ千八百九十五年アレサンドロ氏ガ

白癬ノ解剖

本菌發見者タルグルビー氏ハ其ノ菌ノ居所ハ髮及ビ表皮中ナルコトヲ發表セリ次
 テアンデルソン Anderson 氏ハ千八百六十八年グルビー氏ノ所見ヲ證明シテ毛瘡ノ
 菌ハ常ニ毛根鞘ト髮中ニ見ルコトヲ云ヒクブネル Köbner 氏ハ之ニ反シ芽胞ヲ毛根
 球部ニ認メタリロビンソン Robinson 氏ハ千八百七十七年本症ヲ一ノ毛囊周圍炎ト
 シレロア Leloir 氏ハ千八百八十四年菌ノ爲メニ來タラザル標本ヲ發表シ即チ限局
 性炎衝性増殖ニ歸シ毛囊ハ表皮ト白血球ニテ充滿シ舉毛筋ハ消耗ストドイトレボ
 ン Dautrelepont 氏ハ毛鞘中ニ短カキ絲狀菌ト細小芽胞ノ簇叢ヲ發見セリ皮脂腺ハ化
 膿シ乳頭ハ増殖且ツ延長ス又強キ圓形細胞浸潤アリ血管ハ充血シテ其周圍ニ圓形
 細胞浸潤アリト

ウンナ氏ハ最モ組織的ニ又精細ニ記載セリ曰ク白癬症ハ共通性アリ曰ク落屑形成
 ノ疾患ナリ曰ク毛幹脱落ヲ促ガス毛髮病ナリ曰ク決シテ甲形成ヲナスモノニアラ
 ズト而シテ毛瘡ノ紅斑性ノモノニ就キ其表皮ニモ毛囊ニモ弓狀ニ走り又稀レニ分枝
 セル絲狀菌ヲ毛根及毛根鞘ノ表皮ト表皮下層トノ間ニ認メタリ而シテ菌絲ハ殆ト皆
 上方ヨリ下ニ向テ縱徑ニ沿フモ稀レニ水平ノモノアリ芽胞ノ分裂ハ認メラレズ血
 管ハ擴大シ表皮及真皮共ニ細胞増殖アリ、プラスマ細胞ナシ即チ單純ノ炎衝性増殖
 ノ模型ナリ病症進行シテ結節様トナレバ菌絲及芽胞ハ表皮ニ消失スルカ或ハ退行
 シ毛囊ノ菌ハ圓形又圓壻狀トナル、マスト細胞ハ増加セズ血管及淋巴間隙ハ擴大ス
 頭部白癬ニ就テウエルシ Waelsch 氏曰ク菌ハ毛ノ内部ニ在リテ唯僅少ノミ毛根鞘
 中ニ發育セルヲ見タリ即チサブロー氏ノ所謂髮内—外菌 Ektho-endthrix ナリ表皮ノ
 乾キタル滲出物ハ髮片、菌絲、芽胞及芽胞連鎖ニテ被ハル邊緣ノ膿泡中ノ表皮下ニハ
 僅少ノ菌アリマルビギー氏層ハ普通ナリ真皮ハ血管擴張シテ圓形細胞ヨリ取卷カ
 ル菌ヲ含有セル髮アル毛囊ニハ炎衝症狀ハ少ナシ毛ノ實質ハ炎衝ト平行セズ深ク
 皮膚中ニ入りシ毛囊ハ菌ノ侵襲ヲ蒙ルコト多シ毛ノ表層ハ菌絲ニテ毛囊内外共ニ
 浸サル毛球ハ犯サレズ

白癬ノ豫後

白癬ノ諸症ハ其ノ疾患自己トシテハ勿論凡テ良好ニシテ何等後患ヲ貽スモノナキ

ヲ普通トスレドモ頭部白癬中蜂窠様白癬ノ如キハ癩痕ヲ形成シ以テ爲メニ永久ノ
禿髮ヲ將來スルガ如キ不幸ノ轉歸アリ其他ハ一タビ禿頭トナリシ者モ其白癬治療
ト共ニ毛髮ヲ再生シテ美貌上ニモ何等缺點ヲ認ムルコトナシ婦人ノ顔面ニ來ル再
發的ノ落屑性白癬はたけハ往々婦人ノ苦痛トスルモノナレドモ敢テ悪性タルモノ
ニアラズ治療モ容易ニ又何等ノ美容的損失ヲ來タスコトナシ
唯其ノ病症ヨリノミ云ヘバ經過長ク治療ニ抵抗アルモノニシテ就中患者ヲ煩ハス
モノハ第一爪ノ白癬頑癬次テ頭部白癬ナリトス

白癬豫防法

第一ハ人ヨリ人ニ來タル直接傳染ヲ豫防スベシ之ガ爲メニハ患者ヲ健康者ヨリ隔
離スルノ要アリ又患者ノ自己傳染ヲ豫防スル爲メ其診查ヲ嚴ニシ小病竈ノ時ニ早
期根治ヲ行フベシ理髮所ノ臺ハ勿論諸道具類ヲ完全ニ合理的消毒セシメザルベカ
ラズ學校醫ハ常ニ患者ノ早期發見ニ努メ又其感染ノ由來ヲ家庭ニ向テ注意セザル
可カラズ

第二、動物ヨリ人ニ來タル蔓延ヲ防グニハ學校ニ於テ此事ニ關シ教育シ其危險ハ家

畜ニ存スルコトヲ詳細ニ指示スベシ

第三、品物ニテモ殊ニ帽子濕レタル手拭、浴場ニ衣服ヲ混用スルコト等ヲ嚴禁スベシ

治療法

頭部、頭部以外ト爪甲トニ因テ大差アリ頭部以外ノ白癬例ヘバ小水疱性、紅斑性、落屑
性、はたけ等ハ屢々自然治療ヲナスモノナルガ故ニ其療法モ亦頗ル容易ニシテ且有
望ナルコト言ヲ待タズ

頭部及鬚髯部白癬

頭部白癬及ビ鬚髯部ノ白癬ノ菌ハ其ノ巢窟ヲ表皮下及ビ毛中ニ構ヘ生存蕃殖スル
ヲ以テ從テ其ノ治療困難ニシテ更ニ奏效ヲ認メザルコトアリ殊ニ炎症症狀ナキモ
ノニ於テ然リ故ニ小芽胞菌ニ因スル者ノ如キハ大ニ困難ナリトス從來之レガ治療
ニ使用セラレタル藥料及ビ治療法ハ多様多種ナレドモ左ニ其摘要ヲ記サン

カルデローネ Caldeone 氏ハ千八百九十八年諸種ノ制腐藥ヲ諸種ノ稠度ニ製シ此藥
液ニ種々ノ時間ニ毛髮ヲ浸タシ置キ而シテ蒸餾水、エーテル、コロホルム酒精等ニ
テ洗滌シタル後チ之レヲゲラチンニ培養シタル結果、沃度、グリザロピン、サルチル酸

ハ稍々高度ノ殺菌力ノ見ルベキモノアレドモ尙ホ全然菌ヲ滅殺シ得ズ唯其發育ヲ制限スルノミナルコトヲ證明シテ本症治療ハ必ズ器械的ニ菌ヲ除去スルコト即チ抜毛ヲ治療上ノ緊要條件ナリト決論セリ

ビグノー Pignot 氏ハ千九百一年公表シテ曰ク淺在ノ菌ヲ滅殺スルト同時ニ他部ヘノ傳染豫防ヲ目的トシテ毎夜全部ニ加實奴謨油ヲ塗布シ毎朝二五—三三%ノ沃度丁幾或ハ酒精ニテ拂拭シ而シテ化膿性毛嚢周圍炎ヲ惹起セシメ爲ニ罹病セル毛髮ヲ脱落セシムベク又菌ヲ排除スル爲ニ巴豆油ヲ塗布ス此實驗ハサンルイ病院ノ入院患者ニ實施セシ療法ニシテ比較的好成績ナリシト

アラン ジャミーソン Allen Jamieson 氏ノ千九百年公表セル報告ニ曰ク主タル目的ハ頭髮全部ヲ剃髮スルコトヲカメ必ズ顯微鏡的ニ菌ヲ證明セザルニ至ルマデ之ヲ施行スベシ頭部ハ一日二回加里石鹼及ビ温水ニテ洗滌ヲ要ス硫黃、サルチル酸、ナフトール、亞母尼、水銀各々十瓦ニラノリンヲ適宜ニ加ヘ之ヲ毎日二回十分間塗擦スルニアリト

ガウヘル Gauthier 氏ノ千九百年ノ報告ニ曰ク抜毛シテ沃度丁幾ヲ塗布シ且ツ罌法ヲ行フヲ可トスト

ウンナ Unna 氏ノ千八百九十七年公表セル報告ニハ小芽胞菌性白癬ハ第一ニ剃髮シ綠石鹼ニテ洗滌シコロチユームヲ其部及ビ附近ニ塗布シ五—七日間放置シ後剃離スレバ髮ノ斷片及ビ落屑ハ皆之ニ附着シテ除去スルコトヲ得ベシ然ル後沃度丁幾ヲ塗布シ一週二—三回常ニ剃髮セバ六—八週ニテ治癒ス大芽胞菌性白癬ニハサグロロー氏ハ巴豆油ヲウンナ氏ハクリザロビン棒ヲ推奨セリ

アミチス Amicus 氏千八百九十七年ノ報告ニハイヒチオールハ諸他殺菌劑中殊ニ小兒白癬ニ最モ有效ニシテ無刺戟ナリ然レドモ稀薄ノモノハ菌ノ發育制止作用ノミニシテ殺菌力ナキヲ以テ宜シク四〇%軟膏ヲ用ユベシ猶同時ニ抜毛スルヲ要スト白癬療法ニハ凡テノ殺菌劑ハ理論上有效ナルモ深ク皮膚内ニ其作用ヲ逞フスルコトハ困難ナリ然レドモ直接ニ作用セズトモ其蔓延ヲ防止スルノ效アルハ疑ヒナシブラウト Plaut 氏ノ如キハイヒチオール軟膏ニテハ治癒ヲ見ルコトナシト而シテ同氏ハ髮ヲ短切シ次デ温水及石鹼ニテ洗滌シテエビカリン五・〇アルコール八〇・〇エーテル二〇・〇ヲ塗布ス又沃度丁幾ヲ塗布シ二十四時間後石油エーテルニテ洗滌ス或ハ二%ホルマリン溶液、二%サルチル酸酒精ヲ用ユ、刺戟ヲ來タセバ塗布ヲ中止シ亞鉛華軟膏ヲ塗布シ刺戟症狀去レバ更ラニ上方ヲ反復ス而シテ其ノ芽胞變性ヲ鏡

檢的ニ證明スル限り之ヲ實施ス其後ハ最モ清潔ニ頭部ヲ保タシムベシト
化膿性ノモノ或ハ蜂窠様白癬ニハ殺菌劑ヲ廢シ溫罨法ト拔毛ヲ行フノミ
カボジ― Koposi 氏ハ化膿性ノモノニハテール丁幾乃至テール一五〇加里石鹼精二
五〇硫黃華一〇〇ラーヘンテル精五〇〇ヘリバルサム一五ナフトール〇五ノ處方
ヲ賞用セリ

ヘブラ Hebra 氏ハクリザロビン・エーテル撒霧ヲ利用セリ

ウンナ Una ライスチョー Leistikow デュリング Dühring モ同ジククリザロビンヲ第

一トセリウンナ氏ハクリザロビン・イヒチオール各五〇サルチル酸三〇ワゼリン一

〇〇〇ヲ處方シ之ヲ塗布シ縞帶シ―二日目毎ニ洗滌シテ新タニ塗布ス而シテ七

日後ニ清洗シ拔毛ス之ヲ培養シテ無菌トナル迄此療法ヲ反復スルヲ有利トセリ

ヨゼーフ Joseph 氏ハ一〇%クリザロビントラウマチチンヲ賞用ス

スミス Smith 氏ハ一〇%クリザロビン又ラヂュームヲ賞用セリ

ブロック Brocq 氏ハ其療法ヲ三段トス(一)ハ髪ヲ短切シ石鹼ニテ洗滌シ患部ハ健康

部ヨリ六―八mm 幅ニ拔毛シテ區別ス(二)ハ患部ノ痂皮鱗屑等ヲ銳匙ノ如キモノニテ

除去シ毛囊口ヨリ病的物ヲ除キテ九十度ノ酒精一〇〇〇硼酸一〇クコロホルム五・

應用セリ

〇ノ液ヲ以テ洗滌シ後昇汞〇一酒精一〇〇〇結晶醋酸一〇ヲ以テ摩擦ス(三)灰白軟

膏一〇〇〇醋酸一〇ヲ「リント」ニ伸ベ貼布ス斯クシテ二三ヶ月ヲ要ス

ミベリ― Mibelli 氏ハ白癬性眼瞼炎ニハ拔毛ト同時ニ五千倍ノ昇汞液ノ洗滌ヲ賞用

セリ其他一〇―二〇%アントラロビン Anthrarobin 五―一〇%ピロガル酸軟膏等ヲ

應用セリ

サブロー Sabron 氏ノ療法アリ左ノ如シ

(一) 頭部ノ剃髪

(二) 健康部ノ髪ヲ患部ノ周圍半 cm 幅ダケ拔毛ス

(三) 一週一度全頭部ヲ稀釋沃度丁幾沃度丁幾二五〇六〇%酒精一〇〇〇ニテ洗滌

ス

(四) 一週三回左ノ處方ヲ塗布ス

ピロガル酸 一〇〇

カチヌム油 四〇〇

ワゼリン 二〇〇〇

(五) 毎朝石鹼熱湯ニテ洗滌ス

患部療法 其ノ原則トシテハ無炎衝部ヲ炎衝性ニナスニアリ即チ左ノ如シ

(一) 毎十四日巴豆油棒(巴豆油、カカオ酪、白燻各五・〇)ヲ應用シテ輕度ノ炎衝ヲ起サシムルナリ

(二) 甚シキ炎衝症狀ニハ軟膏或ハブリースニツツ罨法ヲ行フ膿疱ハ沃度丁幾塗布ニテ乾燥セシメ其結痂ハブリースニツツ罨法ニテ三日後除去ス

(三) 凡テノ患者ニ此巴豆油療法ハ適セズ巴豆油刺戟ノ必要ハ毛囊ノ周圍ニ起ル浮腫ニアリ然ルニ患者例ノ五%ニハ其ノ目的ヲ達セラレズ却テ壞疽及潰瘍ヲ惹起ス

(四) 巴豆油棒ノ應用法ヲ行ヒシ第一日ヨリ抜毛ヲナサシムベシ

以上ヲ規則的ニナセバ六ヶ月ニテ治癒ス若シ尙ホ僅少ノ毛髮ニ病菌アレバ電氣分解、電氣燒灼ヲ行フベシ

克蘭ストン Cranston 氏千九百八年ノ九十八例ノ白癬患者平均治癒ハ八週ナリシ其方法ハ毎日髮ヲ短切シ石鹼酒精及ビ鹽水ニテ清潔ニシ硫黃水銀軟膏ヲ塗布スルニアリ

カステラニ Castellani 氏ガ千九百七年サイロン島ニテ試用シタル結果ハレゾルチ

ン四・〇安息香酸丁幾三・〇ノ處方效アリシト

現今頭部白癬ノ根治法ハ白癬菌ノ寄生セル深キ毛ヲ速カニ除去スルコトニアリトハ學者一致ノ意見ニテ是レ實ニ當然ノ事ナリ此目的ニ向テ最モ適切ニ卓效アル者トシテハレントゲン放線ト認識セラルレントゲン放線ハ敢テ菌ニ作用スルニアラズ其有效ナル理由ハ實ニ皮膚炎ヲ起シテ脫毛ヲ來タスニアリ其成績ニ關シテハ近來ノ諸報告皆良好ナリ唯クラストン氏ハ其效果良ナラズ治期ハ却テ軟膏ヨリ長シト云ヘリ

アダムソン Adamson 氏ハ千九百七年ニレントゲン放線ニテ治療セルニ最モ速カニ又無痛ニ且ツ愉快ナル結果ヲ得タリト

ガウサー Gauthier 氏千九百七年拔毛法ニレントゲン放線ヲ推賞セリ然シ最モ注意シテ行ハザル可カラズ即チ膿ト結痂トヲ注意シテ除去シタル後チ放射スベク初メハ少量ヲ放射ス其治療ノ間ニハ沃度丁幾或ハ沃度偏陳ヲ塗布ス放射後三週ニテ脫毛ヲ始メ一ヶ月後再ビ發生ス

レノー Renard 氏ハ千八百年ニ最モ速カナルハレントゲン放線ナリ但シ注意シテ施コスベシト云ヘリ

ベルゲル Berger 氏ハ千九百七年ニ六十例ノ白癬ヲレントゲン放線ニテ治療セリ此法ハ簡單ニ又再發ナク確實ナリ費用ノ點ニ於テモ現時ノ理想的治療法ナリト、四「アムペール」ノ電流五二「ボルト」一分間二〇〇〇ノ中絶ヲ爲ス所ノ第一電流ヲ使用シ、局部ハX管ヨリ七cm離シ七分放線セシム、インヅクトールノ光氣ノ長ハ四〇cmトス凡テ其結果ハ良ナリ之ヲ組織的ニ見ルモ毛囊ニハ菌ナシ要スルニレントゲン放線療法ヲ正規的ニ施行セバ少シモ害ナク約四週中ニ全治ス

カンザス Kansas 氏ハ千九百九年ニ頭部白癬ノ脱毛ヲ促ガスハレントゲン放線ヲ最乗トス然シ強キ制腐藥ヲ其以前ニ用ヒ又脱毛後ニモ用ユルヲ可トス即チ沃度ト水銀トヲ用ユ數分間沃度丁幾ヲ塗布シ後二%昇汞水ヲ塗布ス然レバ其作用ハ瞬間ニ沃度水銀ヲ生ズ是レ強キ制腐劑タリ又之ヲ軟膏トシテ應用セリ

サブロー Saburud 氏ハ千九百九年ニ光線療法ヲ行ヘバ有害作用アラント思フハ杞憂ナリ又此杞憂ハ正當ノ手術ニテ避ケ得ベシ又腦ニ何等ノ後患ヲモ貽コサズ五年間ニ多數ノ材料ニテ試ミタルモ一モ不良ナル影響ナシ一定ノ方法ニテ行ヘバ永久ノ禿頭タル恐レナシ又レントゲン放線ニ對シ特異性ナルモノヲモ實驗セズトサビル Savill 氏千九百八年ハ三十六名ノレントゲン放線治療ニ就キ報告セリ其ノ大

部ハ完全ニ治癒シ唯五例ノミ再發セリ之ハ治療ヲ早ク中止シ或ハ其ノ一小部分ニ放線ト放線トノ間ニ休止期ヲ置キタル爲ナリ毛髮再生ノ不充分ナルヲ往々認ムルハ是レ技術的失策ニアリト

ウエルネル Werner 氏ハ千九百八年ニ白癬ハレントゲン放線ヲ用ヒズ五%曹達液ノ器法及ビ水銀軟膏應用レゾルチナフトール軟膏ニテ充分ニ治療セバ十分ナリトホダラ Hodara 氏ハ千九百八年ニクリザロビン五—純イヒチオール二〇〇ヲ毎日患部ニ塗布シ後チ毎二日ニ交換セバ刺戟症狀ナシ若シ反應アレハイヒチオールヲ塗布ス斯クセバ三—五ヶ月ニテ治癒スト

ヤーリッシ Jarisch 氏千九百九年ハ二百五十例ヲレントゲン放線ニテ處置シ皆全治セリト

余ノ頭部白癬療法ノ要領左ノ如シ

剃毛(拔毛)洗滌藥劑塗布トス

局部ノ拔毛ハ往々健康ノ毛ヲ混ズルヲ以テ困難ナルコトアリ然レドモ病毛ハ毛抜ニテ之ヲ抜クモ何等痛ミナシ故ニ抜キ得ル限リ之ヲ抜キ其他ハ剃毛スベシ要ハ藥劑ヲシテ善ク皮膚ニ働カシムルノ目的ト他毛感染ヲ防グニアリ而シテ毎日

其落屑ヲ除去スル爲メニ洗滌セシム獨リ落屑除去ノ爲ノミナラズ塗布セル藥劑ヲ清洗スル爲メナリ洗滌ニハ加里石鹼ト溫湯ヲ用ヒシム藥劑トシテハ上記ノ諸劑等效アルベキモ常ニ用ユルモノハ土肥氏釜硫膏乃至余ノイヒチオイル米糊トス釜硫膏ハ其病竈ノ數少ナキ時ト前額顛頂部等ニアルトキハ應用比較的便利ナルモ然ラザレバ必ズ更ラニ繃帶ヲ要スベシ即チ衣服寢具汚染ノ嫌アルノ不利アリ余ノイヒチオイル米糊ハ此ノ煩ナシ塗布後十四五分ヲ經レバ乾クガ故ニ更ラニ繃帶等ヲ要セズ其製法左ノ如シ

米ノ粉(乾物屋雜穀屋等ニテ袋入トシテ販賣シアリ)四五—五〇〇
水 五〇〇〇

右煮テ糊トナシ之ニ左ヲ研和ス
サルチル酸 二・五

右山田米糊ト名ヅク(陸軍藥局法)

山田米糊 一〇〇〇

イヒチオイル

硫黃華 各一〇〇

亞鉛華

余ハ常ニ患兒ノ父母ニ本症ハ藥劑治療ヨリモ介護ノ大切ナルコトヲ諭示シ其拔毛或ハ剃毛ヲ根氣ヨク反復スルノ必要ヲ告グ概ネ二ヶ月以上五ヶ月以内ニ於テ必ズ治癒スルヲ確認セリ

鬚治療法ノ主眼モ等シク頭部白癬ト異ナルコトナシト雖モ之ハ浸潤等ヲ將來スルヲ以テ多少ノ差アリ然レドモ病毛ヲ拔キ又剃鬚スルノ點ハ敢テ異ナラズ

病初ニシテ病竈ノ小ナル場合ハ百倍ノ昇汞水ヲ毎日一回塗布スレバ足レリ然レドモ結節形成アレバ石炭酸水銀硬膏等ヲ推賞スル者アリ

ヤーリッ シ Jarisch 氏ハ鉛糖水ノ罨法ヲ推賞セリ

ヨゼーフ Joseph 氏ハ結節ノ消退ヲ速カナランムル爲メ電氣誘導法 Kataphorese ヲ應用セリ

プラウト Plaut 氏ハ唯患者ノ堪ヘ得ル熱キ罨法ヲ最良トセリ

余ハ本病ハ必ズ尋常性鬚瘡ト同意義ニ於テ治療スベキモノナリト信ズ即チ鬚瘡ハ已ニ青年以後ノ者ナルヲ以テ之ヲ成ベク拔毛シテ二〇%イヒチオイル軟膏ヲ塗布シ之ニ壓ヲ加フルコト必要ナリ即チ恰モ鬚壓 Bartschur ノ如キモノヲ以テ此膏藥ヲ

壓へ置クコト必要ナルヲ信ズ表在ノ癬ニハ勿論殺菌藥ヲ處方スベシ

無毛部ノ白癬

無毛部白癬療法ハ自然治癒アルガ如キヲ以テ其療法モ從テ亦簡單ナリ即チ五—一〇%サルチル酸酒精、沃度丁幾等ノ如キモノヲ以テスルモ可ナリ濕疹様ニナリシモノニテ頑固ナルモノニハブラウト氏ハ石炭酸水銀硬膏ヲ塗布シ後チ石油エーテルニテ洗滌ス而シテ其後二%ホルマリソ液ニテ洗ヒ亞鉛華軟膏ヲ塗布ス再發ノ際ハ之ヲ反復ス

スチルン *Stim* 氏ハ小水疱性ノモノニハ一〇%レゾルチン酒精ヲ賞用セリ

カボシー氏ハ播種性ノモノニハ二%ナフトール綠石鹼ヲ塗布セバ忽チ治癒スト云ヘリ但シ頭部ヨリ足部ニ至ルマデ塗布スルコト二三夜ニシテ落屑起レバ亞鉛華澱粉ノ如キモノヲ撒布ス十日乃至十五日ニ入浴ヲ許可ス若シナフトールノ副作用ヲ顧慮セバ單ニ綠石鹼ヲ毎日六日間塗布シ後撒布ヲ行フカ乃至亞鉛華硫磺軟膏ノ如キヲ應用スレバ可ナリト

余ノ療法ハ加里石鹼ニテ充分洗滌シ後上記イヒチオール米糊ヲ塗布セバ紅斑性ノ如キハ一二回ニテ必ズ治癒スルヲ斷言ス全身ニ蔓延セル如キモノニテモ危險ナク

又其搔痒ヲ速カニ消失セシムルノ效アリテ縞帶ヲ要セズ最モ簡便ナリ翌日新タニ塗布セントスルトキニ必ズ微温湯ヲ以テ以前ノ米糊ヲ洗滌シ更ニ加里石鹼ニテ洗ヒ本劑ヲ塗布スベシ

頑癬療法ハ名ノ如ク無毛部中最モ頑固ナルモノトシテ古來治療ニ苦心セルモノナリ

ライステコー *Leistikov* 氏ハ強キ還元劑ナル沒食子酸、テールクリサロビン等ヲ推賞セリ

カボシー *Kaposi* 氏ハ沒食子酸、テールクリサロビン、ウヰルキンソン軟膏、一%ナフトール酒精、ナフトール硫磺石鹼、昇汞及ビ沃度丁幾等ヲ推賞セリ

余ノ療法ハ左ノ如シ一日一回加里石鹼塗擦後微温水洗滌ヲ行ヒ上記イヒチオール米糊ヲ塗布スルニアリ之ヲ反復セバ搔痒頓ニ減ジ概チ五六回(五六日)ニテ殆ド治癒スルヲ常トス爾來多數ノ患者ニ實驗シテ最乗ノ方法ト自負シツツアリ殊ニ軟膏類ハ部位ニヨリ使用ニ不便アリ米糊ハ乾燥シテ此煩ヲ避クベシ再發ヲ防グ爲メ治癒ノ外觀アルモ尙一二ヶ月間一週一回乃至二回沃度丁幾或ハ五—一〇%レゾルチン酒精等ヲ塗布シ置クベシ

余ハ此イヒチオール米糊ヲ無毛部白癬ノ特效藥ト撰定ス
瓜ハ白癬療法モ亦有毛部白癬ノ如ク頑固ニシテ且ツ困難ナルコトハ其解剖的ノ關
係ヨリ首肯セララル所ナリ

ドブリユール Dubreuilh 氏ベリツッァリー Pelizzari 氏等ハ毎日沒食子酸甘扁桃油等分
ノモノヲ二回塗布シ護謨指袋ヲ欲メ置カシム瓜ガ化膿等ノ爲メ動キ出セバ此軟膏
ヲ中止シ防腐法ヲ行フベシト

ヘルレル Heller 氏ハ電氣分解法ニテ防腐劑ヲ瓜ノ深部ニ送入スルコトヲ推賞セリ
カボジー Kaposi 氏ハ瓜ノ軟化ヲ護謨指環 Kautschukkegeling ニテ爲シクレオソート
醋酸偏陳五十倍昇汞液ニテ拭フコトヲ賞揚セリ

サブロー Sabroud 氏ハ沃度一沃度加里一〇水一〇〇〇ナル稀薄ノ沃度ニテ持長
ノブリースニツツノ器法ト瓜ノ死シタル部分ノ除去ヲ唱ヘタリ

余ノ療法ハ外科的ト藥劑的ノ二様ヨリ成リ最モ理想的ノモノト信ズ況ンヤ治療ノ
速カナルハ之ヲ實驗ニ徴シテ明カナルニ於テオヤ
先ヅ銳利ナル刃ヲ以テ瓜ノ變化アル部ヲ一部健康部ニ亘リ薄キ板狀ニ注意シツツ
徐々ニ出血ヲナサザル程度ニ能フ限り之ヲ剝除シ後二〇—三〇%ノ加里滷汁ヲ漬

タシタル小綿球ヲ其瓜ノ上ニ置キ約三十分放置シ更ラニ其軟化ヲ待チ及ニテ善ク
摩擦シテ取り後二〇%サルチル酸コロヂユームヲ塗布スルニアリコロヂユームハ
毎日一回其上ニ上ニト層重シテ自然ノ脱落ヲ待ツベシ而シテ尙病竈ト認ムル灰白
色乃至黄色ノ所アレバ加里液乃至刀刃ニテ注意シテ之ヲ除去シ上法ヲ反復スベシ
然ルトキハ數月以内ニ於テ根治ヲ認ムベシ是レ決シテ空想ニアラズ余ハ此法ノミ
ヲ以テ患者ニ實試シ之ヲ公言スルモノナリ

免疫療法 本法ハ嘗テプラトー Plato ナイセル Neisser 氏ニ依テ創始セラレタル方法
ニシテ其主旨ハ白癬菌培養ヨリ作りシトリコフイチン Trichoflyin ナルモノヲ皮下ニ
注射スレバ全身及ビ局處反應ヲ起シ症狀消退スルト云フニアリ但シ常ニ深在性白
癬ニ效果アルモ表在性ノモノニハ效ナシト次デトルッファイ Truffe ハ健康者又動物
ニハトリコフイチンノ反應ナキモ數多ノ白癬患者ニハ高熱ヲ發シ局所反應モアルコ
トヲ報ゼリチトロン Citron 氏ハ培養濾過液ニテハ何等免疫乃至治療的效果ナキコ
トヲ動物試驗ニ依テ證明セリ近時ブルック Bruck 及楠氏ノ共同作業トシテトリコ
フイチン療法ヲ行ヒシニ表在性竝ニ深在性ノモノニモ反應セリト而シテ其深在性
患者ハ〇・五トリコフイチンヲ注射シタルニ局所ノ反應ヲ起シ病竈ハ周邊ヨリ中心

ニ向テ輕快シ十日後浸潤全ク去リ著シク快癒セルコトヲ報告セリ表在性ノモノニハ完全ナラズ「トリコフイチン」ハ菌自己ニ作用スルニアラズ其病的組織ニ作用スルモノナリ而シテ皮膚内ニ注射セバ深在性ノモノハ忽チ容易ニ治癒セシメ得ト結論セリ其「トリコフイチン」ノ製法左ノ如シ

「グイヨン」ニ三%ノ割合ニ「マルト」セラ加ヘ徑約一二Cm底ノ「エルレンマイエル」氏罐中ニ多量ニ白癬菌「ギブズム」型「腦」様型ヲ培養シ二三ヶ月室温ニ放置スレバ「グイヨン」ハ菌苔ニテ被ハル之ヲ十五分間振盪シテ此ノ苔ヲ皆器底ニ沈メ置キ一週間後更ラニ十五分間振盪シ滅菌紙ニテ濾過シ之ヲ四%「マルト」セラガ「ル」ニ其濾過液ヲ培養シテ其無菌ヲ證明ス保存貯藏ノ爲メ約〇・三%石炭酸ヲ加フ

ブロッホ Roch 氏ハ千九百九年人ノ黃癬様皮膚病ヨリ培養セル白癬菌第一原菌ニ就キ免疫ヲ研究シ左ノ事項ヲ公表セリ(一)海狸、兎及ビ人ノ真皮内ニ接種セバ病的ノ變化ヲ呈ス(二)一回罹病セバ其身體ハ免疫ス(三)免疫ハ皮膚發病後ニ起ルモノナリ陰性ナルカ乃至疑ハシキハ腹腔或ハ皮下注射ノトキナリ(四)病竈ノ大小ハ免疫ノ發生ニ關係ナシ(五)病竈ノ自然治癒及ビ全身免疫ノ發生ハ接種後七十九日ニ同時ニ起ル(六)免疫ノ持續ハ一年半ナリ(七)菌壓搾汁、培養濾過液ノ働性免疫又血清及ビ皮膚壓搾

汁ニ依ル被働免疫ハ目的ヲ達セズ(八)蜂窠様白癬ヨリ培養シ得タル「キブス」型及「ミクロスポロン」ライズム(第二原菌)ヨリハ免疫セズ(九)免疫ハ必ズシモ特有ナラズ(十)人ハ白癬ニ罹レバ過敏性トナル(十一)此事實ヨリシテ結核ト同様「ビルケ」氏ノ皮膚反應ヲ呈ス(十二)此反應ハ培養濾過液ニテモ生活菌自己ニテモ發生ス(十三)皮膚反應ハ第一回ノ接種後七―八日ニ起ル(十四)皮膚反應ハ疾病治癒後三年間ハ陽性ナリ(十五)過敏性ノ者ノ皮膚ヲ健康ノ者ニ植皮セバ其過敏性ハ一定時期ヲ保ツ(十六)過敏性バ免疫ヨリ僅カニ特有ナリ(十七)此試驗ニテ固有白癬菌、小芽胞菌、黃癬ノ極メテ相近邇セルモノナルコトヲ意味ス殊ニ第一原菌ハ特有ノ甲ヲ形成セルニ係ラズ固有白癬菌ナリシコトヲ報告セリ

尙本菌免疫ニ關シ最新ノ研究ヲ附記スベシアレキサンデル Alexander ハ或種類ノ白癬菌ハ動物及人間ノ新感染ヲ防護スト云ヘルブロッホノ說ヲ海狸ニ實驗セリブロッホノ報告ニテハ常ニ免疫ヲ得ルモ著者ノ試驗ニテハ或種ノモノニ限り免疫性ヲ得タルヲ經驗セリ斯クシテ得タル免疫性ハ其ノ最初ノ種ニ對シテノミ免疫性アルニアラズ他ノ白癬菌ニ對シテモ免疫性ヲ有セリ一ニ海狸ニアツテハ第一次ノ接種良好ノ成績ナリシトキハ第二次接種ガ第一次接種後時日ヲ經過シアラザレバ全ク

外見上新タナル白癬感染ト思ハルル症狀ヲ發セシモ鏡檢的ニハ菌ヲ缺如セリ、此ノ如キ例ハ治癒モ速カニシテ皮膚ノ過敏性ヲ示セリ著者ノ利用セル種ハ二十五歳ノ婦人ノ左上膊ノ白癬ニシテ其白癬治癒後半年ニシテ其種ヲ上膊ニ接種セルニ左ハ陰性ナリシモ右ハ陽性ナリシ故ニ此患者ハ移植當時ハ彼レノ元來ノ白癬菌ニ對シテハ一般ノ免疫性ヲ有セズ左側ノミ局部免疫ヲ存セシカ或ハ偶然接種ガ成功セザリシヤ不明ナリプロッホノ成績ト著者ノ成績トノ差違ハ何レニ存スルヤト云フニ接種ニ用ヒシ其ノ材料ノ差違ニ由來スルガ如シプロッホハ其種ヲ深在性ノモノニ採リ此ハ表在性ノモノヲ採レルニ由ル同種ノ菌ニテモ其身體ノ部位即深キカ淺キカハ場合ニ依テ起シ得ルヲ以テ菌ノ種類其モノニ免疫性アルニアラズ浸潤アル深在性ノ白癬ニ免疫性アルヲ見レバ或隨伴症狀殊ニ皮膚細胞ヲシテ新感染ニ對シテ完全ノ免疫ヲ來タス如ク性質ヲ變更スルニハ皮膚ノ炎衝性浸潤與テ力アル者ナラン余ハ「トリコフイチン」ノ效力ヲ疑フモノニアラズ學理トシテハ興味アル問題ナルベキヲ信ズルモノナレドモ單ニ治療ノ目的トシテハ寧ロ迂遠ニシテ煩雜ニアラザルヤヲ疑フ軀幹ニ於ケル白癬殊ニ頑癬ニテモ余ノイヒチオール米糊ノ如キ卓效アルモノアルヲ確信シアレバナリ

白癬傳染ノ狀況

流行ノ狀況モ學校或ハ兵營等ニテ自カラ異ナレリ學童ハ主トシテ頭部ノ白癬ニ罹リ兵卒等ニハ主トシテ無毛部ノ白癬殊ニ小水疱性及頑癬ノ流行ヲ見ルコト多シトス故ニ小學校ニ於テハ頭部白癬ノ豫防法ヲ講ジ充分治療ヲ盡サザレバ傳播ヲ防止シ得ズ明治三十六年板橋小學校ニ於テ多數ノ頭瘡流行アリテ之ヲ新聞紙上ニ喧傳シテ世間ノ視聽ヲ惹キタリシコトアリ其百分率ハ一〇%ヲ算シテ當局者ニ恐慌ヲ來タサシメタル歴史アリ之ヲ摘録セバ左ノ如シ

板橋小學校ニ於テ發見セル流行性頭瘡ノ病原菌ニ關シ百瀬遠山兩學士ノ報告)
就學兒童中既ニ數年來頭部ニ一種ノ白癬様ノモノノ發生セルヲ散見セシコトアリ必ズシモ一時ニ急速ニ發生シタルモノニハアラズ然レドモ、暑中休暇後特ニ其數ヲ増加セシハ事實ニシテ全校就學兒童ヲ診察シタル結果總數五百八十七名中五十七名ノ白癬(寄生性)患者ヲ發見セリ。

白癬患者ハ單ニ貧富ニ依リテ其多少ヲ決スベカラズト雖モ、概シテ貧民ノ兒童ニ多ク又之ヲ級ニ依リテ區別セバ下級ニ多ク、上級ニ至ルニ隨テ減少ス、即チ尋常科生徒

ニ多ク高等科生徒ニ少ナシ、殊ニ注意スベキハ女子ニハ一名ノ罹病者ヲモ存セザリシコト是ナリ即チ左ノ如シ

尋常科	男	五十三	女	ナシ
高等科	男	四	女	ナシ

兩氏ハ停學中ノ患者八名ニ就キ診察ヲナシタル結果、七名ノ白癬患者ト一名ノ黃癬患者トヲ得、此兩種ノ患者ヨリ抜き取りタル髮ヲ寒天培養基ニ移植シ其發生ヲ待チテ之ヲ檢シタルニ白癬ト診斷セラレシ者ヨリモ、黃癬ト診斷セラレシ者ヨリモ共ニ各々異ナリタル絲狀菌ヲ顯微鏡下ニ見ルヲ得タリ、其所見ハ白癬菌ハ黃癬菌ニ比シテ菌絲稍太クシテ長ク、芽胞ハ比較的少數ナリキ、而シテ培養基ニ發育シタル絲狀菌ノ狀況ハ嘗テ山田、旭加納、栗田諸學士ノ培養セシモノト一致セリ、土肥、旭兩氏ノ所謂「しらくも菌」ト極メテ相類似セルモ、しらくも菌ニ原因スル頭瘡ハ白癬ニ比シテ周圍ニ増殖スルノ度少ナク、斷髮スルコト弱ク、長日月存在スルトキハ毛髮粗トナルノ觀アリ、且癢痒ノ感少ナシ、培養上ニ於テモ菌絲短ク、色素ノ發生ヲ見ル

板橋小學校ニ於テ發生シタル頭瘡ハ以前ヨリ存在シタルモ十月初旬ニ於テ小流行ヲナセシモノナルコト明カニシテ、罹病兒童ハ學校ニ於テノミナラズ、放校後ニ於テ

モ傳染スルノ機會ハ存セシモノナルベク、唯ダ女子ニ一名ノ感染病者ヲモ生ゼザリシハ男兒ニ比シテ髮ノ保護宜シキコト、遊戯ノ方法異リテ相觸接スル機會少ナキコト、帽子ヲ用ヒザルコト等ニ基因スルモノナルベシ、而シテ黃癬ハ學校内ニ於テ傳染シタリシ形跡ナク、只ダ住居ノ相接近セル兩家ノ兒童ニ於テ之ヲ見ルノミナリキ

又同三十七年四谷小學校ニ於ケル流行ハ三%ヲ示シタリ

(四谷小學校ニ於テ發見セル流行性頭瘡ノ病原菌ニ關シ、栗田章司氏ノ調査セル事項)

全生徒	九百〇五名	ノ内患者	ハ二十九名	ニシテ之ヲ級ニ依リテ細別スレバ
尋常科	一年生		十五名	
同	二年生		六名	
同	三年生		四名	
同	四年生		一名	
高等科	一年生		三名	

トナル(以上淺野校醫調査)

右二十九名ノ患者ハ悉ク男子ノミニシテ、女生徒三百八十七名中一名モ本病ヲ認め

ザリシハ板橋小學校ニ於ケルト同一ノ關係ナリト謂フベシ。而シテ本病患者ハ明治三十六年ノ夏季ニ於テ既ニ八九名アリシモノノ如キモ、爾來徐々ニ蔓延シテ此數ニ達シタルモノナリ。其傳染徑路ハ略ホ明カニシテ多クハ隣席セル生徒間ニ於テ傳染セル事實ヲ確メ得タリ。

氏ノ診察セシハ十名ニ止マルモ、校醫淺野氏ノ調査セシ所ニ據ルモ定型性ノ寄生性匍行疹ノ外ニ土肥氏ノ所謂「しらくも」型ノ者アルヲ認ム。抑モ「しらくも」ナル名稱ハ俗間ニ於テハ頗ル廣義ニ使用セラレ、嘗テ旭學士ガ皮膚科學會ニ於テ演述セラレタルトコロノ如ク、其中ニハ白癬(土肥氏)即チ頭部寄生性匍行疹、黃癬(土肥氏)乾性皮脂漏、時トシテハ皮脂漏性濕疹ヲモ混同セルモ、土肥博士ハ之ヲ狹義ニ用キテ一種ノ絲狀菌性糝糠疹ノ病名トナセリ。而シテ脂漏性濕疹ハ所々ニ濕潤部アリ且ツ黃色ノ痂皮アリ、乾性脂漏ハ廣延性ニシテ境界不明ナリ。又黃癬ハ特異ノ黃色盃狀物アリテ毛髮ノ根部ニ嵌入シ、毛髮脱落シテ禿頭ヲ止メ、皮膚ハ癢痕萎縮ヲ呈スルヲ以テ容易ニ鑑別スルコトヲ得ルモ、稍々困難トスルハ土肥氏ノ「しらくも」ト白癬トノ鑑別ナリ。

土肥博士ノ解釋ニ依レバ

絲狀菌性糝糠疹ハ凡ソ豆大ヨリ一厘乃至五厘銅貨大ニ止マレル圓形部位ニ白色

糝糠狀ノ乾燥セル鱗屑多少滯積シ、其部ノ毛髮ハ多ク脱落シテ稀少トナレルガ爲メニ半禿形ヲ成スモ決シテ中斷スルモノニアラス。又此圓形病竈ノ中心或ハ邊緣ニ水疱若クハ結節ヲ形成スルコトナシ。間々蔓延シテ顔面ニ發生スルトキハ俗ニ所謂「はたけ」ヲ成シ、輕微ノ癢痒アルモ白癬ノ如ク甚シカラズ云々

之ニ反シテ白癬(頭部寄生性匍行疹)ニアリテハ毛髮ハ中途ヨリ折斷シ、病竈ハ漸次増大シテ手掌大ニ達スルモ、決シテ全然其部ノ禿髮ヲ呈スルコトナク、病竈ノ邊緣ニ於テ多クハ水疱若クハ赤色小結節ヲ認ム。若シ顔面ニ發生スルトキハ俗ニ所謂「錢田蟲」トナリ、癢痒ハ前者ヨリ遙ニ著シク、落屑ノ滯積ハ前者ヨリモ稍々少ナキ觀アリ。

氏ハ以上諸點ヲ立脚點トシテ臨牀的ニ診斷ヲ下シ、次デ培養試驗ヲ行ヒシニ多數ノ場合ニ於テ相一致セシモ時ニ或ハ齟齬スルコトアルヲ實驗セリ。即チ氏ガ四谷小學校ニ於テ白癬ト診斷セシ二名ノ患者ト絲狀菌性糝糠疹ナラント思考セシ一名ノ患者トヨリ毛髮及鱗屑ヲ採リテ之ガ培養ヲ試ミシニ前者ノ一名ハ陰性ニ終ハリシモ、他ノ一名ト後者トヨリハ共ニ陽性ノ成績ヲ得テ、而カモ同一種ノ微菌、即チ白癬ニ特異ノ絲狀菌(トリヒョフ、イトン、トンズランス)ヲ得タリ。

白癬菌モ「しらくも」菌モ共ニ黃癬菌ニ比シ發育力遲緩ニシテ孵卵器内ニ置クコト三

日乃至四日ニシテ漸ク肉眼的ニ認め得ル集落ヲ形成ス。而シテ、しらくも菌集落ハ周圍ニ放線狀ニ菌絲ヲ出シ、恰モ粟毬狀ヲ呈スルモ、白癬菌ハ周圍ニ不規則ニ菌絲ヲ突出シテ恰モ木根ノ如シ。尙ホ時日ヲ經過スルニ從ヒ、しらくも菌ハ褐紫色ノ色素ヲ分泌スルモ、白癬菌ハ稍々黄色ヲ呈スルノミ。顯微鏡的ニ検査ヲ行フニ、白癬菌ハ、しらくも菌ニ比シ菌絲ノ迂曲スルコト強ク、且ツ白癬菌ノ各節ガ膨大シテ球形、紡錘形或ハ多角形ヲ呈スルコト、しらくも菌ヨリモ多數ナリ。

豫防法トシテハ患者ヲ健康生徒ヨリ隔離スルカ或ハ登校ヲ禁ジ、尙患部ニ接スルモノ例ヘバ帽子、襟卷、枕竝ニ理髮用ノ器具ニ注意セザルベカラズ。之ガ治療法ハ、しらくもタルト白癬タルトヲ問ハズ、同一方法ニテ可ナリ。即チ毎日一回加里石鹼ヲ以テ洗滌シタル後フオルマリン・テール・ナフトール昇汞或ハ撒里矢爾酸ノ酒精溶液ヲ塗抹ス。然レドモ最モ有效ナルハ土肥博士ノ禿髮膏(石炭酸五・〇撒里矢爾酸一〇・〇ワゼリン一〇〇・〇)竝ニ土肥氏爹兒軟膏(木爹兒硫黃華、亞鉛華各五・〇豚脂五・〇)ナリトス。此他カボシイ氏ノ軟膏或ハウイルキンソン氏軟膏モ多少有效ナレドモ概シテ前者ニ比スレバ表皮ノ剝離スル割合ニ奏效正確ナラズ。而シテ濕疹ノ合併スル多クノ場合ニ於テモ土肥氏爹兒軟膏ハ一舉兩得ノ效アリ。

而シテ壯年者ニ於ケル傳播流行ハ明治三十四年七八兩月近衛歩兵第三聯隊ニ於テ小水疱性白癬患者三百二十有餘名ヲ認め余ト共ニ山岸軍醫検査セルコトアリ。千九百八年レノRichard氏ハ漸次蔓延セル黃癬及白癬ニ對シテ嚴重ナル規則ヲ制定シテ當局官憲ニ提出セリ。氏ハ八千ノ學童及外來患者四六〇ヨリ毛髮寄生病ノ學童ヲ檢出セリ。其約六十五%ハ白癬ナリシ而シテ男童ハ女兒ヨリ多カリシ。此多少ハ彼ノ意見トシテ女兒ノ長髮ハ傳染ニ不利ナルベク且女兒ノ髮ハ多少ノ脂肪アルヲ以テ寄生菌ノ侵襲ニハ殊ニ不利ナルナラント附記セリ。

同年フーベルHuber氏ハシエチベルグニ流行セル小芽胞菌流行ニ際シ公共團體ノ嚴重ナル施設ヲ以テ終熄セシメタルコトヲ報告セリ。一學校ニ三十四人ノ校醫ヲ遣ハシ之ニ理髮者ヲ附シ検査前剃髮セシメ學校ノ検査後更ラニ其家庭ヲモ検査セリ。此ノ如クシテ一萬人ノ検査ニ五十人ノ校醫ヲ要シ三十四例ノ患者ヲ發見セリ。其ノ二十四例ハ頭部ニテ他ハ軀幹ノモノナリキ治療法ハ皆レントゲン放線ナリシ。此小流行撲滅ノ爲ニモ官廳ハ直チニ一萬八千麻克ヲ費セリト嗚呼獨逸ノ衛生的施設ニ不備ナキ誠ニ故ナシトセズ。

盛岡市小學校ニ於ケル學童ニ就テハ高橋眞琴氏八校三千三百五十三人ニ就キ二百

三十名即チ七・〇%強ノ白癬學童ヲ檢出シタリ而シテ其六六・二%ハ小芽胞菌ナリ
 シト云フ氏ハ尙馬ヲ飼養スル家庭ノ者ニ多キヲ認メタリト附記セリ
 小兒ニ於ケル頑癬ハ余未ダ之ヲ認メズ又頭部白癬ノ多數ナルニ反シ無毛部白癬ノ
 併發ヲ見ルコトモ比較的少ナシ即チ事實トシテ童子ノ頭部ハ最モ白癬菌ノ蕃殖ニ
 適スル素質アルモノニ壯年トナルニ從ヒ頭部ハ菌ノ發育及ビ生存ニ不適當ナル
 解剖的生理的ノ狀態即チ組織或ハ分泌ノ變化ヲ生ズルト同時ニ髮ノ長短粗密等モ
 亦多少ノ關係アルベキモノト解釋スベキカ又幼女ノ童子ニ比シテ癩病セザルハ其
 傳染ノ機會遊戯、理髮所ノ器械其他ノ裝置、帽子交換等少ナキハ勿論ナレドモ同時ニ
 毛髮長クシテ菌ノ頭皮ニ附著シ得ルノ機會甚ダ不便タルコトモ亦一大要約タラザ
 ル可カラズト信ズ即チ一家族中ニ於テモ女兒ニ感染ヲ認ムルコト極メテ稀ナルハ
 事實ナリ土肥章司君四谷小學校ニ於ケル調書ニ依ルモ男童四百二十有餘名中二十
 九名ヲ數フルニ反シ女生徒三百八十七名中一名ダモ患者ヲ認メザリシ百瀬遠山君
 ノ板橋小學校ニ於テモ亦一名ノ病女生ヲ獲ザリシガ如キ好適例ナリトス
 今左ニ家族間ニ於ケル傳播狀況ノ實驗例ニ見ルモ幼年者ハ頭部乃至顔面ノ傳染ニ
 シテ壯年者ニハ殆ド皆軀幹ヲ犯カスヲ見ルベシ

一、村瀬愛之助(十五歲)はたけ―弟某(三歲)はたけニ傳染シ同家雇人田原友次郎(十五
 歲)モ亦はたけヲ愛之助ヨリ感染セリ

二、小林正心(九歲)頭部白癬兼はたけ―弟正意(八歲)モ同症ニ罹レリ

三、木村豊平(九歲)頭部白癬兼はたけ―弟藤次郎(五歲)左耳ニ落屑性白癬アリ

四、中山政之(十七歲)はたけ―弟重之(八歲)頭部白癬兼はたけ―弟弘之(四歲)モ亦然リ

五、藤田富喜次(十歲)頭部白癬―弟秀男(七歲)―弟某(五歲)共ニ同症アリ

六、池中きう(二十歲)はたけ―同乙女(十七歲)同上

七、高島貞一(三歲)頭部白癬―乳母高橋りき(二十八歲)顔面小水疱性白癬―貞一父某

(四十六歲)胸部小水疱性白癬ヲ貞一治療中ニ發病ス

八、高野一郎(六歲)頭部白癬―母さの(三十四歲)右前膊小水疱性白癬アリ

九、大石さだ(五歲)頭部白癬―母たけ(二十八歲)右腕關節部ノ小水疱性白癬アリ

十、内田福三(九歲)頭部白癬―同家雇人中村常藏(十三歲)右頰部小水疱性白癬ニ罹レ

リ

自家傳染ノ狀態ニ於テモ幼年者ハ頭部白癬ヨリ唯其接近部位ナル顔面ニ來ルはた
 けヲ伴發シ其他ノ部位四肢軀幹等ニ移殖セシモノヲ實驗スルコト極メテ稀ナリ

左ニ其ノ例證トシテ二三ヲ記スベシ

一、高島貞一(三歳) 受診治療中頭部白癬ヨリ第六日ニ左頰部及ビ前額部ニ「はたけ」ヲ生ゼリ

二、山岸景勝(二十四歳) 爪ノ白癬ヨリシテ頭部、臀部、背部ニ小水疱性白癬ヲ發ヒリ

三、今村一義(十一歳) 頭部白癬ヨリ「はたけ」ヲ併發ス

四、吉川敏彦(十一歳) 頭部白癬ヨリ「大はたけ」ヲ併發ス

五、小澤よね(二十一歳) 「はたけ」ト同時ニ右乳房ニ小水疱性白癬ヲ併發シアリ

六、木村豊平(九歳) 頭部白癬ヨリ「はたけ」及ビ右耳輪ニ一個紅斑性白癬ヲ併發ス

七、森みて(十八歳) 「はたけ」ト同時ニ肩胛部落屑性白癬ヲ併發シアリ

今夫レ動物ヨリノ傳染狀況ニ就テハ余ノ研究當時其機會ト時日トヲ得ザリシモ日本ニ於ケル白癬モ亦病原ヲ動物ニ取ルコト絶無ニアラザルベシト雖モ今日尙未ダ動物ヨリノ傳染ヲ會得セシムルノ機會ニ遭遇セズ

左ニ動物ヨリノ傳染ニ關スル報告ニ就キ二三ノ例證ヲ摘譯スベシ

コフィン Cofin 氏ハ髮外ニノミ寄生スル白癬菌ハ動物ノミニ生存シ之ヨリ更ニ人間ニ移植スルモノナリ動物中ニテモ殊ニ牛馬ヲ主トシ家畜ニテハ犬、猫、羊、山羊及ビ

豚ヨリモ傳染シ又鶏ヨリモ傳染スルモノナリト

バウハ Bauch 氏ノ公表セル白癬菌傳染徑路ニ就テノ題下ニ曰ク多年人間ト動物間トノ傳染徑路ヲ調査研究セルニ皆猫、馬ヨリスルコトヲ證明シ得タリト

ローベルト Robert 氏ハ或家族ニテ病原菌ヲ有セシ猫ヲ飼養セシ後數日ニシテ其長女ハ頸部ニ赤色圓斑ヲ發シ次テ一週間後六人ノ兄弟モ亦皆同症ヲ發シ更ニ又三週後六人ノ家族ト一頭ノ犬モ遂ニ罹病スルニ至レルコトヲ報ゼリ

ニューボーン Neuhorn 氏ハ一幼女ノ常ニ愛猫ヲ顔ニ押シ附クルノ性癖アリシ者遂ニ之ニ感染セルヲ見其他二例モ亦常ニ本病ニ罹リアル猫ト嬉戯セル所ノ兒童之ニ感染セルコトヲ實驗セリト

ベルゲル Berger 氏ハ或家ニ飼養セシ猿ヨリ第一著ニ犬ニ傳染シ其犬ヨリ更ニ又人間ニ感染セルコトヲ報告セリ

マルヘルプ Marherbe 氏ハ數年間毎年春季ニ至レバ必ず多數ノ脱毛部ヲ發生スル馬ヨリシテ純粹培養ヲ行ヒ其培養ヲ更ニ馬、犬及ビ豚ニ移植シ研究シテ固有白癬菌及ビ黃癬類似ノ白癬菌ナルコトヲ確メ得タリト

近時余ハ動物ノ白癬ヲ培養セントシテ材料蒐集ヲ農科大學教授時重獸醫博士ニ依

囓シ又直接同氏ノ動物白癬ニ關スル意見ヲ聽取シタルモ少ナクモ東京ニ於テハ家畜犬猫等ニ之ヲ見ルコト少ナキガ如ク又牛馬ノ白癬モ少數ナルガ如シ今日ニ至リ余ノ得タル材料ハ時重博士ヨリ牛ノ白癬ト武藤博士ヨリ馬ノ白癬ノ各一ヲ得タルノミニシテ犬猫等ノ白癬材料ハ時重博士銳意探查セララルモ遂ニ之ヲ手ニスル機會ヲ得ザルノ狀況ナリ以テ家畜ノ流行モ少ナキモノト推知シ得ラルベシ但シ馬ノ白癬流行ハ時ニ乘馬隊ニ之ヲ見ルコトアリ左ニ其ノ流行ノ概況ヲ示スベシ
明治三十六年以降三十七八年ヲ除ク四十四年末マデ七年間ニ於テ白癬馬ハ全師團ノ乘馬隊ヲ合算シテ九九九ナリ三十六年一八一三十九年二三一四十年五三四十一年八三四十二年二三〇四十二年一三七四十四年八四特ニ一隊ニ於テ著明ノ流行ヲ來タセルハ本年ノ騎兵實施學校ノ一四四及ビ砲工學校ノ九二トス

白癬菌培養上ノ形態及之ニ關スル業績摘要

白癬ハ培養上數多ノ變形ヲ呈シ同種ノ菌モ其培養基ノ組成其他ノ要約ニ從ヒテ更ニ諸種ノ變形ヲ來タシ其狀實ニ千差萬別ナルヲ以テグルービー氏ノ「ミクロスポロニアウドウニ」發見以來研究セラレタル事項モ亦頗ル多シ今左ニ其梗概ヲ摘録セ

ントス

絲狀菌ナル白癬ハ海藻類 *Phycomyzae*, *Algenpilz* ニ屬スルモノニシテ菌體ハ植物性ノ菌絲 *Myzelteil* ト蕃殖器官 *Irreproduktionsorgane* トヨリ成ル菌絲ハ即チ換言スレバ根部ニシテ之ハ芽胞即チ種ヨリ發芽シ或ハ芽囊ノ諸種ノ分岐ニ依テ成ルモノナリ
菌絲ハ培養基ノ表面ニ發育スル表面菌絲 *Flächmyzel* ト或ハ又其培養基中ニ侵入スル所ノ根菌絲 *Wurzelmyzel* トアリ又培養基上ノ空間即チ空氣中ニ蕃殖スル空氣菌絲 *Luftmyzel* アリ其他發芽菌絲 *Sprossmyzel* アリテ之ハ種ノ發芽スルト同様ニテ唯其ノ形成セラレタル發芽ガ短カク「くびれ」テ圓ク又ハ橢圓或ハ細長キ者トナルナリ然レドモ此増殖法ハ癩風黃癬ノ培養ノ際見ルモノニシテ白癬菌ニハ之ヲ見ルコト極メテ稀ナリ多數ノ菌絲融合シテ一ノ索狀ヲ形成スルモノアリ此形成ハ小芽胞菌 *Microsporipilz* 及ビ大芽胞菌白癬ノ種類ニ多シ菌絲ハ球狀ニ膨脹シテ爲ニ恰カモ竹ノ如キ外觀ヲ呈スルハ發育ノ當初ニ見ル所ナリ又其ノ膨脹ヲ菌絲尖端ニ來タスコトアリ此時ハ根棒狀ヲ呈ス他ノ菌類ニ於テモ此形成ナキニアラザルモ小芽胞菌ノ如クニハ正規的ニ配列シ又定性的ナラズ
菌絲ガ培養基上ニ長ク蔓延シ且ツ上記ノ如キ菌絲形成ヲ終レバ爰ニ甫メテ固有ノ

蕃殖ヲナス然レドモ此蕃殖ニ適當セル時期ハ其ノ菌ノ種類及ビ溫度、培養基ノ組成及ビ空氣ノ關係等ニ由テ差違アリ

菌絲内ニテ非兩性蕃殖ヲナスヲ菌内芽胞 Endosporen, Endokonidien 又ハ菌芽 Myzelsporen ト云ヒ菌絲外ノモノヲ菌外芽胞 Exosporen, Ectosporen 又ハ單ニ芽胞 Konidien ト云フ吾人ノ皮膚或ハ毛髮ニ於ケル絲狀菌ノ蕃殖ハ菌内芽胞形成ナルモ培養上ニテハ寧ロ菌外即チ芽胞形成ヲ見ルヲ常トス

芽胞 Exosporen ハ直接菌絲ヨリ生ジ又其ノ末端或ハ側方ニ芽胞ヲ包含スル所ノ莖アルモノトシテ生ズ其ノ有莖性ノ芽胞形成ニハ三様アリ

- (一) 芽胞包含器ノ延長シタル後芽胞ハくびれ落ルモ包含器ハ其ノ大サ依然タリ其包含器ノ最先端ニアルモノハ芽胞ノ最熟セルモノナリ
 - (二) 發芽ニ依ル芽胞形成ハ包含器ハ其大サ依然タリ包含器中ニアル大ナル者ハ最熟セルモノニシテ小ナル尖リタル芽胞ハ最モ未熟ノモノナリ
 - (三) 芽胞包含器ノ先端ヨリ芽胞ハ漸次くびれテ一ノ芽胞連鎖ヲ生ズ即チ芽胞包含器ハ消失シテ其ノ代リニ芽胞連鎖ヲ生ジタルナリ
- 芽胞ハ單細胞或ハ多細胞ノコトアリ同一包含器中ニテモ大小アリ普通橢圓形ニテ

薄キ膜ヲ以テ被ハル

芽胞包含器ノ形狀ハ種々アリ然レドモ吾人ノ見ルモノハ絲狀芽胞包含器 Fädige

Konidienträger ヲ多シトス之ハ分岐セズ芽胞ハ無莖ニ交互ニ外方ニくびれ出スカ乃至

又葡萄形ヲ成ス菌内芽胞 Endosporen 又 Chlamydosporen ハ菌絲ノ或部分ハ其ノ隣接セル

菌絲ノ榮養ノ爲メニ其主成分ヲ攝取セラレ爲ニ「プロトプラスマ」減少シ或ハ全ク消

失スルモ榮養ヲ攝取セル菌絲ハ成熟シ厚キ膜ヲ以テ包裡セラル之ニ反シ菌絲發芽

Myzel versprossung ハ芽胞各個ノ配列正規ニシテ外膜ヲ有セズ此「クラミドスポーレ

ン」一般ニ榮養不給ノ結果ニ來タリ菌絲發芽ハ生活力ノ充分ナルトキニ起ルモノ

ト見ルベシ

猫ノ白癬ハ容易ニ「クラミドスポーレン」ヲ形成シ毛瘡性白癬ハ菌外芽胞ヲ形成ス

蕃殖器管モ或菌ハ培養基ノ組成ニ關係ス故ニ一種ノ蕃殖ヲナスモ其ノ宿舍ノ差ニ

テ多様トナルナリ獨リ蕃殖器管ノ多種ナルノミナラズ菌形態モ人工的培養ノ如何

ニ由テ差アリ

フルトマン Furtmann 氏ハ千八百九十一年白癬ノ病原ハ果シテ多種ナリヤ一種ナリ

ヤノ問題ニ就テ研究シ四種ヲ發見セリ即「トリコフイトン、オイヂオホロン、Trichophyton

Oidiophoron「*M. N. T. Mohron*」*Trichophyton eretomophoron*「*A. T. R. Atractophoron*」
及ビ「*P. Terigoidea*」*T. pterigoides* トス而シテ「*O. Ideo-horon*」トハ黃癬類似菌ニシ
テ「*E. Leto-mohron*」ハ小芽胞菌「*A. T. R. Atractophoron*」及ビ「*P. Terigoidea*」ハ固有白癬菌
ノ變形ナリト報告セリ

サブロー「*Sabourand*」氏ハ千八百九十二年ヨリ同九十九年ニ亘リ頭部白癬中小芽胞菌
「*M. C. Rossportia*」*Microsporia* ヲ全然他ノ白癬ヨリ區別シテ遂ニ第一發見者ナルグル
ビー氏ノ名ヲ冠セシメテ之ヲ特ニ「*G. L. Bee*」氏病ト命名セリ而シテ尙此小芽胞菌
以外ニ頭部ニ來タル白癬ニ二種アルコトヲ公表セリ即チ其一ハ大芽胞菌「*Macrosporia*
ニシテ此菌ハ髮中ニテ容易ニ破潰スル菌絲「*Mycelin*」ヲ形成シ且ツ其培養ハ中央部ニ
テ隆起ヲ呈スルヲ特徴トスルモノナリ又他ノ一種ハ髮中ニ於ケル菌絲ハ長クシテ
髮ヲ貫通シ其培養ハ中央部ニ於テ噴火口狀ノ陷沒ヲ呈スルコトヲ特徴トセリ而シ
テ此二種ヨリ由來スル所ノ頭部白癬ハ小芽胞菌ニ因スルモノニ比スレバ臨牀上ニ
於テ已ニ異ナルモノナリ即チ頭部ニ多數ノ病竈ヲ生ジ落屑ナク、又特有ノ落屑性毛
鞘ナク髮ノ折斷端ハ表皮下ニアルヲ以テ唯太キ黒點トシテ見ユルモノナリト而シ
テ「*Bodin*」氏ノ説ニ同意シテ曰ク此二種ハ主トシテ動物ニ寄生スル菌ニシテ時

ニハ人間ニ傳播スルモノナリ人ニ傳染スレバ多ク蜂窠様白癬「*Kerion Celsi*」及ビ毛瘡
Sykosis parasitaria ノ症候ヲ呈スルモノナリト爾來多數ノ研究者出デテ此サブロー氏
ノ業績ニ左袒セル者多シ然レドモ又反對ノ業績ヲ公表セルモノモアリキ

マリ「*Mariandelli*」氏ハ研究ノ結果ヲ報告セリ曰ク培養ハ甚シキ多型ヲ呈シ且ツ
臨牀症候ト一定ノ關係ナシ又曰ク小芽胞菌ト大芽胞菌白癬トノ區別ハ精密ナラズ
同族間ニテモ其ノ一人ハ大芽胞菌ニ一人ハ小芽胞菌ニ犯サレタルヲ見タリ殊ニ同
一人ニテ兩菌ニ犯カサルノミナラズ同病竈ニ兩菌ノ存在セルコトアリ菌種ハ
唯一種ナリ白癬ノ聚落ハ其ノ生活ヲ年餘持長ス白癬ト黃癬ト混合培養ノ際ハ白癬
菌ハ彼ヲ凌駕ス化膿球菌ハ之ニ反シ白癬菌ヲ凌駕ス

「*Adams*」氏ハサブロー氏ノ説ニ反シ小芽胞菌ニテモ炎衝ヲ起シ且ツ十
例ハ蜂窠様白癬「*Kerion*」ヲ惹起シ又頭部ノ白癬ニテ同時ニ軀幹ニ他ノ白癬症ヲ起シ
タリ又大芽胞菌ヲモ見タリト

「*W. H. H.*」氏ハ臨牀上異ナル症候ヲ呈スル十一例ヨリ一種ノ菌ヲ培養シテ菌ハ管
ヲ榮養ノ要約異ナリシ場合ニハ同一培養基ニテモ其ノ培養及形態ニ差アリ即チ管
ヲ肉羹汁ニ培養サレシモノハ黄金褐色ニ陳舊ノ寒天ニ培養セシモノハ暗赤色ノ苔

ヲ示ス又培養時ニ利用スル培養ノ新古ハ同ジク新タナル培養ノ形態ニ影響ヲ與フ又芽胞ノ大小ハ各培養ニテ異ナリ芽胞ノ老若ナルト培養ノ新古ニヨリテ差アリ其他蕃殖器官モ多様ナルコトヲ確認シテ發育形狀、色素及反應ノ變化ハ或臨牀上多少ノ變化アルモ其病理關係ハ同様ニシテ決シテ病的ナル新絲狀菌アルニアラズトウエルシ Waelisch 氏ハ頑癬ヨリ菌ヲ培養セルモ初代ノ培養ニアリシ色及ビ環狀等モ定性ナラズ消失スルコトヲ確認セリ

フオックス、ブラキサル Fox-Baxall 氏ハサブロー氏ノ說ニ反シテ曰ク小芽胞菌ハ無毛部ニモ移行シ得菌絲ハ毛ノ内部ニモ存ズ毛ハ周圍ノ上皮ヨリ早期ニ犯カサルコトナシ又髮外菌ヲ屢々髮内ニ見ルコトアリ比較培養ヲ得ントスルニハマルトーゼヲ應用スベク白癬菌ハ年餘其ノ生活ヲ培養基中ニ保ツ小芽胞菌ノ鶏冠狀芽胞ハ唯培養ノ深部ニアリテ氣中蕃殖器ハ髮外髮内菌ノ者ニ類似ス被膜芽胞 Chlamydo-sporon ハ唯小芽胞菌ト髮外菌ノミニアリ小芽胞菌ト固有白癬菌ハ恐ラク同種ナラントローベルト Robert 氏ハ菌ノ分類ニ就テハ其ノ生理的ニ重キヲ置キ其ノ培養及ビ形態ヲ度外セリ即チ毛ノ角質組織ヲ消化スルヤ否ヤノ能力ガ重要ナル特性ナリト、由テ實驗上之ヲ二種ニ區別セリ其ノ一種ハ角質及ビ皮質ヲ同時ニ、他ノ一種ハ唯皮質

ノミヲ犯カシ後ニ至リ角質ヲ犯スモノナリ而シテ角質皮質ヲ同時ニ犯ス者ハ小芽胞菌ニシテ他ハ固有白癬菌ニ屬スルナリサブロー氏髮内菌ノ區別ノ如キハ之ヲ認めズ是レ種々ノ狀況ニヨリテ髮内菌モ髮外菌タルコトアレバナリ

デクレールアル Duchy, Reale 氏ハ同一人ニテモ其ノ局部ノ異ナルニ從ヒ種々ノ臨牀症候ヲ呈スルコトアリ又一家族中ニテ相互傳染セリト證認セララル者ニテモ臨牀症候ノ異ナルモノアリ臨牀上異ナル白癬ハ其ノ經過中ニ他ノ症候ヲ呈ス例ヘバ頭部ノ乾燥性白癬ノ蜂窠様白癬ニ變化スルガ如シ又毛ノ性狀モ異ナリ毛鞘ヲ有スルコトアリ或ハ之ヲ缺クコトアリ其他毛ノ頭皮上ノ長短直曲アリ故ニ髮内ト髮外菌ヲ區別シ得ズ是等ハ同一培養基上ニ培養シテ肉眼的ニ區別シ得ルモノハ三種ニシテ即チ (一) 絨毛型 Flaum (二) 粉末型 pulverig (平滑 glatt, 隆起 erhaben) (三) 膜様型 Membranartig ナリトセリ

ペラガツチー Pelagatti 氏ハ九種類ヲ其培養上ノ色ニテ區別シコラヴチー氏 Collaotti 氏ハ單純ニ大芽胞菌、小芽胞菌及ビ動物性白癬ナル三種ヲ別テリローゼン、バン氏 Roschbach ハ七種ヲ分チ表在、深在ノモノモ種々ノ絲狀菌ニテ起リ得又一菌ニテ他種ノ菌ノ如キ症狀ヲ起シ得ルト云ヘリクレージング Kroising 氏ハ同一培養基上ニテ三種ヲ

區別シテ同一臨牀上ニテ異菌ニ因リ又ハ反對ニ同一菌ニテ全然異ナル症候ヲ呈スルモノアルト云ヘリ

モリス Morris 氏ハ小芽胞菌ハ頭部ノミナラズ亦皮膚ニモ來タリ其菌絲ハ髮内ニ證明セラル同一人ニテ頭部ニハ小芽胞菌性白癬アリテ頸部ニハ大芽胞菌アルモノアリトウシナ Una 教室業績ニ據レバハムブルグ地方ノ小芽胞菌ハ頭部以外ノ大人ノ露出セル身體ニ來タリ稍頑固ナリ鏡檢的ニハ毛端ヲ圍繞セル芽胞鞘ヲ更ラニ亦圍繞スル毛鞘即チ角質鞘アリト

ブラウト Platt ハ普通ノ白癬菌ガ頭部ニ移行シタルモノノ培養ハ培養上小芽胞菌ノ形態ヲ呈ス同種ニテモ動物ヨリノ培養ハ人ヨリノ培養トハ大ニ異ナレリト白癬ノ臨牀上形態ノ差異ハ各固有ノ一定セル種類ガ原因タルヤ或ハ同一菌ニテ各々異ナレル臨牀形狀ヲ呈スルヤノ問題ニ就テハ全ク一致シタルニアラズ異同アル臨牀上ノ形狀ハ皮膚性質ニ關シ唯菌固有ノ種類或ハ其ノ毒力ノミニ關セザルナリ此菌ハ元來變形シ易キ傾向アルヲ以テ外部要約ノ僅少ナル變化モ已ニ其ノ生活狀態ニ差違ヲ來タスモノニシテ即チ培養基換言セバ宿主ニテモ影響ヲ來タシ其病的變化及ビ培養上ニモ差違ヲ生ズル所以ナリ

ポリーツェル Pollizer ハ十一人ノ小兒ノ頭部白癬ヲ研究中蜂窠様白癬ト無毛部白癬トヲ同時ニ同一人ニ發見セシノミナラズ大芽胞菌性ト小芽胞菌トヲ同一人ニ認め又同一局部ニ於テ兩種ヲ發見セルコトヲ公表セリ之ニ反對シテボチン及ビアダムソン Adanson モリス Morris 氏等ハ是レ畢竟小芽胞菌ノ變形ヲ誤認シタリシモノナラント主張セリ

ボチン氏ハ髮内菌ハ決シテ毛囊ヲ侵カスコトナキモ之ニ反シ髮外菌ハ往々髮中ニモ侵入スルコトアリト云ヘリ

上記ノ如ク諸説アリト雖モ要スルニ白癬菌ハ大別シテ小芽胞菌及ビ大芽胞菌固有白癬菌ノ二種ニ大別ス而シテ其間諸種要約ノ下ニ種々ノ變形ヲ呈スルヲ以テ容易ニ之ヲ分類シ又輕々ニ識別スルコトハ頗ル難事トス

小芽胞菌ト大芽胞菌トノ培養上ノ特徴トシテ記載セラレアル事項概テ左ノ如シ
小芽胞菌 Microsporie ハ其芽胞ノ大サ二—三 μ ニシテ菌絲ノ幅ハ一—五—二 μ ナリ二十四時間ニ發芽シ四日間ニハ多ク分枝セル菌絲ヲ生ズ菌絲ハ短小ニ分節シ眞直ニ長ク放線狀ニ發育シ聚落ハ星狀ヲ成ス(附圖表第七ノ一、二、三)第五日ニハ菌絲中所々ニ異狀ノ膨脹ヲ來タスコト恰モ軀幹ニ於ケル腹部ノ如シ之ヲ最モ特徴トス十二日以

後ニ至レバ其膨脹部ヨリ「クラミドスポーレン」ヲ生ズ又菌絲ヨリ紡錘狀芽胞 *Sphaerospores* 生ズ末端芽胞 *Ektosporen* ハ護膜ノ指袋狀ヲ呈スアガール扁平培養ハ純白ナル絨毛様ノ苔ヲナシテ中央稍々高マリ周圍ハ扁平ナリ而シテ常ニ圓斑ヲナス又時ニハ中央ニ結節ヲ形成スルコトアリ若シ夫レ頭部以外ノ皮膚ニ發セシモノノ培養ニ至リテハ多數ニ分節シタル細キ菌纖維ニヨリ圓形或ハ橢圓形ノ芽胞ヲ有ス

大芽胞菌 *Macrosporic* ハ其芽胞ノ大サ五—六 μ ニシテ培養數時間後已ニ囊狀ノ萌芽ヲ始ム又菌絲ニ異狀ノ膨脹ヲ來スモ決シテ小芽胞菌ニ於ルガ如ク多數ヲ形成スルコトナク且彼ノ如ク速ナラズ三—四日ニ末端芽胞ヲ形成ス其長サハ種々アリ聚落ノ中央及ビ其邊緣ヨリ微細ナル氣中菌絲 *Lufthyphen* ヲ生ジ其先端ニ大サ一・五—三 μ ノ氣中芽胞 *Lufsporen* ヲ戴ク

大芽胞菌ナル固有白癬 *Eigentliche Trichophytie* ハアガール扁平培養ニテ美麗ナル星狀ノ聚落ヲ呈ス不規則ノ長キ菌絲アリ聚落中央ノ性質ハ一定セズ表面ハ塵埃ヲ被ムリシガ如キ外觀ヲ呈スルコトアリ紡錘狀芽胞ヲ形成スルコト多ク其產出スル色素ハ種々ニシテ黄色、ビスマルク青、櫻色、赤色、紫色、薔薇色、褐色等アリ

培養方法

培養法モ亦學者ニヨツテ異ナレリ大約左ノ如シ

サブロー氏ノ小芽胞菌及ビ固有白癬ニ賞用セル培養基ハ左ノ如シ

- I、グリセリン(中性) 四、〇
- ペプトン 一、〇
- 寒天 一、二—一、五
- 水 一〇〇、〇
- II、マルトーゼ 四
- 其他ハトノ如シ
- III、葡萄糖 四
- 其他ハトノ如シ
- IV、ラクトーゼ 四
- 其他ハトノ如シ
- III、IVニハ優勢ニ發育ス培養上ノ特性ヲ見ルハ寧ロIIヲ最乗トス
- 其ノ培養スル材料ノ準備ハ左ノ如シ
- 毛。ハ火焰ヲ通ジタル載物硝子上ニ見ヘザル程細小ニ切除シ之ヲ直接ニ寒天斜

落屑^〇 モ毛ト同様ニス

爪^〇 爪鏝ニテ磨キ其粉ヲ同様處置ス

此ノ如クセバ五個培養中四ハ純培養ナリト

培養ハ室溫ヲ可トス平均攝氏十八度ニテ小芽胞菌及ビ固有白癬菌共ニ三日中ニ肉眼ニテ認め得ルノ聚落ヲ形成ス而シテ純培養ニテハ各種共ニ其ノ特徴ヲ呈ス培養基ノ組成ニ差アレバ菌ノ形狀及ビ其ノ發育ハ變化ス又其培養スベキ器物ノ形狀、溫度、空氣ノ流通、及ビ其ノ移植スル方法例ヘバ多量、少量、深キ、淺キ、邊緣ニ、或ハ其ノ中央等ニ由テ變化アリ

此ノ如クシテ當初試験管ノ斜面培養基ニ材料ヲ適當ノ位置ニ載セ第一ニ發生セシ聚落ヲ他ノ純培養ヲナスベキ培養基ニ移スナリ其ノ目的ニハエルレンマイエル氏コルベンヲ良シトス

クラルス¹²氏ハ白癬又黃癬ノ芽胞ハ甚シク固ク互ニ附着シテ容易ニ單純ナル分解法即チ水ノ如キモノニテハ分離シ得ズ從テ適當ナル處置ヲ施コスニアラザレバ決シテ眞ノ病原菌ヲ分離スルコト難シトシテ左ノ方法ヲ執レリ該法ハ白癬ノ毛ヲ殺

菌セル硅石ト共ニ陶器皿ニテ磨碎シ此粉末一二白金耳ヲ寒天扁平培養トシ一芽胞ヨリ生ジタル聚落ヲ採リ多量純培養ニ用キ之ヲ寒天斜面其他ノ培養基ニ移植スルナリ但シ此方法ニハ材料ヲ稍多量ニ用ヒ又其磨碎ヲ充分ナラシメ寒天ハ熱キモノヲ用ユベカラズ
又化學的材料即チ昇汞無水酒精、硝酸銀等ヲ用ヒテ材料ヲ先ヅ消毒シテ後培養スル方法アリ

クレシニング¹³氏ハ初メ鏝子ニテ挾ミ得ル程度ニ短カク理髮シ頭皮ヲエーテル昇汞殺菌水ニテ洗滌シ然カル後鏝子ニテ抜毛シ毛根ヲ細切シ寒天斜面培養或ハ扁平培養ヲ行ヒ其ノ聚落ヲ採リ殺菌水ヲ充テタルコルベン中ニテ十分間強ク振盪シ其稍溷濁セル液ノ三白金耳ヲ扁平培養ニ移植ス

ヤダソン¹⁴ Jackson氏ハ刀刃ニテ内方ヨリ外方ニ起コシタル落屑ヲ十分間一〇%硝酸銀液中ニ置キ後數回殺菌水ニテ洗滌シ之ヲ深ク培養基中ニ插入シテ其ノ表面ニ培養發育シタルトキ之ヲ採リ移植ス

ウンナ¹⁵ Uina氏ハ時々二五%酒精ヲ以テ洗滌シ以テ雜菌ノ聚落發生力ヲ減弱セントセリ

プラウト *Plaut* 氏ハ上記方法ヲ適當ニ取捨シテ左ノ如クセリ

毛若シクハ落屑ノ疑ハシキ局部ヨリ毛ナレバ大約六本落屑ナレバ半扁豆大ヲ取リ之ヲ殺菌セル載物硝子上ニ置キ一%加糖肉羹汁ノ二白金耳ヲ滴下シ燒灼シタル針ニテ落屑ヲ細分ス後チ他ノ殺菌セル載物硝子ヲ載セテ平等ニ溷濁スルマデ互ニ壓搾シ暫時ノ後之ヲ離シ各硝子ニ新タニ二白金耳ノ加糖肉羹汁ヲ加ヘ之ニ「デック」硝子ヲ載セテ中度擴大ノ顯微鏡ニテ檢スルニ大部分ハ芽胞ハ分離セラル依テ更ラニ二—四白金耳加糖肉羹汁ヲ加ヘ稀釋シテ後寒天扁平培養トス此方法ニテハ一芽胞ヨリ發芽セルモノヲ研究シ得ラルルナリ此ノ如クセバ集簇芽胞ヨリ出來シモノトハ外觀大ニ異ナレリ

實地醫家ニ推獎スベキ單純ナル方法ハ安置法 *Insitu methode* ナリ即チ疑ヒナキ材料例ヘバ落屑毛ヲ殺菌セル載物硝子ニ置キ殺菌被蓋硝子ニテ被ヒ燻ノ點滴ニテ固定シ溼潤セル箱ニ入レ室温或ハ孵卵器ニ入ルレバ菌絲ノ發芽ハ孵卵器中ニテハ數日中ニ認め得ベシ但シ材料古キカ又ハ他ノ消毒藥等ヲ使用セルトキハ成績良ナラズ一般ニ病的絲狀菌ハ液體培養基ニハ速カニ且ツ完全ニ發育ス殊ニ牛乳ニ於テ然リ馬鈴薯ニハ其發育最モ遲シ

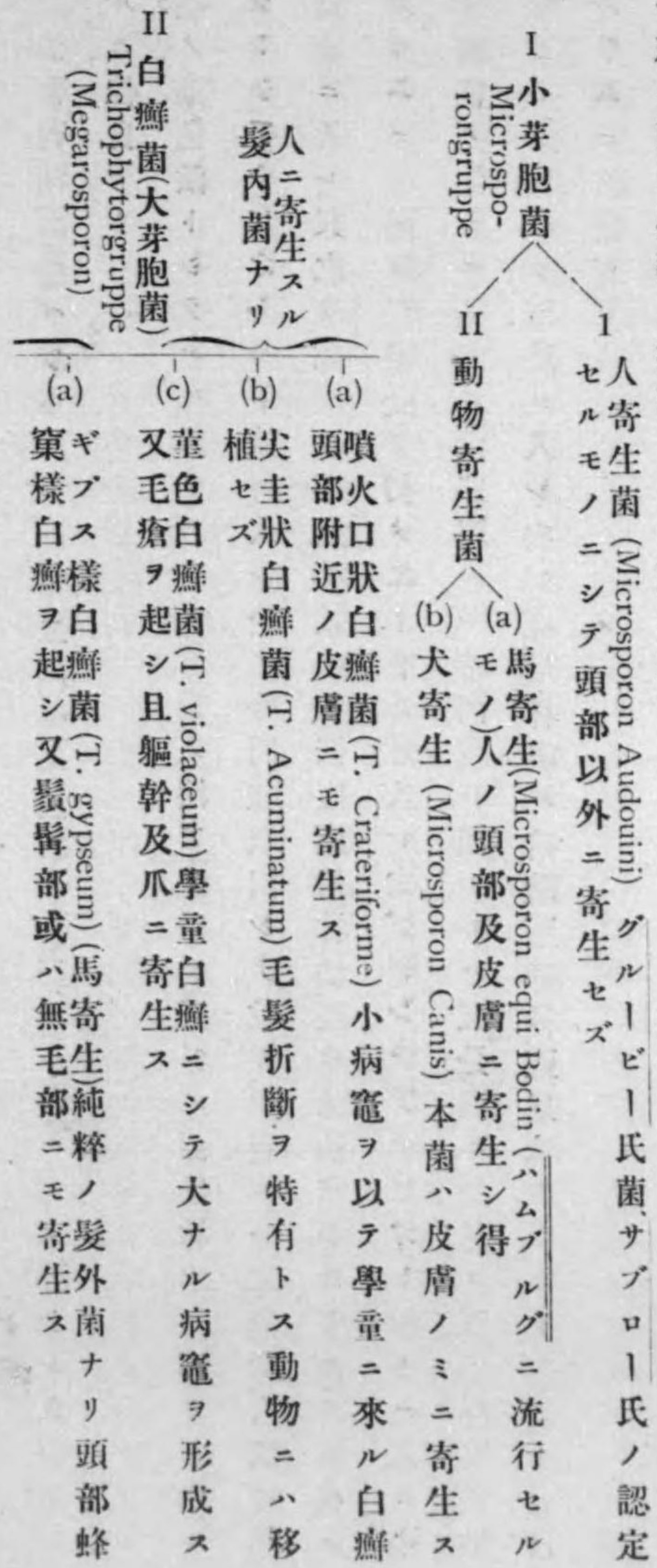
其他葡萄糖三・〇ペプトン一・〇—二・〇寒天一・五水一〇〇〇ハ大培養トシテ使用スルニ佳良ナリ

毛〇〇染色法トシテハモルリス *Morris* 氏ノ法アリ毛ヲ五%ノ亞尼林水ニ溶カシタルゲンチアナピオレット液ニ入レ一二分間後取出シテ乾カシ更ニ一二分沃度沃度加里液ニ入レ又之ヲ乾カシ亞尼林油次デ沃度亞尼林油亞尼林油キシロールカナダバルサムニテ閉ヅ又毛髮ヲ初メエーテルニ入レ次デゲンチアナピオレットニ入ル小芽胞菌ハ速カニ染色シ大芽胞ハ一時間或ハ温ムレバ五分間ニ染色ス又二%石炭酸フクシン液次デ沃度ニ入レ次デ亞尼林或ハ硝酸亞尼林亞尼林キシロールカナダバルサムニテ閉ヅ

小芽胞菌ト大芽胞菌トハ地理的關係ニ因テモ差違アルガ如シ千九百年サブロー氏ノ公表セル論文中ニ曰ク花ニ季節アルガ如ク白癬モ國ニ依テ其種類ヲ異ニス佛國ニハ二十種類ノ白癬ヲ算セリアウドウニ一氏小芽胞菌ハ獨リ佛國巴里及ビ英京倫敦ニ傳播シ獨國ニハ唯一小部分ニノミ其存在ヲ證明セラレタルノミ愛蘭ニハ爪ノ白癬ヲ見ルコト多シ是レ皆羊ヨリ感染スルモノナリ又支那ニハ環狀白癬多シブレストラウニ於テモナイセル *Neisser* 氏ニ從ヘバ小兒頭部白癬ヲ見ズト此ザブローノ支

那ニ獨リ環狀白癬ノミナリト斷言セルハ蓋シ皮相ノ見解ナリ上記支那ノ臨牀上症候ニ引證セルガ如ク明カニ小芽胞菌性白癬ノ流行ヲ認ムルコトヲ得ベシ況ヤ青木大勇君調査報告ニ係ルモノニ依レバ臺灣ニ於テハ本症廣ク蔓延シ北臺北ヨリ南中央臺灣ニ存在ス即チ臺中公學校、梧樓公學校、牛罵頭公學校等ノ學童平均二〇%ハ頭部白癬ヲ示セリト云フノ事實アルニ於テオヤ

今左ニ菌ノ分類ヲ摘記スレバ左ノ如シ



動物ニ寄生ス

- (b) 猫寄生白癬菌 (T. felinum) 二種類アリ人ニハ皮膚ノミニ寄生ス
- (c) 薔薇色白癬菌 (T. rosaceum) (鳥ノ寄生菌) 毛瘡ヲ起ス
- (d) 黃癬樣白癬菌 (T. faviforme) (T. 犢ノ寄生菌) 頭部鬚及皮膚ニ寄生ス

余ノ培養セル白癬菌肉眼的所見

余ハ全然培養ヲ直接ニ毛或ハ落屑ヨリ寒天斜面或ハ扁平ニ培養シテ以テ分類ノ標準點ヲ定メントセリ

爪、白癬、及、手、ノ、頑癬、 村越ふく

患者ノ爪ノ小片及手ヨリ落屑ヲ採リ酒精ニテ數十秒間消毒シ更ニ滅菌水ニテ充分洗滌シ之ヲアガール斜面培養基ニ載セ置キ攝氏三十五度ニ於テ培養シ第三日ニ至リ左ノ純粹培養ヲ得タリ

- (A) 落屑ヨリ得タルモノハ其落屑ヲ中心トシテ白色ノ圓斑ヲ形成シ表在性ニ蔓延發育シ中心部稍高ク絨毛樣ノ菌絲ヲ出ス聚落ノ邊緣ヨリハ一層長キ菌絲ヲ形成ス(第八表第一圖)
- (B) 爪ヨリ培養セシモノモ亦落屑ト同聚落ヲ呈セリ(第八表第二圖)

更ニ爪ノ一片ヲ處置スルコト上記ノ如クシ之ヲゲラチン斜面ニ投入シ室温ニ保持シ第三日之ヲ檢スルニゲラチンハ已ニ自然ニ溶解シテ爲ニ爪片ハ管底ニ沈下シ黒褐色ヲ呈シ其沈下物ノ周圍ヨリ短キ白色ノ菌絲ヲ放散ス又ゲラチンノ中層ニ於テハ恰カモ綿ノ小片ヲ投入セシ如キ雪白ノ美麗ナル培養ヲ認ム

又落屑ヲ上記ノ如ク處置シゲラチン斜面ニ培養セシニ其表面ニ淡褐色ノ花粉ヲ撒布セシ如キ苔ヲ生ジ苔ハ皺襞ヲ呈ス苔ノ表面ニハ氣中菌絲アリ

(A) 及ビ(B) 培養ヲ血清(陰囊液)アガール斜面ニ移植セルニ褐色花粉様ノモノニテ被ハレシ如キ苔ヲ生ジ其一部ニハ淡紅色ノ色素ヲ產生スル所アリ之ヲ(C)トス其第三第四代純粹培養モ皆大同小異ノ聚落ヲ獲タリ

(C)ヲ取り之ヲ馬鈴薯ニ移植シ攝氏三十五度ニ保温シ放置シテ第十一日之ヲ檢スルニ豌豆大半球形ニシテ表面細砂若クハ褐色花粉様ヲ以テ被ハレタル白色聚落ヲ形成ス其儘室温ニ放置スルコト一ヶ月ナリシモノハ其形狀恰モ腦廻轉ヲ見ルガ如キ觀ヲ呈セリ其色淡褐色ナリ(第三表第十二圖)

(C)ヲ取り同様薩摩芋ニ移植シ第十一日ノモノヲ見ルニ平面ニ蔓延蕃殖セル白色絨毛様ノ圓斑ナリシ

頭、白癬、 小林正心

局部ノ髮ヲ拔去シ上記ノ如ク消毒シ陰囊アガールニ投入シ室温ニ放置セルニ第三日ニ至リ其髮ノ周圍ヨリシテ白色放線狀菌絲ヲ發生セリ尙之ヲ室温ニ放置セルニ漸ク時日ヲ經ルニ從ヒ漸々帶黃褐色ノ中心ヲ有シ周圍放線モ眞直ナラズ多少ノ屈曲ヲ有シ其先端稍々膨脹セルコトヲ認ム之ヲ(A)トス

(A)ヲアガール斜面ニ移植セルニ一ヶ月ヲ經過セルモ漸ク豌豆大半球形ニシテ其周圍ヨリ恰カモ蟹足狀ニ不同ノ突起ヲ出シ表面ト深部トニ殆ンド同様ニ發育シツツアリ遂ニハ其培養ハ半球形ノ巔頂ニ噴火口狀ニ破裂開口セリ(第八表第三圖)

頭、白癬、 木村豊平

局部ノ髮ヲ處置スルコト同上ニシテアガール斜面ニ培養シ室温ニ放置セルニ第四日ニ至リ髮ノ周圍ヨリ特有ノ白色放線狀菌絲ヲ發生シ恰モ星狀ヲ呈シ其發育最モ徐々ナリ之ヲ(A)トス

(A)ヲ取り之ヲアガール斜面ニ移植シ室温ニ置ケリ第三十日ニ至リ大サ五厘貨大トナリ其周圍ヨリ不正長短ノ蟹足狀ノ突起ヲ出ス其毛暗黃色ニシテ聚落ノ全形ハ恰カモ莖葉乃至錯節セル木根ヲ見ルガ如シ此培養ハ皆個々ニシテ決シテ融合連續シ

テ一ノ若ヲ形成スルコトナシ發育當初ハ恰カモ白色星狀ノモノナルモ時日ヲ經ルニ從ヒ蟹足狀突起即チ菌絲モ透過光線ニテ漸ク放線纖維タルコトヲ認識シ得ルノミ又培養基ノ表面ニ充分發育蕃殖セズ表面ヨリ寧ロ深部ニ著シキ速度ヲ以テ發育ス培養ノ中央ハ陳舊ノモノニ於テハ小結節ヲ形成ス斜面培養ニテハ試験管ノ側面ヨリ透見スレバ培養基ノ深部ニ向テ盛ニ突起ヲ發生シツツアルヲ認ム其形概シテ束針狀ナリ之ヲ(B)トス(第九表C圖)

頭部白癩 川久保安雄

局部ノ髮ヲ前法ノ如ク處置シアガール斜面ニ培養セルニ木村菌ト同色同型ナリ又拔毛ヲ小乳鉢ニテ磨碎シアガール扁平培養ヲ行ヒ三日間三十五度ニ保温シタルニ一錢貨大白色絨毛様ノ長キ白線狀纖維ヲ有スル遠心性ノ層重セル蛇目形圓斑ヲ形成ス又他ノ扁平培養ハ絨毛様豌豆大半球形ヲ形成ス之ヲ更ニアガール斜面ニ移植シ室温ニ放置セルニ其形狀扁平培養ト異ナラズ之ヲ(A)トス

(A)ヲ取り薩摩芋ニ移植セルニ室温ニテ二十四日後僅カニ隆起セル稍々白色微細ノ粉末ヲ撒布セシ如キ小結節個々ヲ形成セリ

(A)ヲ取り更ニアガール斜面ニ移植セルニ原型ト其形狀ヲ異ニシ褐色ニシテ半球形ニ膨隆シテ四圍ニハ蔓延發育セズ其大ナルモノモ豌豆大ニ至ツテ更ニ増大セズ半球形ノ邊緣ニ於テ肉眼眼ニハ放線ヲ認メ難シ時日ヲ經ルニ從ヒ漸ク其培養ノ中心ハ噴火口ノ如ク陷凹シテ爰ニ其結節狀培養ハ實質性ニアラズシテ薄キ苔様ノ半球形ニ膨脹セルコトヲ知ル之ヲ(B)トス

(B)ヲ取り薩摩芋ニ移植シ第五十一日ニ至リ之ヲ檢スルニ其形狀稍々蔦葉ノ如ク其色黒褐色ニシテ扁平ナル苔ナリ其周縁ニハ稍々短キ絨毛様放線ヲ認ム

頭部白癩 武井伴四郎

落屑附著ノ儘ナル髮ヲ拔去シ前記ノ如ク處置シ普通アガール斜面ニ載セ室温ニ放置ス第四日ニ至リ之ヲ檢スルニ毛ノ球部ヲ中心トシテ圓形ニ放線ス其色白色ニシテ實ニ星狀ナリ漸ク時日ヲ經ルニ從ヒ豌豆大半球形ニ發育シ表面白色絨毛様ヲ呈シ聚落個々ニ發育ス其半球形ノ邊緣ヨリハ透過光線ニテ認識シ得ベキ短キ放線アリ第五代ニ至ル迄ハ毎代殆ンド皆同一ノ發育培養形態ヲ呈ス之ヲ(A)トス(第八表C) (A)ヲ取り馬鈴薯ニ移植シ室温ニ放置シ第五十一日ニ至リ之ヲ檢スルニ其發育遅々

トシテ僅カニ豌豆大ノ鬚アル帶黄灰白色ノ恰カモ鶏冠ニ比スベキ培養ヲ得タリ
頭部、白癬、 小林一

局部ノ髮ヲ拔去シ同上處置シアガール斜面ニ載セ攝氏三十五度ニ保温シ第二日ニ至リ已ニ其髮ノ周圍ニ白色星狀ノ美麗ナル聚落ヲ認メタリ之ヲ(A)トス

(A)ヲ取り之ヲアガール斜面ニ移植シ室温ニ放置セルニ其發育極メテ早ク忽チ圓斑聚落ヲ形成シ絨毛様白色ノ長キ氣中菌絲ヲ出セリ漸ク陳舊ナルニ從ヒ黑色ノ氣中芽胞ヲ戴キ其氣中菌絲ハ自然ニ倒潰シテ爲ニ不規則ナル表面ヲ呈スレドモ其全培養ノ圓斑タルコトヲ失ハズ

第二代アガール斜面ニテハ其培養ノ中央ハ黑色ヲ呈シ周圍ニ於テ放線狀ヲ認メ難シ培養ハ表在性ニシテ苔ヲ形成ス之ヲ(B)トス

(B)ヲ取り馬鈴薯ニ移植スルニ室温ニテ第十日ニハ長キ白色絨毛様或ハ綿ノ如クシテ其發育ノ旺盛ナル他ニ其比ヲ見ズ數日後ハ遂ニシアレーノ蓋ニ達シ此處ニテモ盛ニ蕃殖放線シツツアリ

(B)ヲ里芋ニ移植セルモノモ同様其邊縁ノ放線長短不同ニシテ蕃殖旺盛其色純白ナリ
(B)ヲ薩摩芋ニ移植セルモノモ亦同様其發育殊ニ甚シク中央稍々凸凹不平ヲ生セル

ノ差アルノミ

本菌ハ發育旺盛菌絲ハ長ク其培養狀態ヨリ推定セバサプロー氏ノ所謂ギブス様白癬 *Trichophyton Gypseum Sabourand*, (Reiner Eklohrx) ニシテ眞ノ髮外性大芽胞菌ト判定スベキカ

其他小山開治第七表第十五B、第九表B、戸崎廣第七表第十五圖C、第十一表

B、大川清吉、遠山豊之助、田口清四郎、等皆アガール斜面ニ培養セル結

果髮自己ヲ培養セルモノモ皆木村豊平菌ト同一聚落培養ヲ得タリ

頭部、白癬、兼は、たけ、 中山重之

落屑ヲ小乳鉢ニテ磨碎シアガール扁平培養ヲ行ヒ三十五度ニ保温シ第三日ニ至リ長キ放線ヲ出セル白色星狀ノ培養ヲ得タリ之ヲ(A)トス

(A)ヲアガール斜面ニ移植培養セルニ透見シ得ベキ白色放線ヲ出シ比較的蔓延シテ迅速ニ苔ヲ形成セリ之ヲ(B)トス

(B)ヲ取り里芋及ビ薩摩芋ニ移植セルニ里芋ノ培養ハ白色絨毛様ノ圓斑ヲ呈シ薩摩芋ノ培養ハ第三表B、蛇目形ナル遠心性圓斑ヲ形成セリ

頑癬、 太田道和

左鼠蹊部及ビ大腿部ヨリ落屑ヲ剝離シ乳鉢ニテ磨碎シゲラチン扁平培養ヲ行ヒ室
温ニ放置シ第四日ニ至リ培養ハ白色綿ノ如キ圓斑トシテ其中心部ハ稍々隆起シ周
圍ハ細長ナル放線ヲ出ス之ヲ(A)トス

(A)ヲ取りアガール斜面ニ移植セルニ第九日ニ至リ全斜面ニ蔓延セル白色絨毛様ノ
苔トナリ培養基深部ニ發育セバ唯其表面ニ蔓延スルノミ之ヲ(B)トス

(B)ヲ取り之ヲ馬鈴薯ニ移植セルニ第五日之ヲ檢セバ綿様白色ニシテ長キ纖維ヲ出
シ且其聚落ニ油様ノ球ヲ産出スルヲ認ム

瓜、ハ、白、癬、及、小、水、疱、性、白、癬、 山岸景勝

瓜ノ小片ヲ取り之ヲ乳鉢ニテ磨碎シ三個ノゲラチン扁平培養ヲ行フ第一ノ培養ハ
五厘貨大ノ圓斑ニシテ白色綿様ノ長キ放線狀纖維ヲ出ス漸ク發育スルニ從ヒ中央ハ
綠褐色ノ色素ヲ産出ス第二ノ培養ハ帶綠褐色ノ正圓斑ニシテ絨毛様ノ遠心性環狀ヲ
呈セルモノナリ(第三表A)第三培養ハ帶赤褐色ノ絨毛様半球形ヲ呈セリ之ヲ(C)トス
(C)ヲ採リアガール斜面ニ移植セルニ白色綿狀ノ苔ニシテ長キ放線狀纖維ヲ出ス

瓜、ハ、白、癬、 遠藤智明

其瓜ノ小片ヲ同上處置シゲラチン扁平培養ヲ行フ其形ハ大小不同ナレドモ皆正圓

斑ノ褐色絨毛様遠心性聚落ニシテ山岸第二培養ト同種ナルコトヲ認ム唯其色ノ異
ナルアルノミ

「は、た、け、」 山口守三郎

落屑ヲ剝離シ之ヲ乳鉢ニテ磨碎シアガール扁平培養ヲ行ヒ攝氏三十五度ニ保温ス
第四日ニ至リ絨毛様ニテ皺襞アル瓜大ノ綠褐色圓斑ヲ形成ス之ヲ(A)トス

(A)ヲ取りアガール斜面ニ移植スルニ初メハ白色ニシテ透見シ得ベキ遠心性層重ノ
環形ヲ呈セル放線狀纖維ヲ有スル小圓斑ナリシモ之ヲ放置セシコト四十餘日ニシ
テ全ク綠褐色ノ白砂若クハ花粉ヲ撒布セル如キ苔ヲ形成シ更ニ曩日ノ觀ナシ第六
表「然レドモ其遠心性環形タルコトハ依然タリ之ヲ(B)トス

(B)ヲ取り里芋、馬鈴薯、薩摩芋、ニ移植セルニ皆絨毛様褐色圓斑ナリ(第四表第一第二圖)
「は、た、け、」 高島貞一

落屑ヲ摩擦シゲラチン扁平培養セルニ一見白色ノ圓斑ニシテ絨毛様纖維非常ニ微
細ナルヲ以テ透見スルニ非ザレバ認メ難シ之ヲ(A)トス

(A)ヲ取りアガール斜面ニ培養ヲ行フ第十二日ニ至リ純白色ニシテ微細ナル絨毛様
ノ苔ヲ生ズ之ヲ(B)トス(第六表d)

(B)ヲ取り馬鈴薯ニ移植セルニ第五日ニ至リ綿様ニシテ周圍ニハ長キ絨毛様纖維ヲ發生シ純白色ナリ中央稍々隆起ス

小水疱性白癬 高橋りき

落屑ヲ取り同上處置シゲラチン扁平培養ヲ行フ第十二日ニ至リ白色ノ大圓斑ニシテ僅カニ透見認識シ得ベキ長キ放線ヲ出ス之ヲ(A)トス

(A)ヲ取りアガール斜面ニ移植スルニ第三日ニ至リテ已ニ全培養基ニ蔓延セル純白色絨毛様ノ苔ヲ形成ス(第十一表A)斜面全部ニ氣中菌絲ノ發生最モ旺盛ナルヲ認ム之ヲ(B)トス(第六表b)

(B)ヲ取り之ヲ馬鈴薯ニ移植シ第五日ニ至リ其色及ビ形狀發育狀態全ク貞一菌ト同様ナリ彼ノ培養ニ比シ唯其絨毛ノ長キヲ覺ユ之ヲ放置セルニ其發育最モ旺盛ニシテ其外觀恰カモ綿ヲ置キシガ如キヲ認ム

「はたけ」 井上すゝ

左耳ノ落屑ヲ同上處置シアガール扁平培養ヲ行ヒ第三日已ニ五厘貨大ノ純白色絨毛様圓斑ヲ形成シ周圍ヨリ長キ放線ヲ出シ中央ハ稍々結節狀ニ隆起ス之ヲ(A)トス(A)ヲ取り之ヲアガール斜面ニ移植シ第三日已ニ中央稍々隆起セル白色絨毛様ノ圓

斑ニシテ發育殊ニ速カナリ

瓜ノ白癬 飯田ぬい

瓜ノ小片ヲ法ノ如ク處置シアガール斜面ニ培養ス第三日ニ至リ五厘貨大ニテ中央稍々隆起シ褐色ノ花粉ヲ撒布セル如ク正規的ノ皺襞アル放線狀ノ稍々長キ纖維ヲ發生シ其周圍ハ白色絨毛様ノ放線ヲ出セル圓斑ヲ形成ス(第六表C 第九表B)

「はたけ」 小林彌太郎

頤部ノ落屑ヲ同上處置シゲラチン扁平培養ヲ行ヒ攝氏三十五度ニ保温シ第五日ニ至リ已ニ五十錢貨大白色ニシテ長キ絨毛様ノ遠心性圓斑ヲ形成シ發育旺盛ナリ之ヲ(A)トス(第五表a圖)

(A)ヲ取りアガール斜面ニ移植セルニ高橋りき、高島貞一菌ト同一ノ發育ヲナス

小水疱性白癬 齋田精一郎

右頰部ノ局所ノ落屑ヲ剝離シ同上處置シアガール扁平培養ヲ行フ第五日已ニ一錢貨大以上ニ發育シ中央部ハ黑褐色ノ氣中菌絲及ビ氣中芽胞ヲ戴ケリ其周圍ハ白色ノ放線ヲ生ズ之ヲ(A)トス

(A)ヲ取りアガール斜面ニ移植セルニ第二日已ニ扁平培養ト同様ノモノヲ得タリ

頭部白癬 橋爪政之

落屑ヲ法ノ如ク處置シアガール扁平培養ヲ行ヒ攝氏三十五度ニ四日間又室温ニ四日間放置セルモノハ白色五厘貨大圓斑ニシテ中央稍々隆起ス之ヲ(A)トス
(A)ヲ取リアガール斜面ニ移植セルニ第五日ニ至リ目視シ得ベキ白色星狀ノ培養ヲ得其中央ハ結節狀ニ隆起ス

頑癬 小池ぞめ

落屑ヲ磨碎シ二個ノアガール扁平培養ヲ行ヒ室温ニ保ソコト第一週ニ至リ第一ノモノハ豌豆大星狀ノ白色絨毛樣ノ培養ナルニ他ハ中央隆起シ綠褐色ヲ呈スル所アリ而シテ層重セル遠心性環狀ヲ呈ス其培養周圍ヨリハ白色放線ヲ出ス之ヲ(A)トス
(A)ヲ取リアガール斜面ニ移植セルニ第十日ニ至リ粟粒大乃至豌豆大ノ白色乃至黒褐色ノ細砂樣ノ半球形聚落ヲ形成シ蔓延スルニ從ヒ遂ニ一ノ苔ヲ形成ス
又爪ノ小片ヲ磨碎シアガール扁平培養ヲ行ヒ第一週ニテ五厘貨大白色ニテ稍々隆起セル絨毛樣ノモノト中央點狀ニ突起シ周圍ハ白色放線狀ノモノトアリ又中央黒褐色ヲ呈シ花粉樣ノ如ク周圍ハ放線狀ノ菌絲ヲ出スモノトノ三種アリ之ヲ(A)トス
(第九表D)

(A)ヲ取リアガール斜面ニ移植シ第十日ニ至リ粟粒大乃至豌豆大ノ黒綠色ノ花粉乃至砂ヲ撒布セル如キ培養ヲ得タリ

頑癬 佐藤鯨三郎

落屑ヲ磨碎シ法ノ如ク處置シアガール扁平培養ヲ行フ白色ニシテ長キ放線ヲ出シ中央隆起セル半球狀ナリ之ヲ(A)トス
(A)ヲ取リアガール斜面ニ移植培養セルニ第七週ニ至リ斜面全部ヲ被ヘル純白色綿狀ノ苔ヲ形成セタ

余ガ培養セル白癬菌ノ鏡檢的所見

村越ふく 頑癬、爪、白癬 アガール斜面培養ノ一小部分ヲ取リゲラチンヲ加ヘテ「ホール」オブエクトグラスニ置キ攝氏三十五度ニ六日間保温シ後チ室温ニ保持シ第二週ニ至リ鏡檢セルニ左ノ如シ

弱。廓。大。ニテハ樹枝狀ニ分岐セン菌絲ニシテ其末端ハ概シテY字ヲ呈ス其枝端ハ稍々膨脹ス菌絲中間ヨリ側芽胞 Seitensporen ヲ出シ其形稍々紡錘狀芽胞 Spindel-sporen ニ似タルモ棍棒狀ヲ呈セズ又大ナル芽胞ヲ認メズ培養中央部ニハ橢圓形

或ハ球形ノ膨隆部少許ヲ認ム(第十三表a)

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ枝端ニ正球形ノ芽胞ヲ戴ケル蕃殖器官アリ其球形ノ大サ三
μナリ又散在性ニ大ナル橢圓形或ハ球狀ノ物アリ其大サ平均九—十二μナリ即
チ是レ^レクラメバスポーンナリ而シテ其内容ハ不正形ノ球形ニシテ又全ク^クホモ
ゲンニ見ユルモノアリ菌絲ノ太サハ凡ソ四μナリ分節 *Septierung* ハ長短種々ニ
シテ其長サハ二〇—二五μアリ節中所々ニ強ク光線ヲ屈曲スル顆粒アリ球形或
ハ俵形ヲ呈ス

又時日ヲ經過セルゲラチン斜面培養ヲ取リグリセリンヲ加ヘ^ヘホールオブエクト
グラスニ載セ三日間放置シ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ其菌絲中所々ニ球形或ハ紡錘狀ノ膨隆ヲ呈シ又紡錘狀ノ芽胞
ヲ出ス所アリ菌絲末端ノ膨脹スルモノアリ

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ菌絲ノ太サ四—七μナリ菌絲末端ノ芽胞ハ其徑一五μヲ算
スルモノアリ又菌絲ノ膨脹大ナルモノ其幅一三—長一八μアリ側芽胞ヲモ認ム節
中光線ヲ屈曲スル所ノ顆粒ヲ含有ス

又アガール斜面培養ヲチエロイヂンニ固定シ切片標本ヲ作りメチレン青ニテ染色

鏡檢スルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]太[○] ニテハ一見連鎖セル球珠ヲ見ルガ如シ

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ其染色セル所ノ形ハ皆橢圓形或ハ球形ニシテ其幅四—五μ
長五九μナリ又球形ハ徑四—五μニシテ最モ長キ菌絲ノ一節ハ一三μヲ算ス

又アガール斜面ヲ取リ^リホールグラスニ載セ培養セシモノヲ第三日ニ至リメチレン
青ニテ染色鏡檢セルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ其外觀恰カモ青色ナル蜘蛛ノ巣ニ小蟲類ノ懸垂セルヲ望見ス
ルガ如シ

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ其小豆ノ形ヲ表ハシ點狀物ハ大サ平均七μノ球狀ニシテ節
ノ膨脹ニ外ナラズ

小林正心 頭[○]部[○]白[○]癩[○] アガール斜面培養(瓜ノ培養)一部ヲゲラチン一二滴ヲ加
ヘ^ヘホールオブエクトグラス中ニテ培養シ一週間三十五度ニ後チ室温ニ保持シ第十
六日ニ至リ之ヲ檢スルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ一見菌絲ハ眞直ナラズ又延長セズ屈曲迂廻シテ肉又狀或ハ樹
枝狀ヲナス菌絲末端ハ甚ク膨隆スルモノアリ又橢圓形或ハ球形ノモノヲ中心ト

シテ四方ニ蔓延發育スルヲ認ム

油浸廓大[○] ニテハ節ノ中間ニテ膨脹セルモノアリ又全ク分離セルモノアリ孤立ノ芽胞ハ「ホモーゲン」ニシテ其大サ六一〇μナリ菌絲性芽胞ハ四―五μナリ末端芽胞ハ平均六μナリ節中ニ光線ヲ強ク屈曲スルノ球形顆粒アリ又アガール斜面培養ヲ取り「ホールグラス」ニ置キ第三日直チニメチレン青ニテ染色セルニ青色ノ細小菌絲ト小球ト錯綜紛糾スルヲ認ムルノミ

油浸廓大[○] ニテハ其球形ハ三μ菌絲ハ太サ一―二μナリ(第十三表C)

又アガール純粹培養第一週日ノモノヲチエロイヂンニテ固定シ切片標本ヲ作りメチレン青ニテ染色セルモノヲ檢スレバ左ノ如シ

弱廓大[○] ニテハ大小ノ球狀物ノ互ニ連鎖ヲナシ或ハ集簇スルヲ認ム又長キ桿狀ト球狀ト相錯互スルモノアリ

油浸廓大[○] ニテハ其球形九―一二μニシテ皆「ホモーゲン」ナリ節ハ太ク六―八μニシテ菌絲膨脹ノ太サ殆ント皆同一ナリ

武井伴四郎 頭部白癬 アガール斜面ヲ取りゲラチンヲ以テ「ホール」オブエクトグラスニ培養シ第三日ニ之ヲ檢スルニ左ノ如シ

弱廓大[○] ニテハ一見樹枝ノ如ク其枝眞直ニシテ延長セズ菌絲ハ膨脹シテ恰カモ「サボテン」ヲ見ルノ感アラシム

油浸廓大[○] ニテハ菌絲ノ太サ二μニシテ紡錘狀芽胞ハ其幅七μ長十二μナリ又第四代アガール培養ノ第八日ヲ取りカナダバルサムニテ閉テ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大[○] ニテハ菌絲紛糾錯綜セルヲ認ムルノミ

油浸廓大[○] ニテハ其菌絲太サ二μヲ算ス

又第四代培養ヲ取り染色標本ヲ製シ油浸廓大ニテ鏡檢スルニ左ノ如シ各菌絲ノ幅員二―三μ菌絲膨脹ヲ認メズ側芽胞アリ

アガール斜面培養陳舊ノモノヲメチレン青ニテ染色シチエロイヂンニテ固定シ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大[○] ニテハ唯青色ノ顆粒狀小球ノ集簇ヲ認ムルノミ

油浸廓大[○] ニテハ其大ナル顆粒ハ三―四μヲ算ス

小松一 頭部白癬 アガール斜面培養ヲ取りゲラチンニテ「ホール」オブエクトグラスニ培養シテ第十六日ノモノヲ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ一見珠數ヲ見ルガ如ク其間僅カニ短カキ菌絲ヲ認ムルコト恰モ珠數ノ紐ニ於ケル關係ノ如シ菌絲ノ中間ヨリ紡維狀ノ分枝ヲナスモノヲ所々ニ認ム

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ其珠數ハ平均一五—二三^μナリ

又アガールヲ以テ「ホール」オブエクトグラスニ培養セルモノ第三日ヲ取りメチレン青ニテ染色鏡檢スルニ左ノ如シ

珠數ノ如ク又「ちよろぎ」ノ如ク珊瑚樹ノ如キ觀ヲ呈ス其珠數球ノ太サ一〇—一五^μニシテ菌絲ノ幅ハ大凡三^μナリ

又第二代アガール培養ヲ「ホール」オブエクトグラスニ培養シテ十數週ヲ經タルモノヲ鏡檢セルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ唯樹枝大ニシテ殊ニ紡維狀ノ側芽ヲ出スヲ認ム

木村豐平 頭、部、白、癬、其局部ノ髮ヲ拔取シ之ヲ一〇%加里滷汁ニテ處置シ鏡檢スルニ髮周圍及ビ内部ニハ細小同大ノ球形ヲ以テ充タサルヲ認ム

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ「ホモ」ゲン」ノ球狀物ハ芽胞ニシテ太サ約二、五—三^μナル髮内ニハ一部稍々圭角ヲ有スル如キ大ナル芽胞相連結シ縱軸ニ貫行スルヲ認ム

又局部ノ髮ヲカナダバルサムニテ閉チ油浸廓大鏡檢スルニ稍々四角形ナル纖維性芽胞ノ孤立或ハ連續スルヲ認ム(第十五表)

又アガール斜面培養三週ノモノヲ取り「ホール」オブエクトグラス中ニテ培養シ三晝夜後之ヲ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ一見恰カモ「しやぼてん」又「ちよろぎ」ヲ見ルノ感アリ

油[○]浸[○]廓[○]大[○] ニテハ其球形ノ大サ一三^μニ達シ菌絲ノ太サ一—一、五^μナリ

又髮自己ノアガール斜面培養ヲ取りカナダバルサムニテ閉チ鏡檢スルニ左ノ如シ
髮内ノ小球ハ二—六^μニシテ其芽胞ハ連續スルモノアリ(第十一表)其菌絲ハ幅二、五^μニテ紡維狀芽胞ヲ出ス其長サ一六幅六^μノモノアリ然ルニ其數極メテ少ナシ

又アガール斜面培養ヲ取りグリセリンニテ閉チ鏡檢スルニ左ノ如シ
菌絲ノ太サ一^μニシテ被膜芽胞ノ大ナルモノ九^μ又末端芽胞ノ大サ三—六^μナリ

又アガール斜面培養ヲ「ホール」オブエクトグラス中ニ培養シ第二十日ノモノヲ檢スルニ左ノ如シ

弱[○]廓[○]大[○] ニテハ一見珠數ト菌絲ト錯綜スルヲ認ムルノミ

油浸廓大[○] ニテハ其菌絲太サ三^μニシテ大ナル珠數ハ十^μナリ其内容ハ恰カモ脂肪球ノ如ク大サ三^μノモノヲ含有スルアリ菌絲モ亦細小ニシテ強ク光線ヲ屈曲スルモノト顆粒トヲ含ムモノアリ

又アガール斜面培養第三十一日ヲ取りメチレン青ニテ染色シ之ヲ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大[○] ニテハ一見唯長キ青色ノ菌絲ヲ認メ其他三四散在性ニ珠球ヲ認ム

油浸廓大[○] ニテハ菌絲ノ太サ二^μニシテ菌絲中甚シク膨脹スル所アリ六―九^μナリ

ムナリ

染色不充分ニシテ菌絲ハ顆粒ノミヲ含有ス菌絲ハ膨脹シテ太サ三―四ナリ

川久保安雄 頭、部、白、癩、 第二代アガール斜面培養ヲ取りゲラチンニテ「ホール

オブエクトグラス中ニ培養シ第十六日ニ至リ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大[○] ニテハ一見樹枝ノ如ク其枝ノ中間ニ瘤アルガ如シ或ハ又連珠ノ如シ

而シテ漸次節ノ中間腹様ニ膨脹ヲ來タシ其形チ球形或ハ橢圓形ナリ又側芽萌出

ヲナシ其芽胞中ニ數箇ノ脂肪球アリ菌絲中ニモ亦多數ノ光線ヲ屈曲スル顆粒アリ集簇セル珠球ノ大サハ九^μニシテ大ナルモノハ一五^μナリ菌絲末端ハ殆ンド

皆多少膨脹ス(第十二表 a, b)

又アガール斜面培養ヲ取りメチレン青ニテ染色標本ヲ作り鏡檢スルニ木村豊平

菌ト同様樹枝ニ恰カモ瘤アルガ如ク之ヲ油浸廓大ニテ檢スレバ其瘤ノ大サ七一

一〇^μナリ菌絲及ビ球ニモ大小各種ノ脂肪球アリ又紡錘狀芽胞アリ菌絲ノ太サ

平均三^μナリ(第十五表)

小山開治、宮川秀男、宮田一雄、高野一郎、西山新平、松岡政夫、高島貞一、中井条三、木村三

之助、羽鳥芳雄第二十一表、戸崎廣、大川清吉、遠山豊之助、田中清四郎

右等ハ皆髮ヲ檢セルニ木村、川久保ト同一ノ性状ヲ呈シ培養鏡檢上ノ結果モ亦同様

ナリ

太田道和 頑、癩、 落屑ヲ一〇%加里滷汁ニテ處置シ鏡檢スルニ左ノ如シ

油浸廓大[○] ニテハ落屑全部殆ンド皆三^μノ球形物ニテ充タサレ菌絲ハ其間ニ

散在シテ僅カニ球形ノ連鎖タルニ止マレリ

又アガール斜面培養第十五日ヲ取り鏡檢スルニ一見蜘蛛ノ巢ノ如ク巢中所々ニ點

々顆粒ヲ認ム之ヲ擴大セバ即チ點狀物ハ菌絲ノ腹様膨脹ナリ

山岸景勝 爪、ハ、白、癩、 アガール斜面培養ヲ取りメチレン青ニテ染色ニ鏡檢スル

ニ長ク屈曲廻轉セル菌絲ニシテ菌絲ニハ膨脹セル所ナシ菌絲ハ一五—三μナリ其菌絲ノ側方ヨリ分枝セルモノハ稍々細小ナリ

又アガール斜面培養ヲ取り鏡檢スルニ菌絲ハ細小其太サ二μニテ大サ二、五μノ球ノ集簇アリ

又アガール斜面培養ノ陳舊ノモノヲカナダバルサムニテ閉ヂ鏡檢スルニ左ノ如シ
弱○廓大○ ニテハ非常ニ長キ太サ二—二、五μノ菌絲ト橢圓形ノ大サ六—十μノ

孤立セル球ノ集簇ヲ認ム
又ゲラチン培養ノ陳舊ナルモノヲ取りグリセリンニテ閉ヂ鏡檢スルニ菌絲ニテ褐色ナル大ナル珠球ヲ連結セル如キ觀ヲ呈ス其形ハ種々ニシテ瓢箪形アリ又橢圓形

アリ稍々鈍角又四角形アリ其大サ一〇—二〇μナリ
遠藤智明 瓜、白癬、ゲラチン斜面培養ヲ取りグリセリンニテ閉ヂ鏡檢スルニ

左ノ如シ
弱○廓大○ ニテハ桿棒狀球形或ハ紡錘狀ノモノアリテ連珠ノ如シ

油浸廓大○ ニテハ菌絲ノ太サ三μ紡錘狀ノ芽胞長七—九幅三μナリ

又アガール斜面培養ヲ取り染色鏡檢スルニ唯長キ垂直ナル菌絲ヲ認ムルノミ

山口守三郎 「はたけ」アガール培養ヲ取り、ホールオブエクトグラスニ培養室温

ニ放置シ第十八日ノモノヲ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱○廓大○ ニテハ一見樹枝ノ錯綜セル如キノ他何等ノ所見ナシ

油浸廓大○ ニテハ菌絲ノ太サ三—四μニシテ所々ニ小數ノ膨脹アリ其大サ約

九μナリ

又アガール培養ヲ取りメチレン青染色標本ヲ檢スルニ左ノ如シ

弱○廓大○ ニテハ恰カモ絲ノ紛糾シテ一ノ球トナリシガ如キ觀アリ

油浸廓大○ ニテハ菌絲一—二μニシテ其菌絲先端ハ概シテ尖銳ナリ又菌絲膨

脹ハ僅カニ二—三μヲ認ムルノミ

又アガール培養ヲホールオブエクトグラスニ培養シ其第三日ノモノヲ見ルニ左ノ

如シ

油浸廓大○ ニテハ珠球ト菌絲ト錯綜セルヲ認ム球ハ七—一μ二菌絲ハ二—三

μナリ

又アガール斜面培養第七週ノモノヲ取りグリセリンニテ閉ヂ鏡檢スルニ氣中菌絲

アリ大サ三μノ氣中芽胞ヲ戴クヲ認ム

高島貞一 頭部、白癬、局部ノ髮ヲ一〇%加里滷汁ニテ處置シカナダバルサムニテ閉テ檢スルニ左ノ如シ

弱^〇廓^〇大^〇 ニテハ毛ノ周圍ニ顆粒ノ厚ク附著スルヲ見ルノミ

油^〇浸^〇廓^〇大^〇 ニテハ毛ハ小球ニテ全ク包裡セラレ髮内ニハ長キ連續セル芽胞アリ又稍々橢圓形ノモノアリ連鎖狀ヲナシテ縱軸ニ貫走シ又稍四角形ヲ呈スルモノアリ(第十表 a b)

又アガール斜面培養第十五日ノモノヲ取り「ホールオブエクトグラス」中ニゲラチンニテ培養シ第二日之ヲ檢スルニ左ノ如シ

油^〇浸^〇廓^〇大^〇 ニテハ大サ三^〇μノ球アリ菌絲ハ僅少ナリ全視野ハ殆ド小球ニテ充タサルヲ見ル第三日ニ至リ小球ハ水仙様又亞鈴様ノ形ニ變ジ菌絲中所々ニ膨脹スル所ヲ認ム

高島貞一 「は、た、け」アガール斜面培養ヲ取りゲリセリンニテ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱^〇廓^〇大^〇 ニテハ唯其長キ菌絲ノ錯綜ヲ認ム其菌絲ハ樹枝様ニ分ルルノミ

高橋りき 小、水、疱、性、白、癬、其落屑ヲ一〇%加里滷汁ニテ處置シゲリセリンニテ

閉テ檢スルニ左ノ如シ

油^〇浸^〇廓^〇大^〇 ニテハ屈曲迂廻スル細小菌絲アリ恰カモ葡萄ノ蔓ヲ見ルガ如シ其尖端ハ皆多少膨脹ス游離セル球ハ強廓大ニテハ三^〇μナリ

又アガール斜面培養第一週ノモノヲ取りゲリセリンニテ閉テ鏡檢スルニ左ノ如シ
油^〇浸^〇廓^〇大^〇 ニテハ菌絲細小ニシテ其他ニ小芽胞充滿ス

又アガール斜面培養ヲ取り「ホールオブエクトグラス」中ニ培養シ第三週ニ鏡檢スルニ樹枝様旺盛ナル發育ヲナシ又狀ノ分枝ヲ爲ス

井上すゝ 「は、た、け」ゲラチン培養ヲ取り鏡檢セルニ長キ菌絲ニテ諸所ニ分枝ス其菌絲ノ尖端ニ膨脹等ヲ認メズ

又アガール斜面培養第五日ヲ取り之ヲゲラチンニテ「ホールオブエクトグラス」ニテ鏡檢スルニ左ノ如シ

油^〇浸^〇廓^〇大^〇 ニテハ細小ナル分枝ニテ尖端稍々膨脹スル所ノ長キ菌絲アリ又菌絲ノ中央ニ少數ノ膨大セル連珠アリ僅カニ七個ヲ算ス又紡錘狀芽胞アリ

小林周作 小、水、疱、性、白、癬、アガール斜面培養ヲ取り「ホールオブエクトグラス」中ニテ培養シ第十五日ニ至リ鏡檢スルニ延直樹枝様ノ菌絲ノミニテ更ニ膨脹物等ヲ

認メズ

又アガール斜面培養第三週ノモノヲ取りグリセリンニ固定シ鏡檢スルニ末端芽胞ノ大ナルモノ及ビ菌絲ノ膨脹スル所アルヲ認ム此膨脹物中ニハ強ク光線ヲ屈曲スル脂肪球ノ如キモノヲ含ム

飯田ぬい 瓜、白癩 アガール斜面培養第三日ヲ取り鏡檢スルニ左ノ如シ

油浸廓大ニハ太キ菌絲ノ錯綜セルト共ニ其蕃殖器官ノ氣中芽胞ヲ戴ク所ノ蒲公英或ハ菊花ニ酷似セルモノアリ其芽胞ノ大サハ皆二―三μナリ此蕃殖器官ハ實ニ黄色「アスベルギールス」Aspergillus flavusニ酷似セリ(第十四表)

又アガール斜面培養ヲ「ホール」オブエクトグラス中ニ培養シ第十五日ノモノヲ鏡檢スルニ太キ眞直ナル菌絲ヲ發生シ其中間樹枝様ニ分枝ス

小林彌太郎 アガール斜面培養ヲ取り鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大ニテハ太キ菌絲ト僅カニ菌絲中ニテ太キ所ヨリ認ムルノミ

油浸廓大ニテハ菌絲中僅少ナル膨脹ヲ認ム

又ゲラチンニテ「ホール」オブエクトグラス中ニ培養セル第七週ノモノヲ檢スルニ唯細小ナル菌絲ヲ認ムルノ外他ニ何等ノ異狀ナシ

齊田精一郎 頑癩 落屑ヲ一〇%加里滷汁ニテ處置シグリセリンニテ閉テ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大ニテハ一見葡萄蔓ヲ觀ル如ク又側方分枝ノ菌絲尖端ハ膨脹シ菌絲ハ屈曲ス又アガール斜面培養ヲゲラチンニテ「ホール」オブエクトグラス中ニ培養シ第一週ニ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大ニテハ太キ膨脹ヲ所々ニ生ジタル樹枝ノ如ク又孤立セル瓢箪形或ハ「ちよろぎ」形ヲ認ム

油浸廓大ニテハ其膨脹物七一〇μナリ

木村豊平 「は、た、け」チエロイジン法ニテ剝離シ染色セルニ落屑ト共ニ三四ノ毛アリ其毳毛ノ球部ヨリ毛幹下三分ノ二ニ至ル間點々濃厚ニ染色セル所アリ

油浸廓大ニテハ毛ノ球部ニ稍々連鎖狀ヲナセル芽胞アリ毛幹ニハ三條併列セル菌絲性芽胞アリ其大サ平均三―四μナリ(第十八表b)

左耳ノ「はたけ」ノ落屑ヲ取り弱廓大ニテ鏡檢スルニ小球多數アリ菌絲ハ屈曲迂廻ス其芽胞ノ大サ二、五―三μニシテ菌絲ハ二、五μナリ

淺井留吉 頑癩 落屑ヲ取り一〇%加里滷汁ニ處置シ鏡檢スルニ左ノ如シ

油浸廓大。ニテハ屈曲迂廻セル菌絲ニシテ諸所ニ散在スル所ノ小球アリ其菌絲ハ細小ニシテ二μナリ

球ハ二―三μノ大サナリ紡錘狀側芽ヲ有ス菌絲ノ膨脹ヲ認メズ

増田房吉 髮ヲ抜キ一〇%加里滷汁ニテ鏡檢スルニ小球二―三ノモノ髮ノ内外ニ交錯ス

小池ぞめ 瓜白癬 落屑及ビ瓜ノ小片ヲ取り一〇%加里滷汁ニテ鏡檢セルモ何等認ムル所ナシ

又アガール扁平培養ヲ取りグリセリンニテ閉ヂ鏡檢スルニ左ノ如シ

弱廓大。ニテ瓜ノ培養ハ一見褐色ノ小球ト太キ菌絲ノ錯綜スルヲ認ムルノミ(第九表)

油浸廓大。ニテハ所々ニ氣中芽胞ヲ戴ケルアスベルギールスニ酷似セル蕃殖器官ヲ認ム其球ノ大サ平均三μニシテ菌絲ノ太サ二―三μナリ飯田ぬえノモノニ酷似ス

落屑ノアガール斜面培養ヲ取りグリセリンニテ閉ヂ鏡檢スルニ左ノ如シ
弱廓大。ニテハ全ク樹枝ヲ見ルノ感アリ

油浸廓大。ニテハ太サ二五μノ菌絲ト稀レニ六一七μノ菌絲膨脹トヲ認ムベシ
瓜ノ培養ノ所見大同小異ナリ

橋爪政之 頭部白癬 アガール斜面培養第六日ヲ取りグリセリンニテ閉ヂ鏡檢ス

弱廓大。ニテハ珊瑚樹ヲ見ルガ如シ

油浸廓大。ニテハ菌絲ノ腹様膨脹多數ニシテ往々稍橢圓形或ハ紡錘狀ノ孤立芽胞アリ其大サ七一九μナリ又末端芽胞モアリ孤立セル芽胞ハ光線ヲ強ク屈曲スル脂肪球様ノ物質ヲ含メル被膜芽胞ニ外ナラズ

佐藤鯨三郎 頑癬 アガール斜面培養第七週ノモノヲ取り鏡檢スルニ左ノ如シ
弱廓大。ニテハ大小不同ノ珠球ト太キ菌絲トノ錯綜ヲ認ムルノミ

油浸廓大。ニテハ其大ナル珠球ハ圓形或ハ橢圓形ニシテ密著シ恰カモ石垣ヲ見ルノ觀アリ小球ノ大サ三μヨリ大ハ十μニ至ル菌絲太サ平均二五μニシテ所々ニ膨脹ヲ認ム又側芽胞アリ

余ガ白癬菌ヨリアスベルギルスニ類似ノ蕃殖器官ヲ具備セルモノ二例即チ小池ぞめ(瓜ノ白癬飯田ぬえ)(瓜ノ白癬)ニシテ尙東菌ヲ移植セル兎耳ヨリモ亦同様性狀

ノモノヲ認メタリ
 而シテ成書記載ヲ見ルニトリポント Tribondeau 氏ハ屋瓦狀白癬ノ培養ニ就テ之ヲ
 發見シ稀有ナルモノトシテ報告セリ日本ノ白癬菌中ニハ此ノ如キ器官ヲ有スル
 モノ多キヤ殊ニ注意スベキハ共ニ爪ノ白癬ヨリノ培養ニノミ見タルノ一事ナリ
 後來尙研究スベキモノナリ
 屋瓦狀白癬ハ余ハ不幸ニシテ一實驗ヲモ有セズ三十七年青木大勇君ノ報告ニ依
 レバ我臺灣ニ於テハ本症ノ存在ヲ證明セラレタルモノニシテ我日本ニハ爰ニ於
 テカ白癬ノ諸症皆存在スルト云フヲ得ベキナリ

動物移植試験

動物ノ白癬ニ關スル成書ノ一部ヲ摘録スレバ左ノ如シ
 人ノ白癬ノ病名ト異ナルハ Maulgrind, Borkenflechte, Kälber-Läuner 等ノ字ヲ用ヒタル白
 癬ハ凡テノ家畜ニ來タルモ殊ニ牛ヲ第一ニ犯カシ次デ馬稀ニ犬猫最モ稀ニ豚羊鳥
 類ヲ犯カス動物ノ白癬モ亦特ニ若キ動物ノ罹病スルヲ多シトス而テ牧場ニ於テ傳
 染等ヲナスヲ以テ Weidekrankheit ト云フ殊ニ牛馬ニ流行性ニ蔓延ス

芽胞ハ毛ノ周圍或ハ其ノ内部ニ菌絲ハ寧ロ落屑乃至痂皮中ニアリ
 家畜ニハ髮内菌及ビ髮内外菌共ニ來タリ皮膚ノ變化ハ其ノ局部ノ解剖的構造ト動
 物ノ感受性ト菌ノ力ノ如何ニヨリテ差違アリト云フ說多シ
 痂皮中ニアル菌ハ乾燥ニ堪ヘ半年ヲ放置セルモノヨリモ培養シ得タリト(ゲルラッ
 ヲ Gerlach)又培養セルモノハ二年後ハ其發芽能力ヲ失フト云フ水中ニテハ其發芽能
 力八日間阿列布油豚脂ワゼリン等ニテハ二日間發育力ヲ有ス一%醋酸ハ一時間一
 %曹達液又硫黃軟膏ニテハ數時間ニテ死滅スト云フ
 移植試験ニテ幼キ動物ハ移植後八日乃至十四日ニ症狀ヲ呈ス老獸ハ之ヨリ遲シ人
 工移植モ牛馬ヨリ牛馬及ビ犬ニ行フコトハ容易ナリト
 動物間ノ傳染ハ直接乃至間接ノ差アリ間接トハ病アル家畜ガ屋外ニ於テ病菌ヲ諸
 種ノ植物等ニ附著生育セシメ他ノ動物之ニ觸接シタルトキ傳染スルナリ動物ハ毛
 ノ色ニヨリ感染ニ難易アリ暗黒色ノ者ハ白色ヨリ罹リ難シト云フ
 動物ノ病理モ人ト同様ニシテ先ヅ菌ハ毛囊ニ入り生長シ毛根内鞘中ニ増加シ芽胞
 ハ毛根ヲ「マンテル」様ニ包ミ又皮膚表面ニモ一—二mm 出ヅ而シテ毛根ノ上下ニ蔓延
 スルモ乳頭部ニ達セズ毛ノ少ナキ所又毳毛ノアル部位ニテハ表層ノ炎衝ト輕度ノ

滲出液アリ一毛毎ニ小結節乃至小水疱アリ又發赤及ビ輕度ノ腫脹アリテ爲ニ落屑ヲ由來ス皮膚ノ神經末端ハ表在ノ炎衝ノ爲ニ刺戟サレ多少ノ強キ癢痒アルナリ毛ノ密生セル皮膚ニテハ多クハ毛根ヲ圍繞シ毛根内又上皮中ニ侵入ス爲ニ毛ハ分裂シ折斷シ易シ自然治癒アルハ其周圍ニ落屑多ク爲ニ芽胞ノ侵入ヲ防護スルタメナリト或ハ曰ク毛ノ破壞サルル爲メ其菌蕃殖培地ノ荒蕪スルニ由ルト

動物ノ白癬經過ハ普通八—三十日ナリ
馬ノ白癬ノ好發部位ハ肩肋骨臀背等ナリ毛ハ圓斑狀ニ切斷シ其毛ノ尖端ハ白キ苔ニテ圍繞セララル癢痒ナク小水疱ヲ認ムルコト少ナシ是レ小芽胞菌性ナリ大芽胞菌ノ侵襲ニテハ一〇Cm大ノ落屑アル圓斑トナリ癢痒ヲ伴フ
牛ノ白癬ハ頭頸臀部稀レニ胴ヲ犯カス普通結痂性ノ症狀ナリ六—十二週ニテ病竈ハ手掌大ニ達ス癢痒アリ膿ハ口圍ヲ犯サルルコトアリ
犬ノ白癬ハ牛ト同様ナリ數ヶ月治癒セズ全ク脱毛ヲ來タスコトアリ稀レニ小芽胞菌ノコトアリ然レドモ動物ノ小芽胞菌ハ人ヨリ經過良ナリ猫ノ白癬ハ犬或ハ人ヨリ傳染シ犬ト同ジキ症狀ヲ呈ス
余ハ七月五日兔ノ右耳ニ就キ其内面中央ニテ毛ノ最モ少ナキ部分ニ於テ一錢貨大

ヲバ刀及ニテ其皮膚ヲ摩擦シ充血ヲ起サシメ綿ニテ單ニ充分拂拭摩擦シ東菌第二
代アガール斜面培養ヲ取り(約一白金耳擦入セリ)

同月同日左耳ノ内面ニ就キ同様處置ヲ以テ村越菌ヲ塗擦移植セリ

七月十日之ヲ檢スルニ左ノ如シ

右耳(東菌)塗擦部ヨリ周圍ニ廣ク大ナル鱗狀黃灰白色ノ落屑附着ヲ認ム殊ニ耳端ニハ長一〇巾〇五ノ大ナル落屑附着セリ

左耳(村越菌)塗擦部ニハ大ナル落屑ヲ認メズ却テ著明ナル褐色點狀ノ粟粒大乃至米粒大ノ落屑散在シ耳ノ上端ニ偏シテ毛ノ長ク且ツ多キ部位ニ於テ一錢貨大ニ正圓形ノ折斷毛スルヲ認ム

七月十日左右耳ヨリ落屑ヲ載物硝子ニ取り一〇%加里滴汁ヲ點滴シ鏡檢セリ其所見左ノ如シ

右耳標本(東菌)ニテハ菌絲極メテ細小ニテ分枝セズ又細小芽胞アリ又紡錘狀ノ側芽胞延長セルヲ認ム

左耳標本(村越菌)ニテハ圓形ノ芽胞僅カニ存在シ菌絲錯綜シテ末端ニ膨隆スル所アリ其菌絲ハ細小ナリ

同月同日右耳(東菌)落屑ヲ乳鉢ニテ磨碎シゲラチン扁平培養ヲ行ヒ室温ニ置キ第三日ニ至リ黄色點狀聚落ト蜘蛛狀ヲ得之ヲ各々アガール斜面ニ移植セルニ雜菌混入シテ目的ヲ達シ得ザリキ

同月十一日左耳(村越菌)落屑ヲ同上處置シ第四日ニ至リテ之ヲ檢スルニ左ノ如シ
褐色粉末ヲ撒布セル如キ表面ヲ有シ邊緣ハ放線狀ニシテ形ハ正圓ナル培養ヲ得同十七日此一部分ヲグリセリンニテ閉ヂ鏡檢スルニ氣中菌絲ハ二―三μノ大サヲ有スル氣中芽胞ヲ戴ケリ之ヲ更ラニ馬鈴薯ニ移植セルニ中央黑褐色ヲ呈シ襞アル培養ヲ得タリ(第八表E)

同月十九日再ビ右耳落屑ヲ法ノ如ク處置シ普通アガール扁平培養ヲ行ヒ三十五度ニ保温シ二十三日之ヲ檢スルニ左ノ如シ
中央褐色花粉ヲ撒布セル如キ狀ヲ呈シ長キ菌絲ヲ有スル一錢貨大ノ圓斑ナリ同廿三日直チニアガール斜面ニ移植シ廿五日之ヲ檢スルニ已ニ斜面ニ蔓延シ灰白色ノ絨毛之ニ褐色粉末ニ撒布セル如キ苔ヲ形成ス(第九表)其邊緣ハ透過光線ニテ認め得ベシ之ヲグリセリンニ閉ヂ鏡檢スルニ廣キ氣中菌絲ニ三μノ小球ヲ戴ケル蕃殖器官アリ其形ハ全クアスベルギースニ類似ス芽胞ハ稍々帶黄色褐色ナリ

八月九日左耳第二代アガール斜面培養ヲ取り磨碎シ更ニアガール扁平培養ヲ行フニ左ノ如キ培養ヲ得タリ

一ハ黑褐色花粉ヲ撒布セル如キ扁平星狀ノ培養ニシテ他ハ白色培養ナリ此白色ノモノヲ取りアガール斜面ニ移植セシニ第三日ニ至リ點々帶黄色細砂狀ニシテ表面僅カニ隆起シ邊緣ニ長キ突起ヲ出セル星狀培養ヲ得タリ

七月十九日海豚背部ノ毛ヲ切リアルコールニテ消毒拂拭シ木村豊平菌ヲ塗擦ス又其腰部ニハ井上はたけ菌ヲ同上處置後ニ移植シ第三日之ヲ檢スルモ共ニ異狀ナシ同月三十日更ニ二頭ノ海豚ノ背部ノ毛ヲ抜き取り充血ヲ起サシメ山口はたけ菌ヲ移植シ第九日之ヲ檢スルニ何等ノ變化ナシ

七月三十一日同上處置ノ下ニ他ノ海豚ニ木村菌ヲ移植シ八月八日之ヲ檢スルニ移植部ニハ何等認ムベキ變化ナキヲ以テ之ヲ放置セルニ同月十四日來其一頭ハ背部ニ瀰蔓性ノ脫毛ヲ來シ十九日頃ニ至リ殆ンド全背部ノ脫毛ヲ起シテ僅少ノ毳毛ヲ遺スルノミ依テ直チニ一部黄褐色ノ落屑及ビ其毛ヲ法ノ如ク培養シ第四日之ヲ檢スルニ雜菌混生其目的ヲ達シ得ズ更ニ廿五日介補齊藤義雄君ニ托シ培養ス廿九日扁豆大ノ星狀圓斑ニシテ中央白色絨毛樣ノ隆起セル培養ヲ得同日直チニ之ヲア

ガール斜面ニ培養シタリ同三十一日嘗テ培養セル(木村菌)モノヲ見ルニ菌絲ハ皆腹
 様ノ膨脹ヲ來タシ珠數ヲ見ルノ觀アリテ小芽胞タルコトヲ認メ得タリ之ヲアガ
 ル斜面ニ移植セルモノハ其發育最モ旺盛ニシテ白色絨毛様ノ培養ヲ得タリ
 此木村菌ヲ移植セシ海豚一頭ハ遂ニ八月廿九日全身脫毛ノ下ニ斃レタリ然レドモ
 他四頭ハ何等變化ナク活潑ニ生存シツツアリ

時重獸醫博士武藤獸醫博士ノ好意ニ依リ牛及ビ馬ノ白癬ノ毛及ビ落屑ヲ得之ヲ以
 テ移植試験ヲ行ヒタリ其ニ關スル余ト戸塚隆三郎及ビ余ト弘岡トノ共同研究ハ左
 ノ如シ戸塚ハ廿一回ノ移植試験ニ於テ唯二回ノ陽性ヲ得弘岡ノモノハ遂ニ陰性ニ
 終レリ戸塚ト共同作業ノ要點ハ別表ノ如シ

人ノ白癬ノ動物ヨリ傳染スルコト多シトハバウフBauchローベルト Robertカフィン
 Caffin フリードマンゲル Friedberger 氏等諸家ノ唱導セシ所ナリ余ハ弘岡ト共同シ
 テ先ヅ牛馬ノ白癬ヲ培養研究セリ
 培養基ハ左ノ四種ト普通寒天培養基ヲ使用セリ

マルトローゼ	四・〇	グルコーゼ	四・〇	ラクトローゼ	グリセリン
顆粒ペプトン	一・〇	全	全	全	全
寒天	二・〇	全	全	全	全
水	一〇・〇	全	全	全	全

余等ハ毛或ハ落屑ヲ唯火燭ヲ通過セシメタル載物硝子上ニテ細切シアガール斜面
 ニ載セ室溫ニ放置セリ斯ノ如クシテ純培養ヲ求メ後之ヲ鏡檢シテ諸種ノ培養基ニ
 移植シ更ニ孵卵器中ニ入レテ鏡檢シテ馬白癬菌ハ既記四種培養基ニ毛ヲ培養シ二
 晝夜ニシテ半米粒大、一週間ニ約豌豆大ニ達セリ圓形白色ノ聚落ニシテ表面絨毛狀
 ヲ呈シ球形ニ隆起ス之ヲ諸種ノ培養基ニ移植シ孵卵器中ニ入レ觀察スルニ左ノ如
 シ

普通アガール斜面培養二十四時間ニシテ既ニ白色米粒大ノ聚落ヲ見一週日ヲ經バ
 約十錢銀貨大ニ至ル圓形純白色密放線狀ノ聚落ニシテ表面絨毛狀ヲ呈シ中央部球
 形ニ隆起シ培養基深部ニ發育著シカラズ其儘長日時放置セルニ菌絲試験管壁ヲ傳
 ハリテ發育ス、エルレンマイエル氏コルベンニテ扁平培養ヲ試ミ長時日放置スルニ
 中央部富士山狀ニ隆起シ末梢ニ放線ス且ツ隆起ヲ匝リテ一二層ノ輪ヲナス

グリセリン寒天ハ普通寒天培養基ニ於ケルモノト異ナラズ唯其發育一層佳良ナリ
 牛乳ハ發育佳良ニシテ表面厚キ純白ノ菌膜ヲ作ルモ之ヲ凝固セズ
 フイヨンニハ發育佳良美麗ナル塊狀聚落ヲ生ジ恰モ綿ヲ液中ニ浸タセルガ如ク且
 菌絲ノ放線狀ヲ認ム

馬鈴薯ニハ一週間ニテ大豆大ノ半球形聚落ヲ生ジ氣中菌絲ノ放線狀發育ヲ認ム
 鏡檢スレバ毛ノ内外ニ多數ノ圓形又ハ橢圓形大小種々ノ芽胞ノ不規則又ハ連鎖狀
 ニ排列スルヲ見ル落屑中ニ於テモ亦上記ノ如キ芽胞ノ多數ニ存スルヲ認ム菌絲細
 長ニシテ菌節ノ膨脹少ナシ

本菌ヲ兎及ビ海豚ニ移植セルモ不成績ニ終レリ
 牛白癬菌ヲ上記四種培養基ニ斜面培養ヲ行ヒ室溫ニ放置スルコト三晝夜ニシテ約
 半米粒大純白絨毛狀聚落ヲ生ズ三週間ニ至リ約大豆大ニ達シ表面半球形ニ隆起シ
 表面恰モ白色粉ヲ撒布セルガ如シ之ヲ諸種ノ培養基ニ移シ孵卵器中ニ入レ研究ス
 ルニ左ノ如シ

普通アガールハ培養七日ニシテ約大豆大ニ達シ三週ニシテ約十錢銀貨大ニ達ス其
 色淡黄白色表面山嶽狀ヲ呈スグリセリン寒天ハ普通寒天ニ比シ發育良ナリ牛乳ニ

試験 番號	試驗 動物	接種 月日	接種 材料	接種 方法	接種 部位
1	d	29/X	宮部菌	I	項部(白毛部)
2	e		"	I	項部(褐毛部)
3	a		左(馬ノ菌) 右(宮部菌)	I	項部(左) 項部(右)
4	d	5/XII	宮部菌	I	腰部(白毛部)
5	e		"	I	腰部(褐毛部)
6	a		左(馬ノ菌) 右(宮部菌)	I	左背部 右背部
7	a	19/XII	"	I	右背部
8	b		左(馬ノ菌)	I	左背部
9	b		右(宮部菌)	I	右背部
10	a	11/I	左(馬ノ菌)	I	左背部
11	a		右(宮部菌)	I	右背部
12	c		左(馬ノ菌)	I	左腹側部
13	c	右(宮部菌)	I	右腹側部	
14	a	19/I	左(馬ノ菌)	II	左股部 (黑毛部)
15	a		右(宮部菌)	II	右股部 (黑毛部)
16	c		左(馬ノ菌)	II	左股部
17	c	右(宮部菌)	II	右股部	
18	a	4/III	左(馬ノ菌)	I	左背部
19	a		右(干野菌) Micro	I	右背部
20	c		左(馬ノ菌)	I	左背部
21	c	右(干野菌)	I	右背部	

備考

接 種 試 験 一 覽

試験 番 號	試 験 動 物	接種 月 日	接種 材 料	接種 方 法	接種 部 位	接 種 後 の 症 状 及 經 過							
						第 一 週	第 二 週	第 三 週	第 四 週	第 五 週	第 六 週	第 七 週	
1	d	29/X	宮部菌	I	項部(白毛部)	接種部ハ已ニ僅ニ短キ毛髮ノ有シ皮膚ニ變化ナシ	同部ハ全ク健康部ニ比シテ變化ヲ認メス						
2	e		"	I	項部(褐毛部)	同上	同上						
3	a		左(馬ノ菌) 右(宮部菌)	I	項部(左) 項部(右)	接種部ハ一般ニ皮垢ヲ附シ小結痂二三ヲ點在ス右同部ハ變化ナシ	前週ノ小結痂部ハ稍増大シ米粒大トナリ(形ニ丘隆ス毛髮ハ再生セリ右同部ハ肥厚滲潤ナキモ落屑稍著シ	米粒大ノ滲潤ハ漸ク乾燥落屑シ殆ント治癒セリ右同部ノ落屑狀況消失殆ント治癒ス	治	癒			
4	d	5/XII	宮部菌	I	腰部(白毛部)	接種部ハ第一回接種ノ如クニシテ皮膚ニ變化ヲ認メス	同部ハ全ク健康部ニ同シ			原因不明ニシテ第十七日斃死ス			
5	e		"	I	腰部(褐毛部)	同上	同上			局部ニ變化ナシ			
6	a	19/XII	左(馬ノ菌)	I	左背部	接種部一般灰白糠枇ヲ破リ一ニノ小豆大薄結痂アリ且料髪アリ一般ニ種小ノ滲潤アリ	(左)前週ノ症狀殆ント消失ス第十日小落屑ヲ附着セル毛髮ヲ「アガール」培地ニ移植セシニ第二週ニ至リ漸ク他ト區別シ得ヘキ Colonie トナレリ其色ハ淡黄色ニシテ硬皮ヲ有シ表面ヨリ(狀ニ擡起シ深部及周圍(表面)成育著シク又盛ニ氣胞ヲ生ス而シテ該氣胞ハ漸ク灰黑色ヲナシ全ク Colonie ヲ被フニ至レリ該 Colonie 鏡下所見ハ大芽胞菌ナリ人工培地ニ長サ4.2-40.8幅4.8-7.2芽胞 4.8 ナリ						
7	a		右(宮部菌)	I	右背部	接種部一般灰白糠枇アリ小豆大ノ落屑ハ毛髮ノ中途ニカキ僅ニ肥厚アリ又僅カニ料髪ス	(右)前上ニ同シ						
8	b	11/I	左(馬ノ菌)	I	左背部	接種部ハ未タ毛髮ノ再生ナキモ此ノ炎症及落屑ナシ	第七日來倦怠運動不活潑食慾不進等アリテ第九日原因不明(胎居ノ爲メ)ニテ斃死ス局部ニ變化ナシ						
9	b		右(宮部菌)	I	右背部	同上ニシテ小血痂ヲ見ルノミ							
10	a	11/I	左(馬ノ菌)	I	左背部	接種部皮膚殆ント變化ナシ	直徑0.5cm大ノ滲潤二三點在シ落屑ナシ	滲潤全消毛髮盛ニ再生ス					
11	a		右(宮部菌)	I	右背部	接種部ハ唯點在セル小滲潤ヲ認ム	點狀滲潤部ハ稍擴大シ其部ノ短キ毛髮ハ東狀ヲナシテ稍狀落屑ヲ付セル如シ	只落屑ノ僅ニ毛幹ノ中途ニ懸レルノミ					
12	c	19/I	左(馬ノ菌)	I	左腹側部	接種皮膚部變化ナシ	小點狀滲潤(結痂)ノ二三ヲ認ム皮垢糠枇アルノミ	共ニ發生ノ狀ナシ					
13	c		右(宮部菌)	I	右腹側部	前上ニ同シ	前上ニ同シ						
14	a	4/III	左(馬ノ菌)	II	左股部(黑毛部)	接種部ハ只暗褐色血性痂皮ヲ附スルノミ	本週ノ終リニ至リ直徑約三仙迷長橢圓形部ハ全ク毛髮ナク赤色滲潤性肉芽面ヲ呈シ稍々痲痺アルカ如シ	滲潤依然タルモ肉芽面ハ乾燥シ落屑附着セリ毛髮ナシ(二月五日影寫)	滲潤稍減退シ落屑ハ尙ホ固着性ナリ毛髮ナシ	滲潤ノ中央扁平トナリ稍有縁性ヲ呈シ大サ少シク擴大シ周圍ノ潮紅稍著シ	中央及周縁ノ滲潤殆ント全ク消失シ毛髮(數回落屑ヲ人工培養セルモ陰性成績ニ終レリ)		
15	a		右(宮部菌)	II	右股部(黑毛部)	前上ニ同シ	接種部ニハ輕ク滲潤ヲ早シ容易ニ料髪ス落屑ハ小葉狀ニシテ稍著シ	接種部ニハ輕ク滲潤ヲ早シ容易ニ料髪ス落屑ハ小葉狀ニシテ稍著シ	滲潤全ク消失セル如キモ落屑ハ尙ホ輕ク存シ料髪ナシ	症狀全ク治癒ス			
16	c	4/III	左(馬ノ菌)	II	左股部	接種部ニハ血性暗褐色ノ小結痂ヲ認ムルノミ	周圍ノ毛髮再生シ血痂ハ尙腐知シ得ルモ更ニ炎症狀ナシ	血痂部ノ周圍ニ五厘料髪大ノ滲潤ヲ生シ稍々有縁性ヲ呈シ落屑アリ毛幹被フ	滲潤部益々増大シ一時間減退セルモノ、如ク落屑旺盛ナルモ滲潤稍減退ス(影寫三月四日)第五週ニ「ア面」ヲ早シ大サ直徑一仙迷ガール」培地ニ移植シタルニ全ク馬ノ落屑ヨリ移植シタルモノト同型ノ大芽胞菌ヲ得タリ	本週ノ終リニ至リ炎症狀稍減退セルモノ、如ク落屑旺盛ナルモ滲潤稍減退ス(影寫三月四日)第五週ニ「ア面」ヲ早シ大サ直徑一仙迷ガール」培地ニ移植シタルニ全ク馬ノ落屑ヨリ移植シタルモノト同型ノ大芽胞菌ヲ得タリ	滲潤益々扁平トナリ落屑減少ス然レモ毛髮ハ容易ニ料髪シ局部ハ常ニ禿面ヲ呈ス	滲潤殆ント消失シ局部ハ尙禿面ニシテ羊皮狀薄髮ヲ早シ全ク扁平トナリ落屑殆ントナシ	
17	c		右(宮部菌)	II	右股部	同 前	小血痂ヲ觸知シ得ルノミ	落屑シ殆ント治癒ス					
18	a	4/III	左(馬ノ菌)	I	左背部	糜爛面ヲ呈シ毛髮ニ沿テ滲潤輕度ナルモ周圍トノ境界明ナリ							
19	a		右(千野菌) \ \ micro	I	右背部	滲潤極ノテ僅少ナルモ輕度ノ灰白落屑アリ							
20	c		左(馬ノ菌)	I	左背部	一小點血痂アルノミ							
21	c	右(千野菌)	I	右背部	一小點血痂アルノミ								

備考

ハ發育不良ニシテ凝固セズブイオンニハ發育遅々タリ培養後三週間ヲ經過スルモ
 纔ニ豌豆大ニ達スルノミ而シテ米粒大ノ星狀ノ集合ナリ
 馬鈴薯ハ培養後三週ニシテ漸ク米粒大ニ達ス
 鏡檢スルニ長キ菌節ヲ有シ末端芽胞被膜芽胞ノ形成アリ芽胞ノ大サハ種々アリ
 動物試験ニハ海豚ニ移植セルモ遂ニ皆陰性ニ終レリ
 七月三十一日同上處置ノ下ニ他ノ一海豚ニ村越菌ヲ移植セルモ成績遂ニ陰性ナリ
 キ

クレーゼング Krosing 氏千八百九十六年白癬菌ヲ海豚ノ皮下ニ移植セシモ不成績ニ
 終リ塗擦ニ依テ皆結節ヲ形成セシコトヲ報告セリ
 ヒューゲル Hugel 氏ハ海豚ニ小芽胞菌培養ヲ行ヒシモ陰性ナリ又大芽胞菌モ陰性
 ニ終リシコトヲ報告セリ

人體接種試験

クインケ Quinke, ウェルシュ Walsch 等ハ人ノ皮膚ニ白癬ヲ移植セルモ陰性ナリシ
 余ハ左ノ如クセルモ亦陰性ニ終レリ

六月二十日 入院患者岡村某結核性皮膚疹

顛頂部ニ二箇所ニ錢貨大ニ剃髮シアルコイルニテ拂拭シ刀刃ヲ以テ落屑ヲ充分剝離シ充血ヲ起サシメ左側ニ木村菌右側ニ村越菌ヲ共ニアガール斜面培養ヨリ取り刀刃ニテ塗擦セリ七月二十五日右側ニハ何等變化ナキモ左側ニハ赤豆大ノ膿疱ヲ形成セルノ外何等ノ異狀ヲ認メズ同日局部ヲ切除シバラフィン標本ヲ製シ鏡檢セルニ毛根周圍ニ異狀ナク限局性ニ同形細胞浸潤ヲ認メズ表皮下ノ血管擴張シ且ツ其周圍ニ圓形細胞浸潤アリ毛髮ノ斜斷面ニモ何等異狀ヲ認メズ

六月廿八日 大竹某黃癬

項部健康部ヲ二錢貨大ニ剃髮シ岡村同様ニ處置シテ左側ニ村越菌右側ニ松岡菌ヲ塗擦移植シ七月五日之ヲ檢スルニ毛髮已ニ再生シテ異狀ナシ依テ同日更ニ右側ニ小松菌左側ニ木村菌ヲ移植シ廿五日之ヲ檢スルニ成績共ニ陰性ナリシ

余ノ大小芽胞菌鑑別標準

余ハ以上ノ臨牀上及ビ培養上ノ肉眼的鏡檢的所見ヨリ日本ニ於ケル小芽胞菌性白癬即チグルービー氏病ト大芽胞菌性固有白癬トヲ分類シ得タリト思考ス

小芽胞菌性白癬ノ臨牀上ノ特徴ハサプロー氏ノ唱道セル如ク髮ヲ包裡スル所ノ落屑鞘ナリ然レドモ此毛鞘ナシトテ必シモ小芽胞菌ニアラズト云フコトヲ得ズ是レ往々灰白色ノ糝糠狀落屑ヲ有スルモノアレバナリ又サプロー氏ハ小芽胞菌ノ病竈ハ固有白癬菌ニ比シテ少數ナリト云ヒシガ如キモ決シテ常ニ然ラズ唯全部十歳以下ノ小兒ヲ侵カスト云フコトハ診斷上ノ價値アリト云フコトヲ得ベシ今最モ確實ニ其大小芽胞ヲ鑑別セント欲セバ其毛髮ヲ拔去シ之ヲ加里滲汁ニ處置シテ鏡檢スルカ或ハ單ニグリセリンニテ透明トナシ鏡檢セバ髮ノ内外ニ二—三ルヲ算スベキ小球即チ小芽胞ノ純培養ノ如キヲ認識スルヲ得ベシ余ハ先ヅ此所見ヲ基礎トシテ培養ヲ行ヒ培養上肉眼的及ビ鏡檢的ニ左ノ各項ニ該當スルモノヲ小芽胞菌ト斷定セリ

一、髮ヲ直接通常アガール斜面ニ培養シテ初メ星狀ノ長キ放線ヲ出シ四週後ニ必ズ多少ノ帶黃褐色ノ莖葉ノ如キ又鬼苔ノ如ク發育緩慢ニシテ蟹足狀或ハ木根狀ノ突起ヲ出シ其狀恰モ盤根ノ錯節スルガ如ク必ズ培養基ノ深部ト表面蔓延ト殆ド相平均シ其深部ニ發育スルヤ束針狀ヲ以テシ大芽胞菌ノ如ク表面性ノ蕃殖ヲナサザルヲ常トスルモノ

二、小芽胞菌ハ扁平培養ヲ行ヘバ純白色ノ扁平若クハ稍々結節狀ニ發育スル絨毛

狀圓斑ニシテ之ヲアガール斜面ニ移植セバ純白色中央稍々隆起スル綿或ハ白毛様培養ヲ得即チ川久保安雄ノ髮ノ直接培養ト磨碎セルアガール扁平培養移植トニ於ケルガ如シ

三、鏡檢上末端芽胞及ビ菌絲節多數腹様異大膨脹ヲ來タシ恰モ珠數或ハちよろぎヲ見ルガ如キ觀アリ即チ此腹様膨脹最モ多數ナリ

大芽胞菌ハ左ノ各項ニ基キ分類セリ

一、扁平培養及ビ斜面培養後數日ニシテ褐色乃至綠褐色ノ花粉様若クハ細砂狀ノ表面ヲ呈シ培養基ノ深部ニ發育セズシテ平面ニ蔓延スル苔ヲ形成ス山口菌、飯田菌、村越菌等ノ如シ

二、鏡檢上ニハ其花粉狀ノ如キモノハ皆氣中芽胞ニシテ諸種ノ蕃殖器官アリ

三、極メテ僅少ノ菌絲膨脹ヲ認ムルノミニシテ菌絲ハ樹枝狀ニ分岐スルモノ多シ余ガ培養セシモノニ於テハ大芽胞菌ニシテ成書所載ノ特異ナル棍棒狀ノ如キ末端芽胞ヲ認メシコトナシ是レ大ニ歐洲ノ其ト趣ヲ異ニスル所ナリトス今日マデ臨牀上しらくもト稱シ來リシモノハ大部分小芽胞菌ニシテ然カモ特有ナル落屑性毛鞘ヲ有セズ瀰蔓性若クハ限局性ナルモ其發育蔓延旺盛ナラズシテ固有

ノ毛鞘ヲ形成セザルモノナラン余ノ羽鳥某ニ於ケルガ如キ是レナリシナリ即チ唯左耳上部ニ一錢貨大ノ病竈アルノミ其落屑モ僅少ニシテ頭皮ニ附著セルノミナレドモ培養鏡檢共ニ小芽胞菌ナリキ其他宮田兄弟武井伴四郎ノ如キモ亦然リ又菌絲横徑ノ差ノ如キハ新舊ニ因テ差アルノミナラズ余ノ「ホール」オブエクトグラスノ所見ニテモ已ニ不同ナリ殊ニ長ク延長シタル菌絲ニテハ其經過中ニ不同ノ太サヲ有ス培養ニ關シテモ毛髮直接ノモノハ概シテ速カニシテ小芽胞菌ハ其發育最モ遅々タリ然レドモ之ヲ磨碎シテ扁平培養ヲ行ヘバ發育速カナリ色素產出ノ如キモ余ノ例ニ在テハ小芽胞菌ハ帶黃褐色ニ止マルモ大芽胞菌ハ諸種ノ色素及ビ油様ノ物質ヲ產出セリ

余ノ分類シ得タル大要左ノ如シ

(一) 頭部白癬 五十四名髮ヲ直接鏡檢セルモノ八名培養ヲ行ヒシ者二十三名

(a) 小芽胞菌性 三十一名

(b) 大芽胞菌性 七名就中其培養上ノ形態ヨリシテ命名シ能フベキモノハイ(イ)東藤吉 噴火口狀白癬菌性、ロ)小松一「ギブス」様白癬菌性、ハ)小林正心 尖圭白癬菌性ナランカ)

(二) 無毛部白癬七十一名

- (a) 小水疱性白癬(内培養ヲ行ヒシ者六名中内二名ハ小芽胞菌ニシテ又頭部白癬ヨリ傳染セシ小芽胞菌性ト認定スベキモノ二名アリ)
- (b) 落屑紅斑性白癬(内培養ヲ行ヒタル者一名頭部白癬ヨリ傳染セル者ト認定スベキ者四名)
- (c) 頑癬 十二名培養五名ヲ行ヒ二名小芽胞菌ナリト認定ス)
- (d) はたけ 三十一名(十名ハ培養ヲ行ヒ陽性六名内一名小芽胞菌性ト認ム)
- 三、爪ノ白癬 八名皆大芽胞菌性ナリ)

臨牀症候及白癬菌培養上形態異同辨

千九百年サブロー氏ハ同一培養基ナレバ一病竈ヨリハ其臨牀上ノ形狀如何ニ關セズ同一聚落ヲ得ルモノナリト公言セルモ縱令同一培養基ナリトモ其培養方法ノ異ナルニ於テハ間々此公言ニ適合セザルコトアルガ如シ例ヘバ余ノ比較試験ニ行ヒタル川久保菌培養ノ如キ是レナリ一ハ消毒後ノ髪ヲ直接アガール斜面ニ置キシモノハ發育緩慢ニシテ其色帶黃褐色ノ蟹足狀突起ヲ出シ個々孤立ノ莖狀聚落ニシテ

鏡檢上腹様膨脹ヲ以テ發育蕃殖スルニ反シ髪ヲ磨碎セルモノヲ同性質ナルアガール扁平培養ヲ行ヘバ白色絨毛様ノ圓斑聚落ニシテ之ヲ再ビアガール斜面ニ移植セルニ發育迅速ナル白色絨毛様ノ苔ヲ形成ス又更ニ同一方法ニ據テ培養セルモノハ其臨牀上ノ形狀甚ダ差違アルニモ關セズ常ニ同一培養ヲ得タルコト例ヘバ高島貞一¹⁾はたけ菌ト高橋りき²⁾ノ小水疱性白癬菌ト太田道和³⁾ノ頑癬、川久保⁴⁾ノ頭部白癬ノ如キ共ニ扁平培養ヨリ得タル小芽胞菌性ニシテ其アガール斜面培養基移植上ノ色、形狀、發育狀態等全然相一致セリ又木村豊平⁵⁾菌ノ如ク同一方法ニ依リシ髪ノ直接アガール斜面培養ハ松岡宮川、戸崎小山等ノ如ク皆同一ノ聚落ヲ得タリ

又東菌培養ハ半球形ナリシモ之ヲ移植セル兔ノ右耳ヨリ得タリシ培養ハ黒褐色ノ氣中芽胞ヲ戴ケル發育迅速ナル苔ヲ形成セリ

之ヲ要スルニ純粹培養ハ諸種要約例ヘバ其寄宿スル人類動物ニ關シ又同一ノ者ニテモ其部位ニ據テ變形ヲ來タスコトアルベシ然ノミナラズ其菌ハ同種ナリトモ其培養基ハ勿論溫度培養方法又ハ其期間ノ長短等ニ因テ其成績ニ差アルベシ余ハクレージング氏(千八百九十六年)ノ云ヘルガ如ク白癬菌ヲ顯微鏡的ニ區別セントスルモ其生殖器官ノ多種ナルト時期ニ因テ不定ナルヲ以テ不可能事タリ寧ロ肉眼的ニ

同要約ノ下ニ發育セシメタル培養ニ據テ區別スルコト適當ナリトノ主張ニハ全然同意スルコト能ハザルモ亦一面其眞理ニ服セザルヲ得ザル場合多シトス大部分ハ必ズ肉眼的ト鏡檢的ト相須テ甫メテ爲シ得ラルルモノナリ

同一菌種ニテモ無毛部ト頭部ニ來タル臨牀上ノ異同ハ其例ニ乏シカラズ例ヘバ一ハ時ニはたけトナリ一ハ小水疱性白癬ヲ惹起セル場合ニ於ケルガ如シ又等シク無毛部ニ來ル時モ必ズ同形狀ヲ呈スルモノニアラズ即チ高島はたけ菌ト小林周作はたけ菌トハ共ニ其病原ハ小芽胞菌ナレドモ一ハ通常はたけニシテ他ハ同時ニ水疱性白癬ヲ惹起セルニ於ケルガ如シ又更ニ太田道和ノ如キ頑癬ヲ形成シ高橋りきノ如ク小水疱性白癬ヲ惹起セシモノアリウキルシ *Willisch* 氏(千八百九十六年)臨牀上ノ病型ト培養上ノ形狀ニ一定ノ關係アルコトヲ述ベタル如ク培養發育上ニテ想像スルモ木村類似ノ小芽胞菌ノ如キ皆培養基ノ深部ニ緩慢ナル發育ヲナシ腹様膨脹ヨリ被膜芽胞ヲ形成スルガ如キヲ見レバ頭部白癬殊ニ小芽胞菌性ハ其經過ノ緩慢ナルコトト落屑性ノ毛鞘ヲ形成スルコトヲ想像セラルベク又山口はたけノ培養ノ如キ中山重之はたけノ如キ皆遠心性ノ環層ヲ形成スル所ハ實ニ臨牀上ノ環狀白癬ヲ爲スベキ大芽胞菌ノ培養ノ形態ト相一致スルモノト見做サルベシ

如何ナル理由ヲ以テ同一菌種ニシテ一ハ純白絨毛様ノ苔ヲ形成シ一ハ帶黃褐色ト
よろぎ或ハ木根菌ノ聚落ヲ形成スルヤノ疑問アルベシ余ハ答ントス同種ナレドモ
其組織ノ異ナルニ從ヒ頭部ニ於ルト無毛部ニ於ケルトハ已ニ其菌發育ニ對スル培
養基トシテ解剖的相違アル培養基ニ發育セル植物ハ之ニ相當スル性状ニ變化ヲ來
タスハ已ニ高等植物ニ於ケル事實之ヲ證明シ得ベシ又同一菌ニシテ臨牀上異ナル
形狀ヲ呈スル所以モ其個人ノ組織ト周圍ノ諸種ノ關係ニ由來スルコトモ首肯シ得
ラルベシ產出スル色素ハ一定セズ淡紅色アリ帶綠褐色アリ帶黃褐色アリ同一培養
基中ニ於テモ其色ヲ異ニスルコトアリ是レ外氣ノ作用ト其菌生活ノ長短ニ關スル
モノノ如シ

同一菌種ニシテ其培養方法ノ相異ニ依テ同一培養基ニ於テモ其發育狀態ニ變化アルコト例ヘバ毛髮直接ノ培養ノ髮ヲ磨碎シ扁平培養スルトキハ恰モ是レ高等植物ノ種子ヲ一團トシテ一所ニ混種セバ芽胞各個ハ其自然發育ヲ互ニ阻害シテ發芽ニ變化ヲ來タスニ反シ廣キ場所ニ一個ノ種子ヲ播ケバ自由ト完全ナル榮養ヲ以テ萌芽スルガ如キトノ差ニ因ルモノト見做スコトヲモ考ヘラルベキカ

結 論

一四六

- 一 俗稱「しらくも」ハ主トシテ小芽胞菌ニ因スル頭部白癬ナリ
- 二 俗稱「はたけ」ハ顔面ニ發生スル所ノ主トシテ大芽胞菌ニ因スル落屑性白癬ナリ
- 三 頭部白癬「しらくも」ハ十歳以下ノ男兒ニ多ク「はたけ」ハ比較的妙齡ノ處女ニ見ルコト多シ
- 四 頭部白癬ハ極メテ頑固ノ症ナリ然レドモ年ヲ經ルニ從ヒ自然治癒ニ赴クモノナリ
- 五 頭部白癬及「はたけ」ハ一般ニ癢痒ヲ訴フル者少ナシ若シ之アリトスルモ輕度ナリ
- 六 「はたけ」ハ自然治癒ニ赴キ而シテ再發多シ
- 七 日本少クトモ東京ニ於テハ頭部白癬ハ小芽胞菌ノモノ多ク七十八%ヲ算ス
- 八 大芽胞菌性頭部白癬ニシテサブロー氏ノ唱ヘシ如ク禿髮アリ落屑ナクシテ黒キ點ヲ認ムルガ如キ患者ヲ見ズ

- 九 日本少クトモ東京ニ於テハ白癬性ノ毛瘡ヲ見ルコト極メテ稀ナリトス
- 十 支那ニハ環狀白癬ノミナリトノサブロー氏ノ報告ハ蓋シ皮相ノ觀察ナルモノノ如ク其頭部白癬殊ニ小芽胞菌ノ存在セルコトハ支那醫書ノ症候記載之ヲ證明ス

- 十一 無毛部ニ來ル小芽胞菌ハ一般ニ癢痒甚シ
- 十二 無毛部白癬ハ一般ニ治癒シ易シ
- 十三 白癬ノ傳染ハ男兒ニアリテハ主トシテ頭部壯年者ニハ無毛部ノモノ多シ
- 十四 女兒ニ頭部白癬ヲ見ルコト少ナキハ諸種遊戲ノ關係ヨリスルモ其主因ハ毛髮長クシテ菌ノ寄生ニ不便ナルコト與ツテ力アラン
- 十五 頭部ノ小芽胞菌性白癬ノ臨牀上特徵ハ其髮ヲ圍繞スル灰白色ノ落屑鞘ナリ此ノ如キ毛髮ヲ鏡檢セハ恰モ筆軸ニ塗油シテ之ヲ粟粒中ニ轉バシタルガ如キ外觀ニシテ髮ニ芽胞充滿附著スルモノナリ
- 十六 小芽胞菌ハアガール扁平培養ニテ白色絨毛様圓斑或ハ星狀ヲ呈シ發育速カナリ
- 十七 小芽胞菌性白癬患者ノ髮ヲ直チニアガール斜面ニ培養セバ初メ白色星狀

一四七

後帶黃褐色ニシテ發育遅々タル蟹足狀又木根ノ如キ聚落ヲ形成ス

十八 大芽胞菌ハアガール扁平培養ニテハ初メ白色絨毛様圓斑ナレドモ後チ多クハ褐色乃至黒綠色ノ色素ヲ産出ス之ヲアガール斜面ニ移植セバ花粉狀ノ表面ヲ呈セル苔ヲ形成ス

十九 馬鈴薯、薩摩芋、里芋等ニ髮自己ヨリノ培養ヲ移植シタルモノハ概シテ小芽胞菌ハ發育非常ニ緩慢ナレドモ大芽胞菌ハ白色綠褐色絨毛様ノ發育迅速ノ培養ヲ得

二十 小芽胞菌ノ髮直接ノ培養ハ培養基ノ表面ト深部トニ平均ニ蕃殖スルヲ常トスルニ反シ大芽胞菌ハ主トシテ培養基表面ニノミ發育蔓延シテ深部ニ侵入セズ

廿一 鏡檢上小芽胞菌ハ菌絲ニ腹様ノ膨脹ヲ來シ恰モ「ちよろぎ」ヲ見ルガ如シ其形大サハ種々ナリ大芽胞菌ハ之ニ反シ此膨脹少ク且ツ氣中芽胞ヲ戴クモノ多シ

廿二 小芽胞菌大芽胞菌共ニ其菌絲ノ太サハ確定セザルモ大約二―三μナリ

廿三 頭ヲ除キテハ臨牀症候ヨリ大小芽胞菌ヲ區別スルコト能ハズ

廿四 日本ニ於テハ白癬菌ニ因スル諸症候及ビ諸種ノ白癬菌現存スルモノノ如シ

廿五 動物移植試験ハ必シモ陽性ナラズ

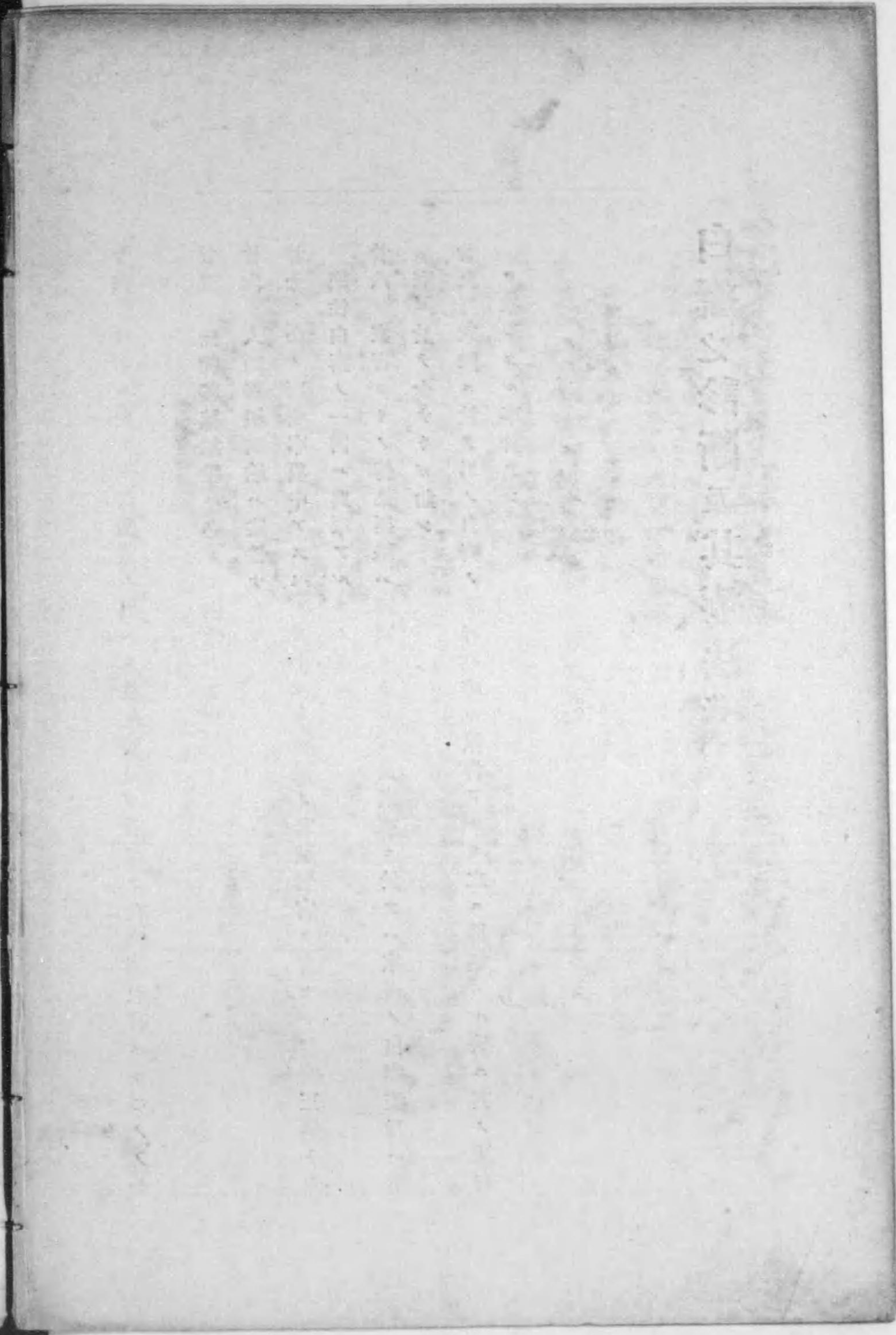
廿六 人間移植試験ハ陰性ナリキ

廿七 余ノ研究事項中「アスベルギールス」類似ノ蕃殖器官ヲ有セシ白癬三例ト水疱性白癬ノ一例ハ興味アルモノトス

廿八 家畜ヨリノ傳染徑路ハ證明セラレズ又東京ニ於テハ家畜ノ白癬流行ハ實際ニ於テ少ナキガ如シ

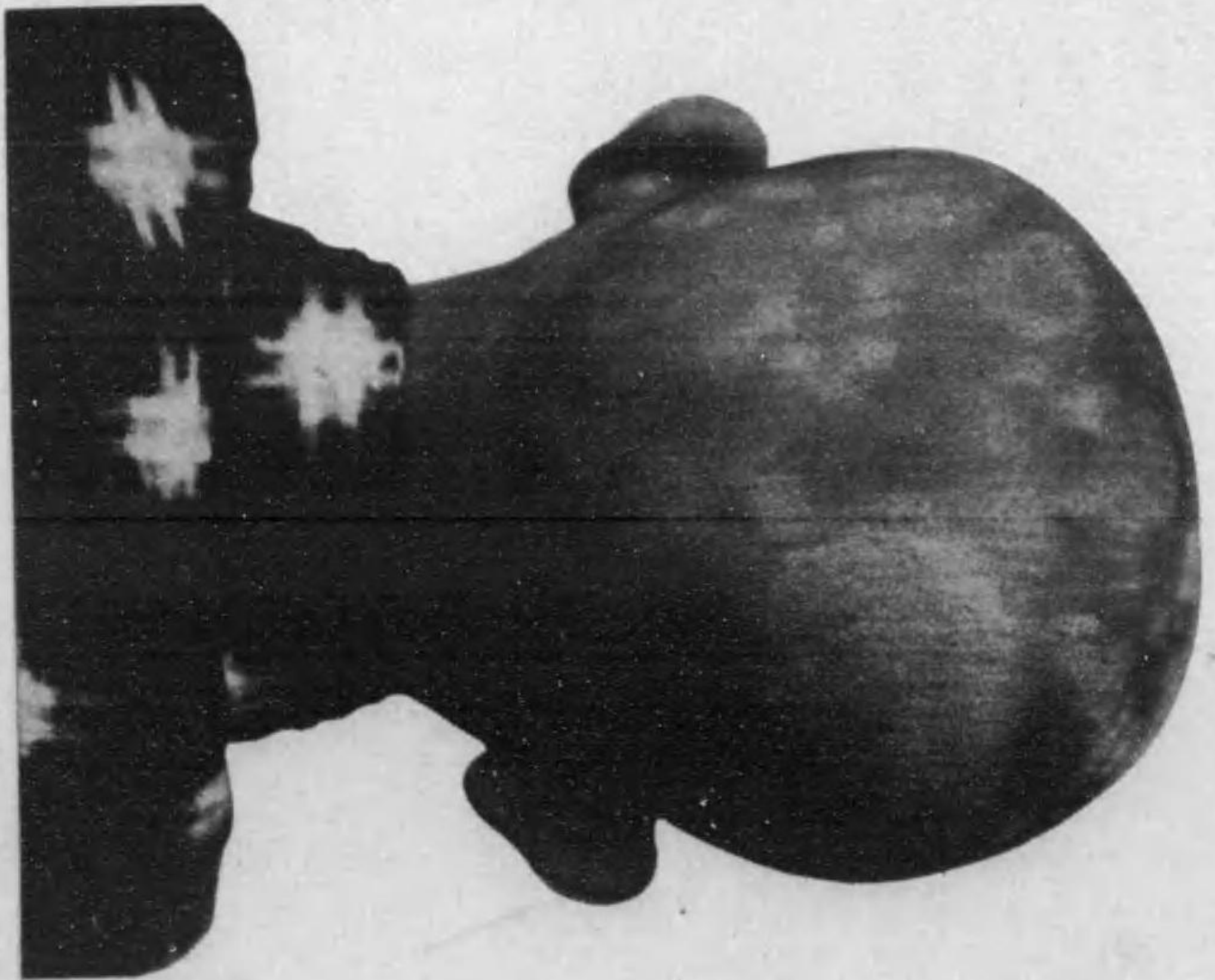
廿九 軍隊ニ於テ馬ノ白癬ノ流行ハ時々報告アルモ之ニ接觸スル兵ニ其ノ流行ヲ來シタル事實ナシ

白癬之診斷及其療法終



第壹表

A.



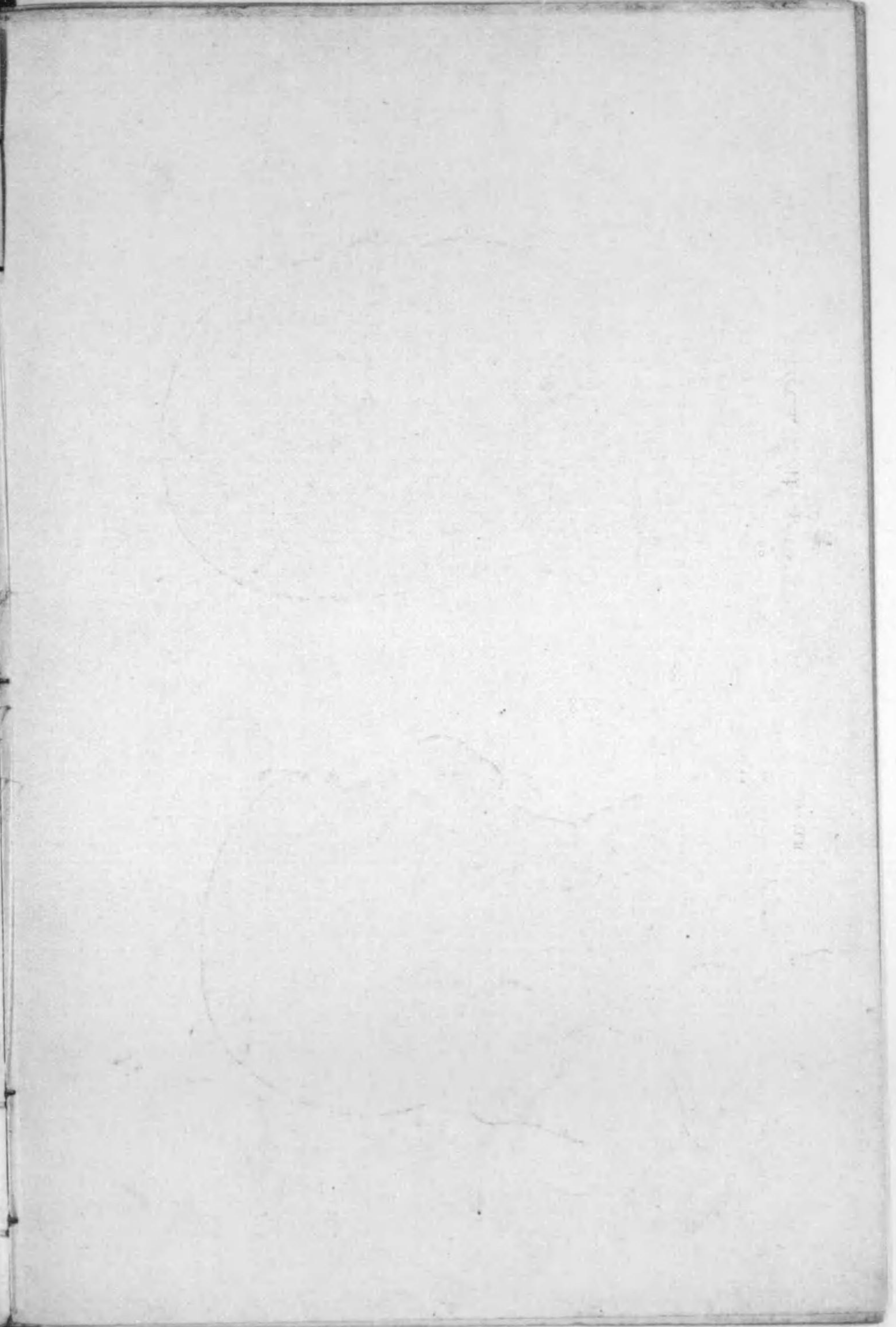
Microsporie.
菌胞芽小
(Shirakumo.)

B.



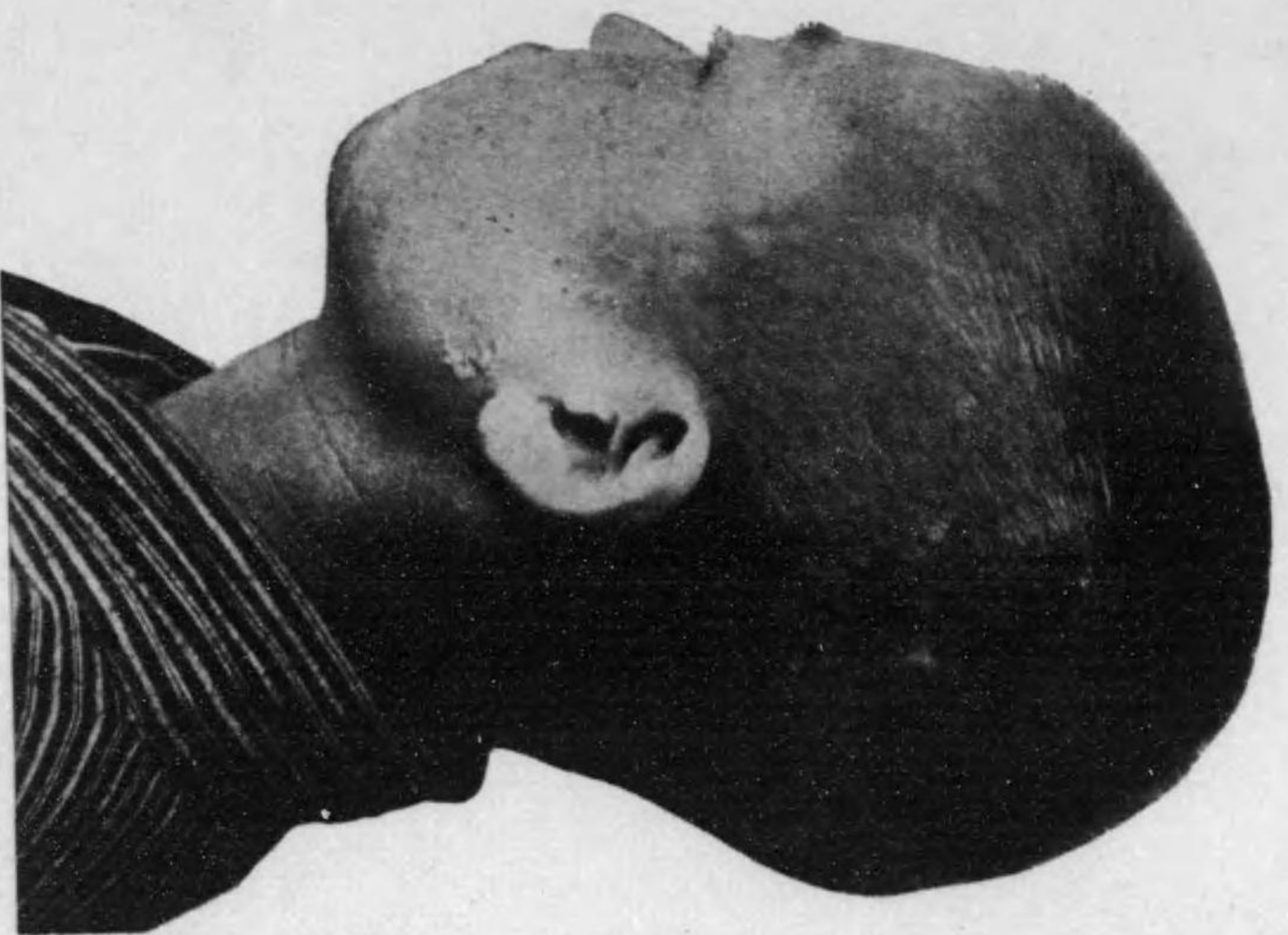
Trichophytia squamosum.
けたは
(Hatake.)

Tab. I.



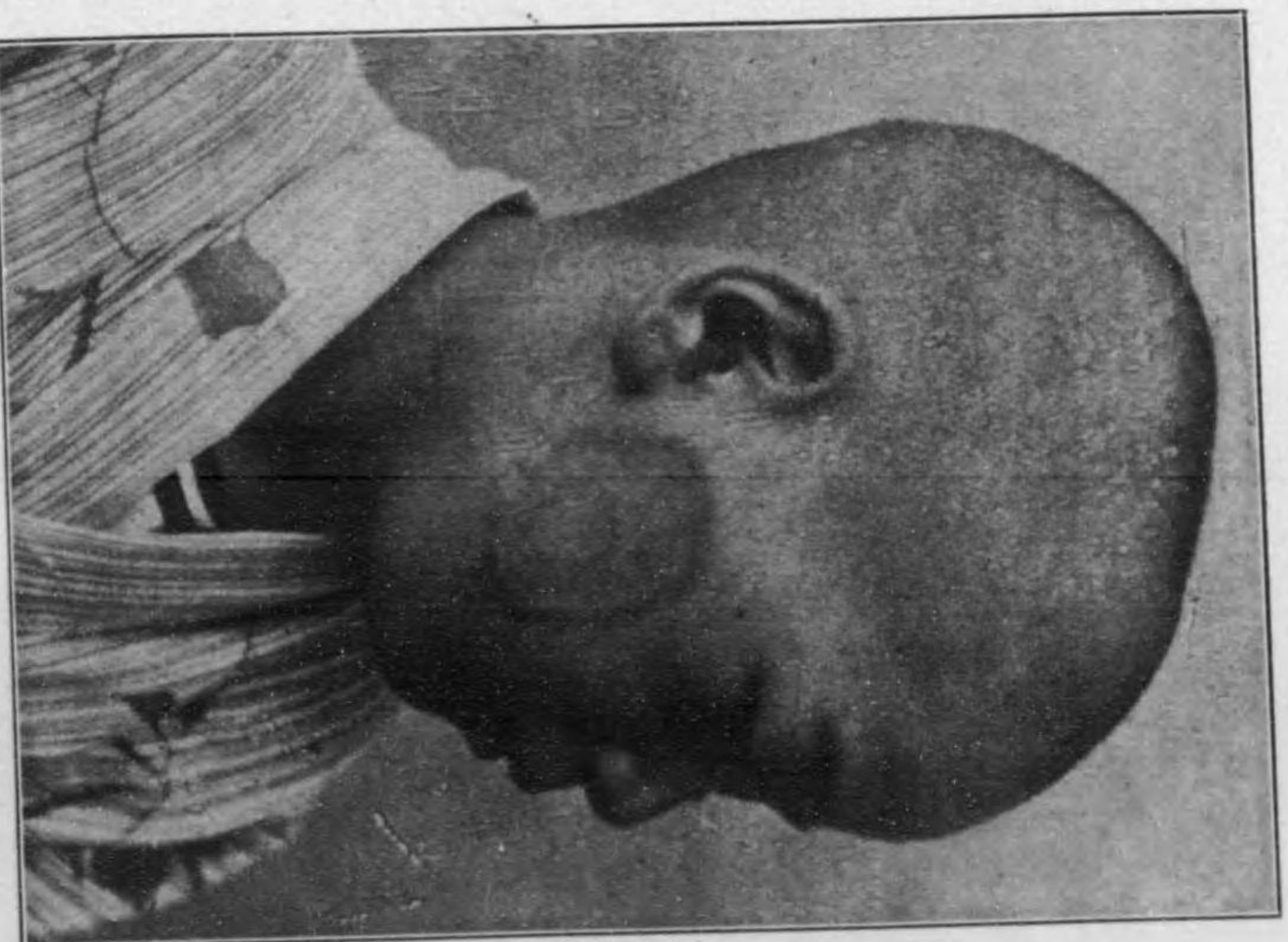
Tab. II.

B.



Trichophytia bullosum. 癬白性疱水

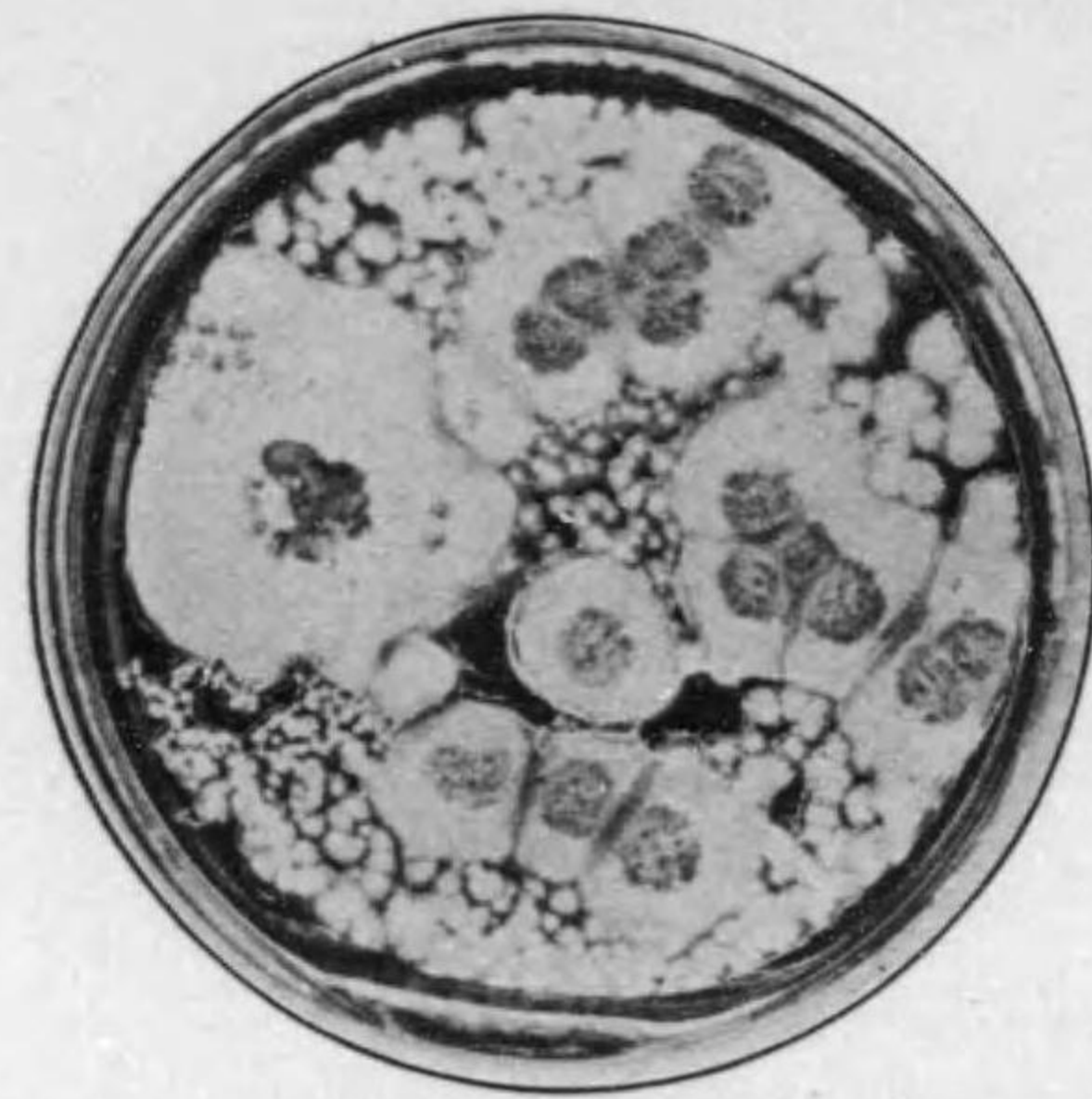
A.



Trichophytia vesiculosum. 癬白性疱水小
(Tannushu.)

第貳表

A.



Orychomykosis trichophytina. 癬白ノ爪

B.



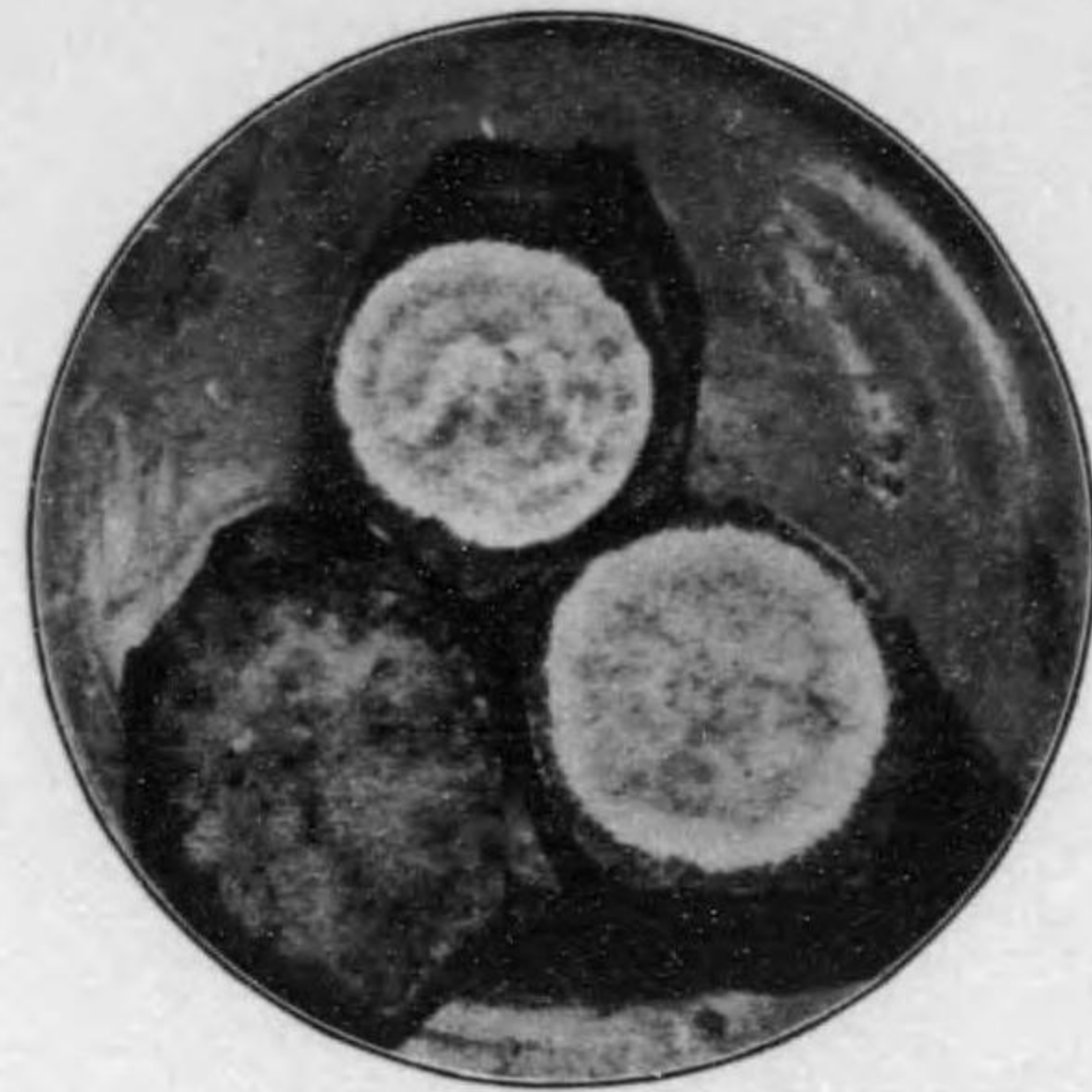
Ekzema marginatum. 癬頑

Tab. IV.

第四表

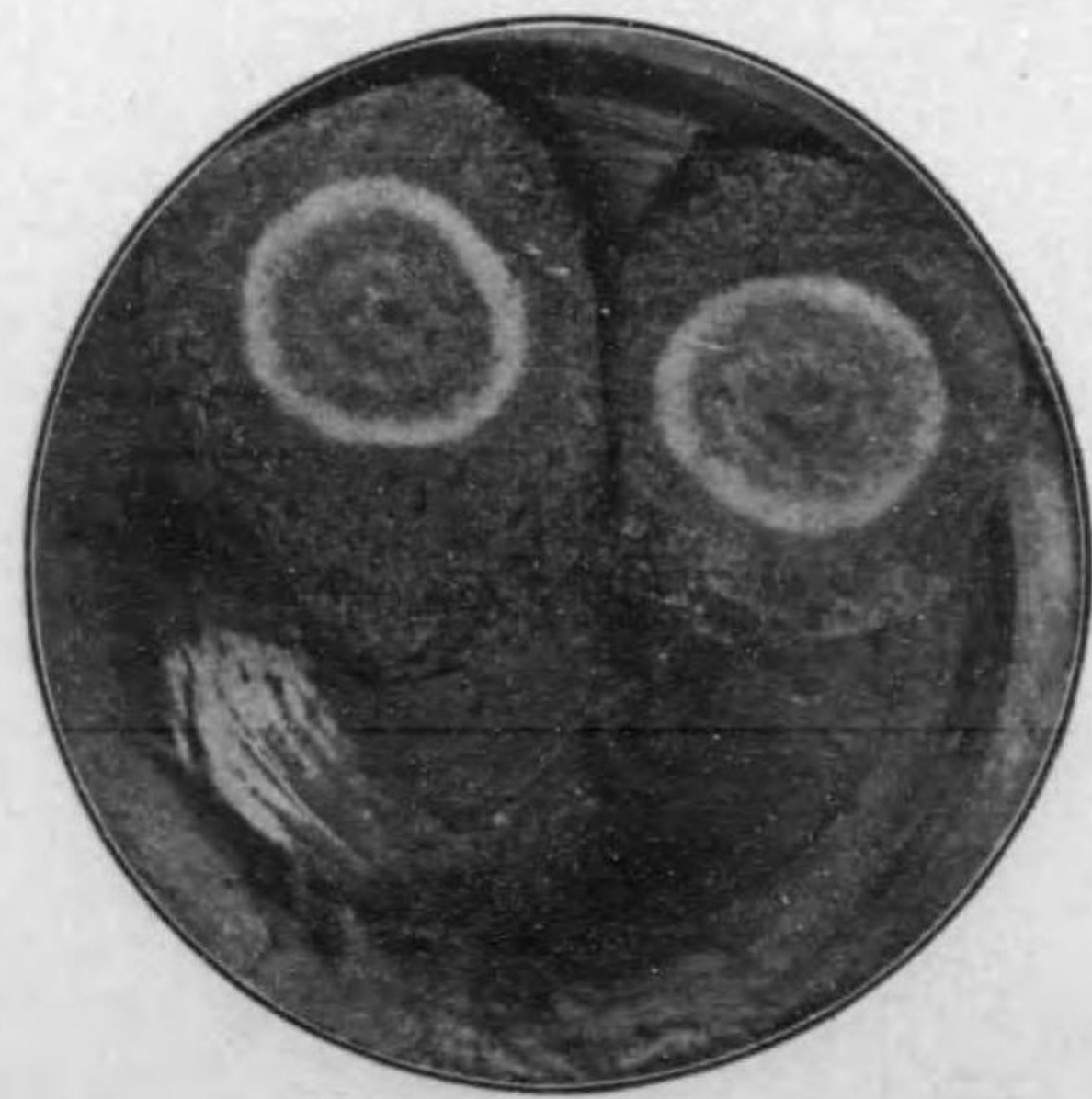
蕨
參
表

A.



Trichophytia squamosum. けたは
(Hatake.)

B.



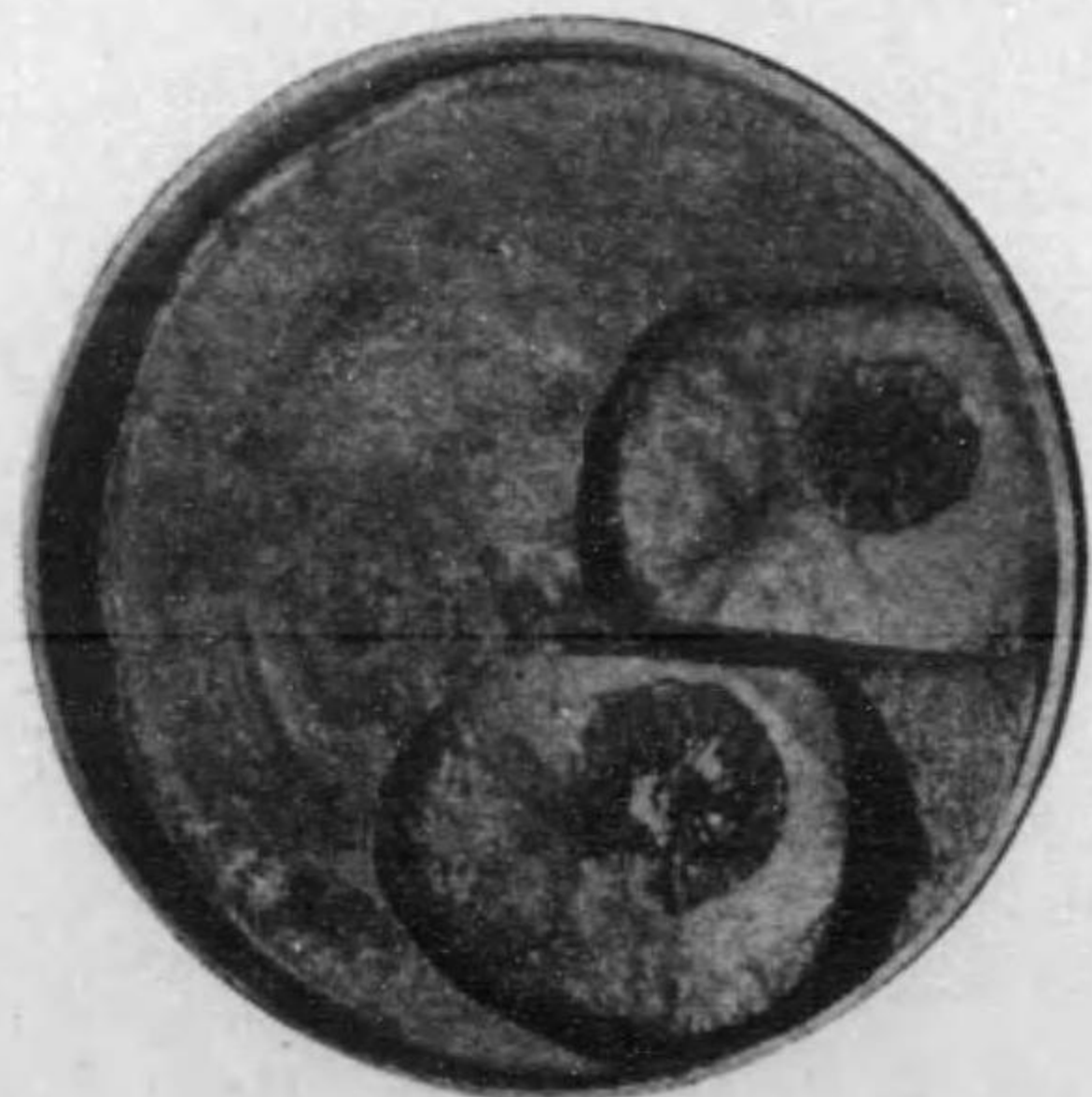
Trichophytia squamosum. けたは
(Hatake.)

A.



Trichophytia vesiculosum. 癬白性疱水小

B.



養培ノリヨ耳左兔
Kultur aus Linken Ohr der Kaninchens.
(Stammpilz: Ekz. marginatum.)



Faint text below the diagram, likely a label or description.

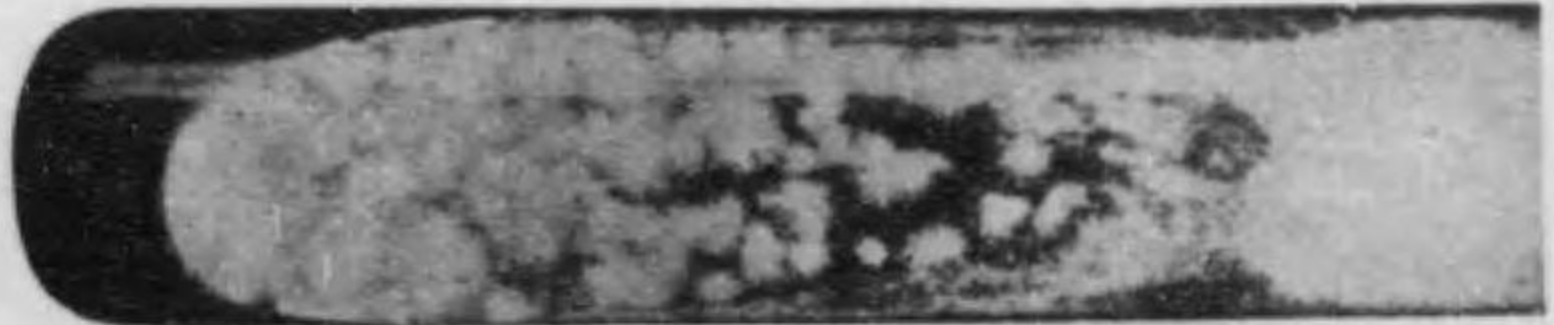


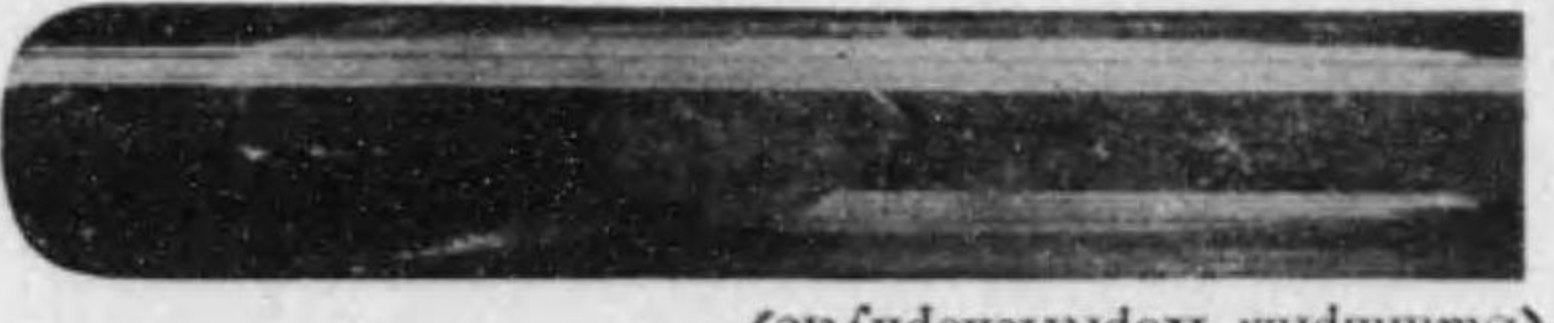


Faint text below the diagram, likely a label or description.

A

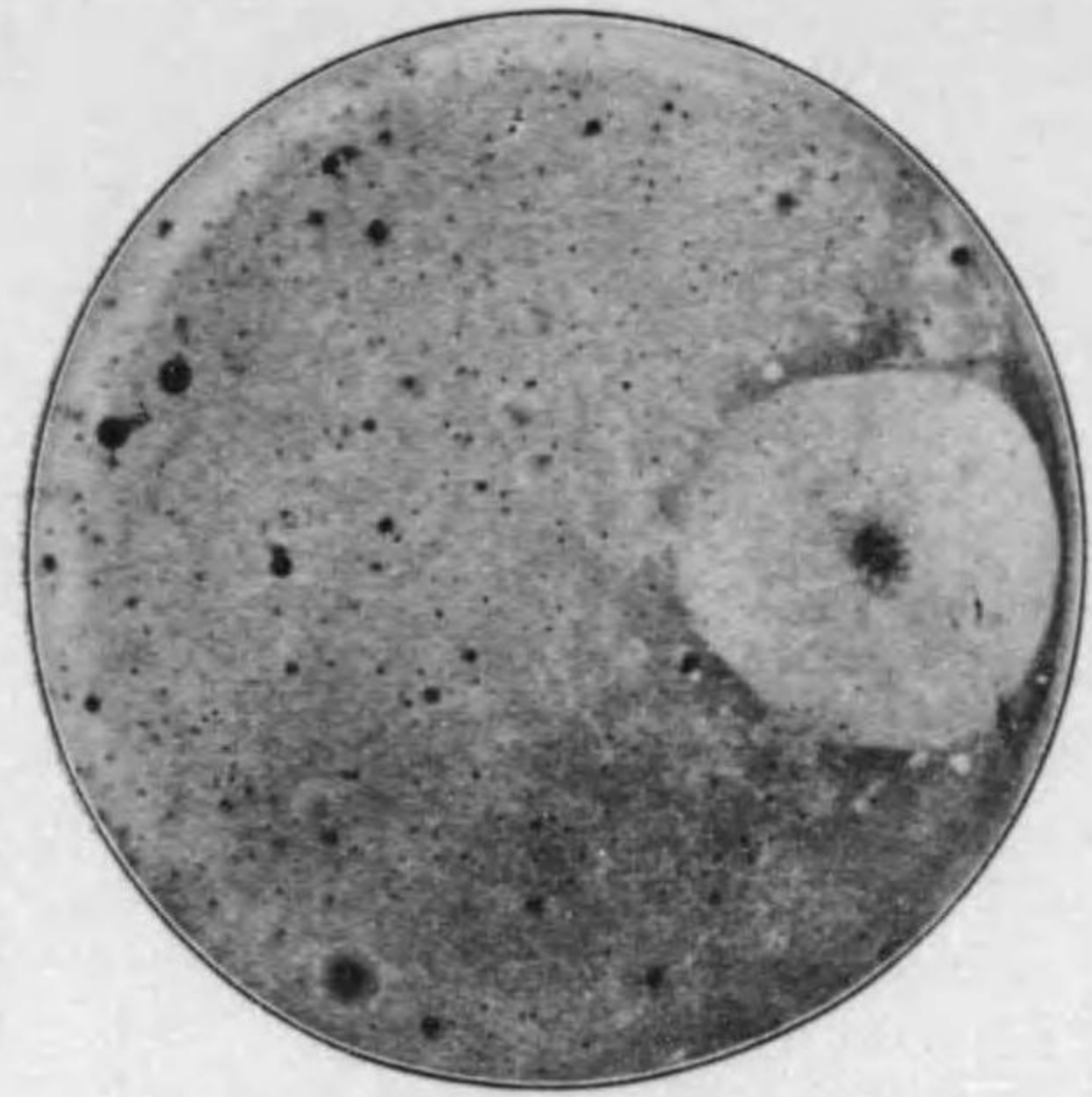


第六表

Tab. VI.

- A. *Trichophytia vesiculosum.*  小水疱性白癬
- B. Hatake.  はたけ
- C. *Microsporie* (Kultur des Haarstücks, direkt auf Agar-Agar, der als schwarzpunkt aussieht)  髪直接ノ培養
黒點ハ即チ髮ナリ
- D. *Macrosporie* (Kultur aus rechten Ohr des Kaninchens) (Stammpliz: *Kopftichophytie*).  兎ノ左耳ヨリノ培養
- E. *Nageltichophytie.*  爪ノ白癬
- F. Hatake.  はたけ

A.

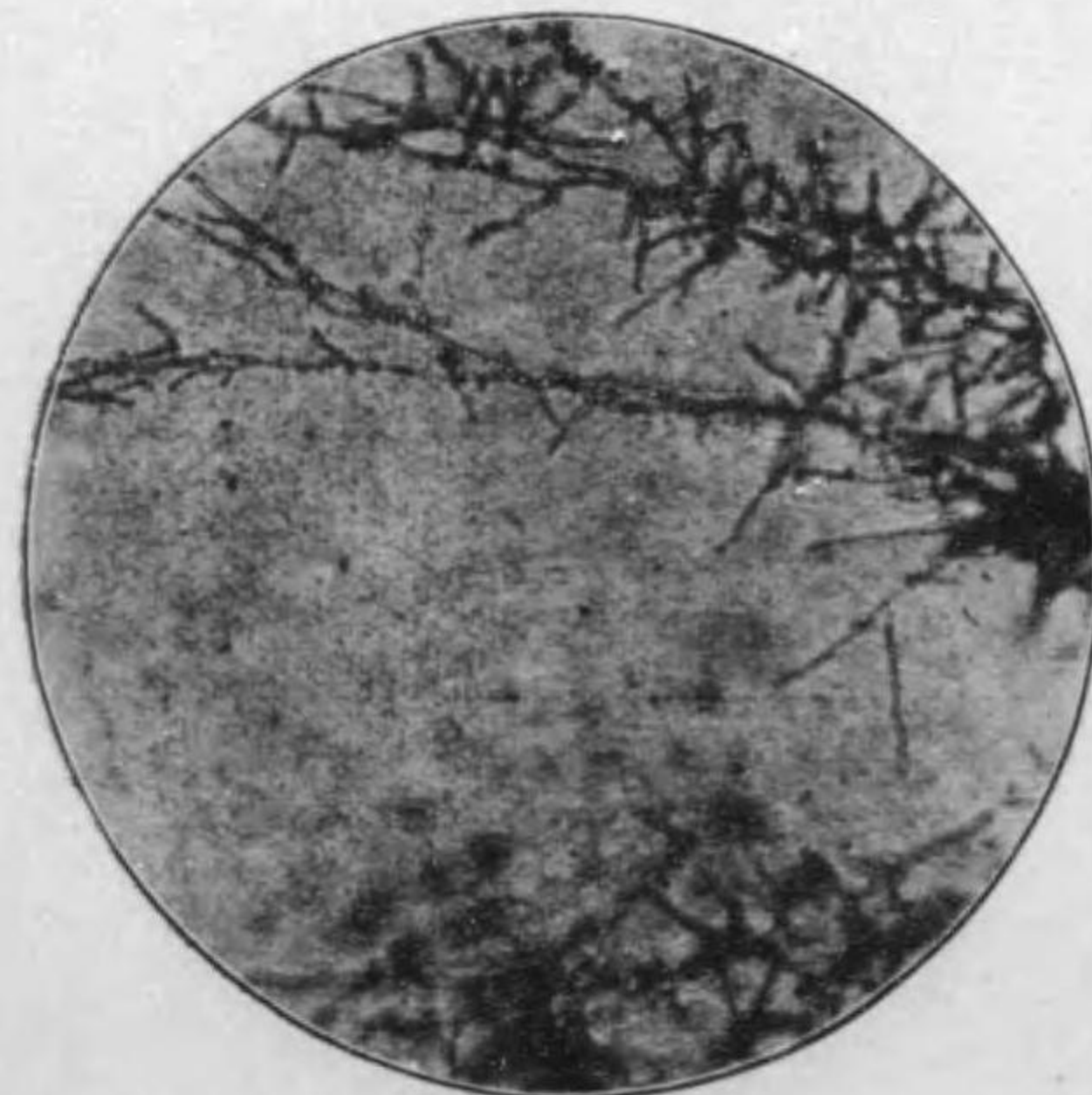


小芽胞菌(マルトローゼ寒天培養)
(青木大勇氏培養)

第七表

Microsporie (auf maltoseagar).

A''.



大擴ノ A'

シベル見ヲルア大膨ノ胞芽端末

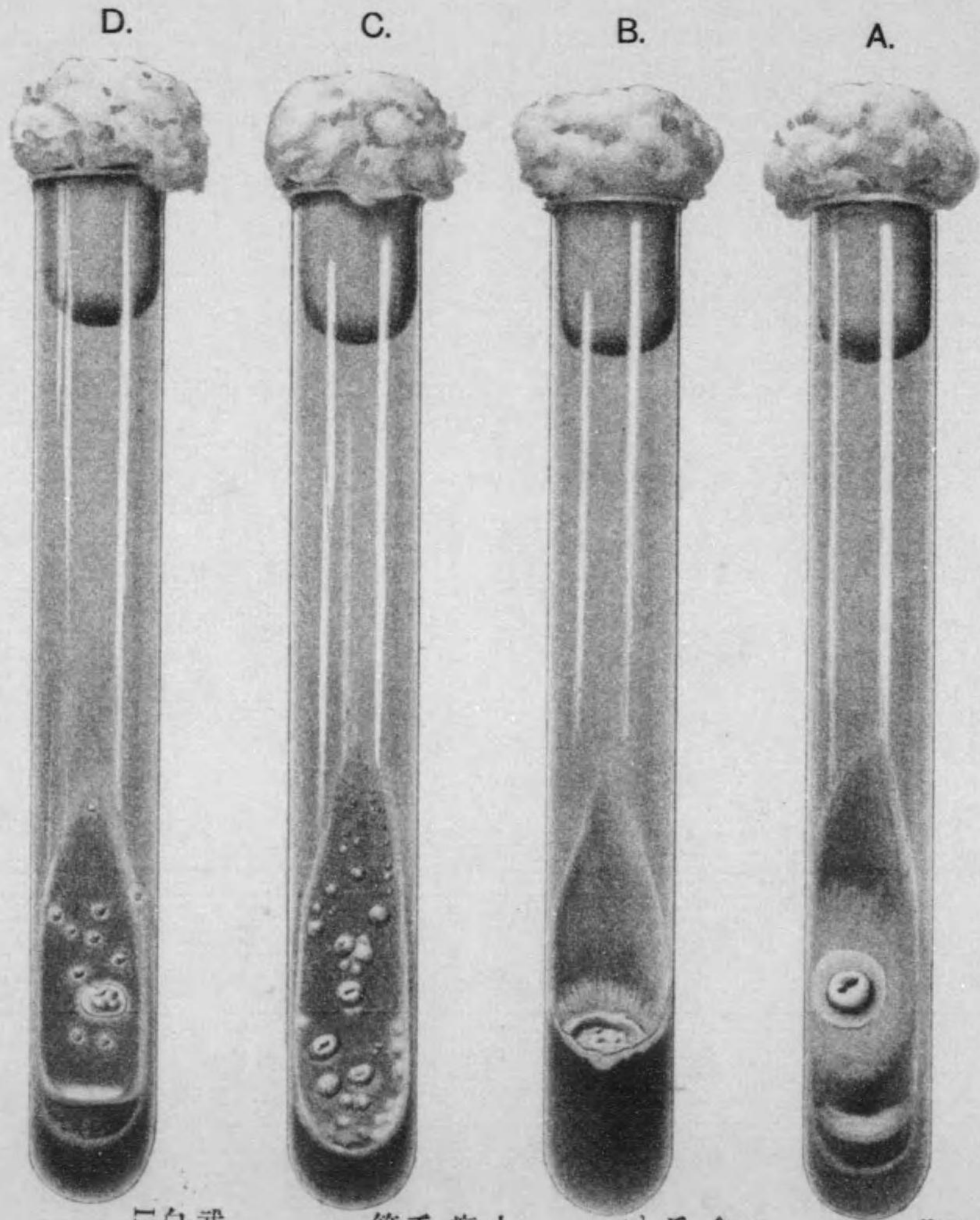
A'.



大擴ノ A

Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side of the paper.

表 八 第



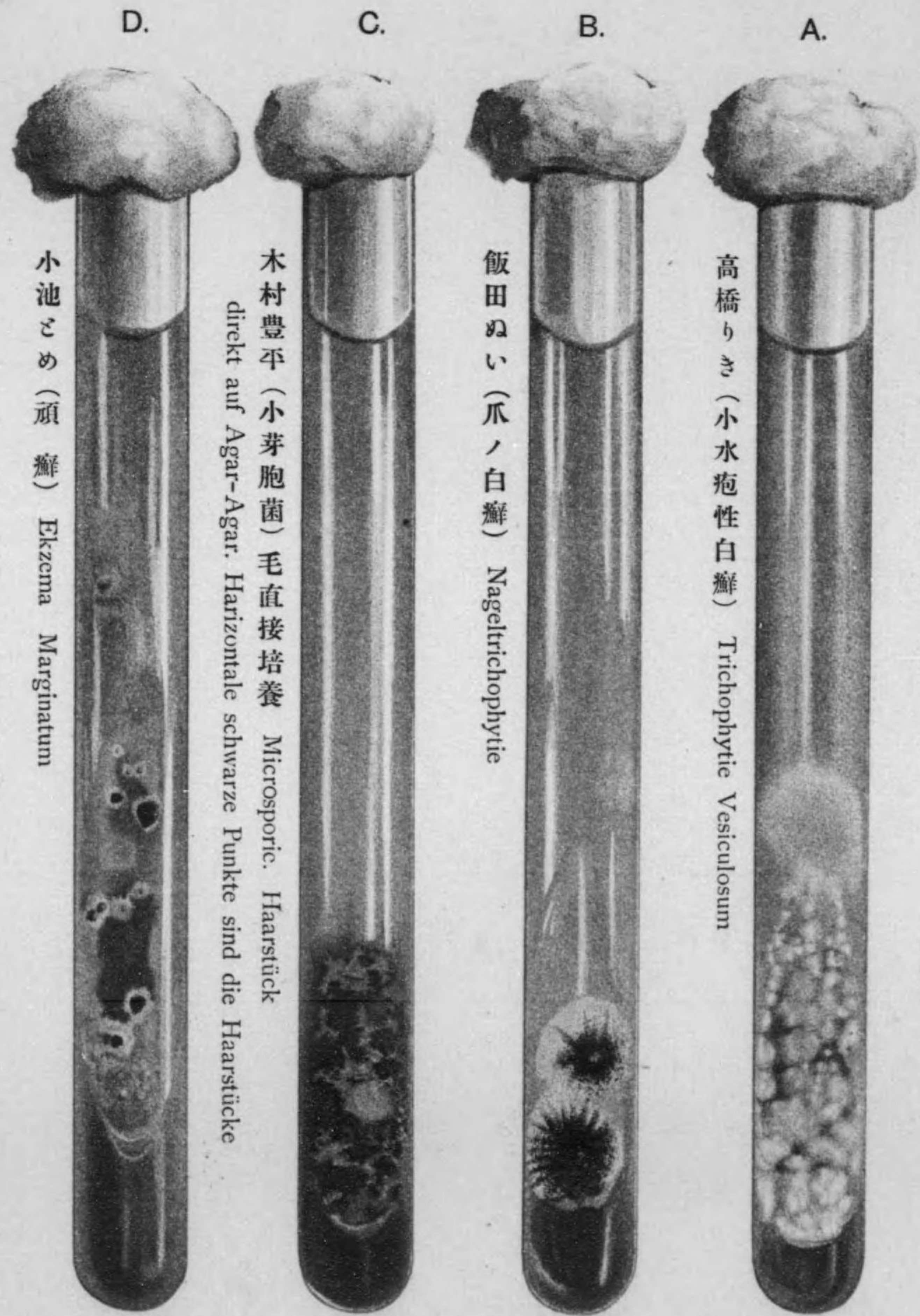
村越ふく(頑癬)
落屑直接ノ培養
Schuppen von Ekz.
Marginatum
(direkt auf Agar-
Agar.)

全 上
爪直接ノ培養
Trichophytenagel
(direkt auf Agar-
Agar.)

小林正心頭部白
癬)
毛髮直接培養ノ
第二代
II^{te} Generation von
Kopfrichophytie
(auf Agar-Agar.)

武井伴四郎(頭部
白癬)毛直接培養
II^{te} Generation von
der den Haarstück
direkt auf Agar-
Agar kultivierten
Kopfrichophytie.

表 九 第



A.

高橋りき (小水疱性白癬) *Trichophyite Vesiculosum*

B.

飯田ぬい (爪ノ白癬) *Nageltrichophyite*

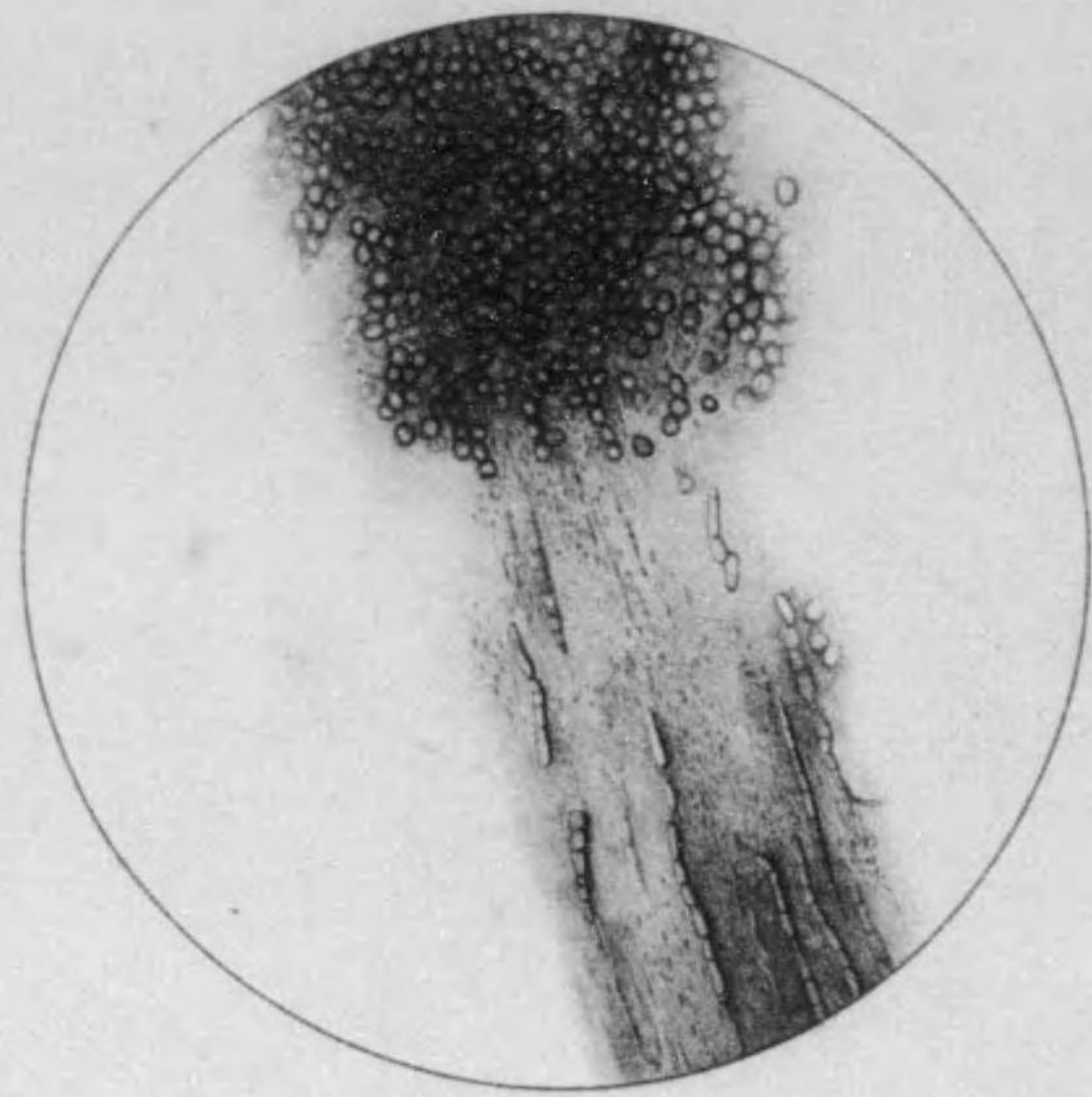
C.

木村豊平 (小芽胞菌) 毛直接培養 *Microsporic Haarstück*
direkt auf Agar-Agar. Horizontale schwarze Punkte sind die Haarstücke

D.

小池とめ (頑癬) *Ekzema Marginatum*

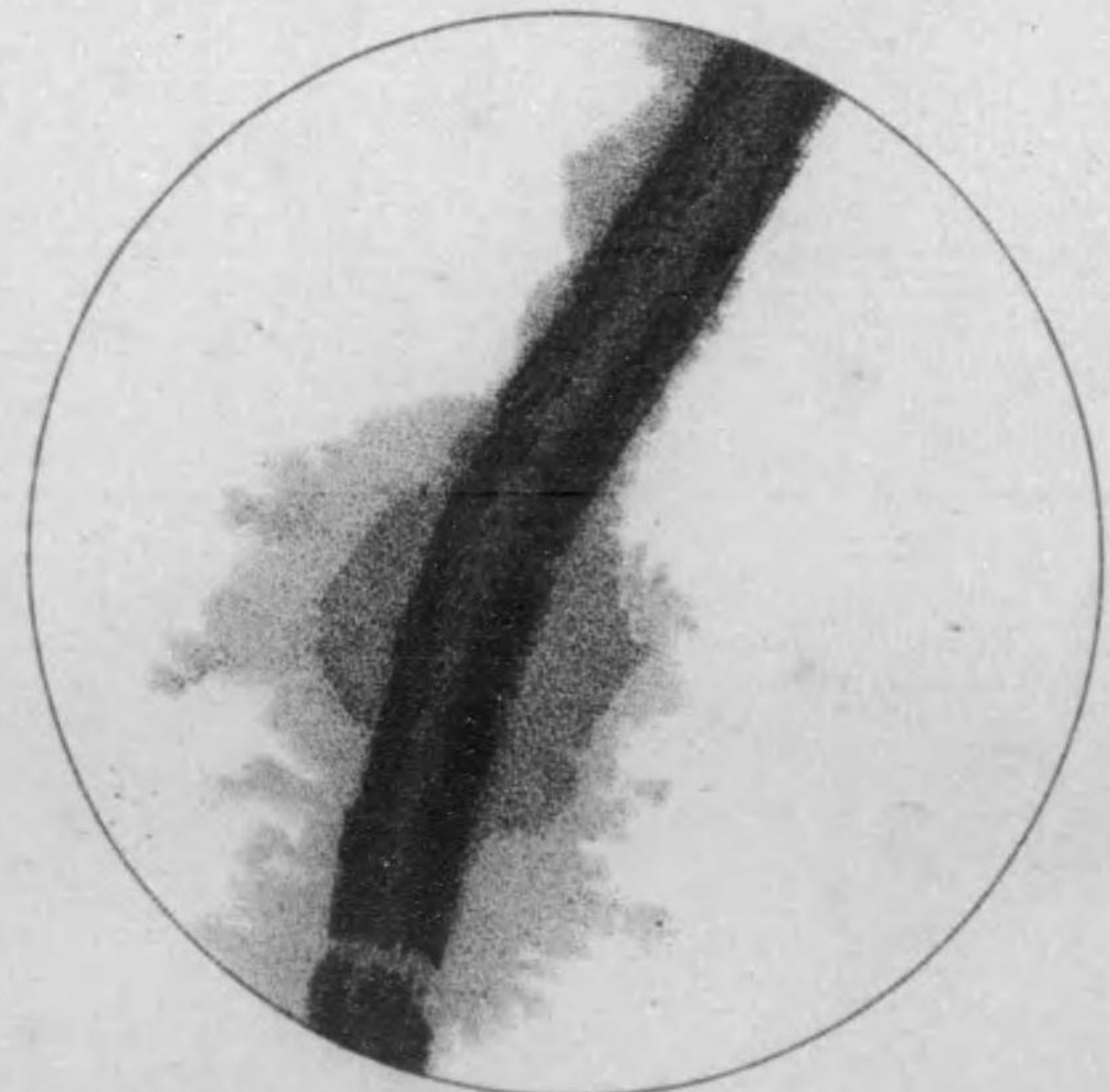
Tab. X.



第十表

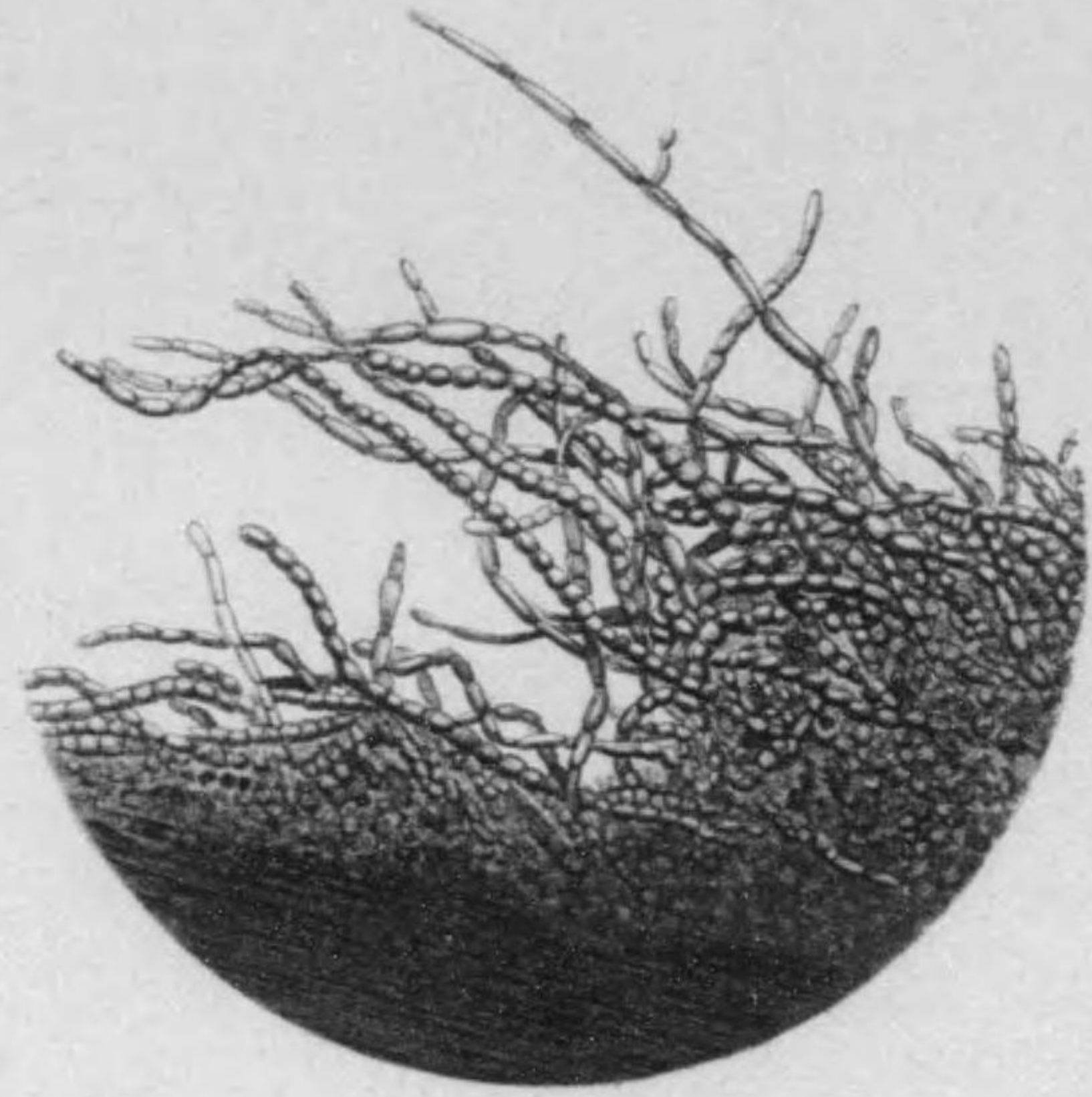
高島貞一(小芽胞菌)

一〇%加里滴汁ニテ處置シ「カナダバルサム」ニテ
閉ヂタル髮



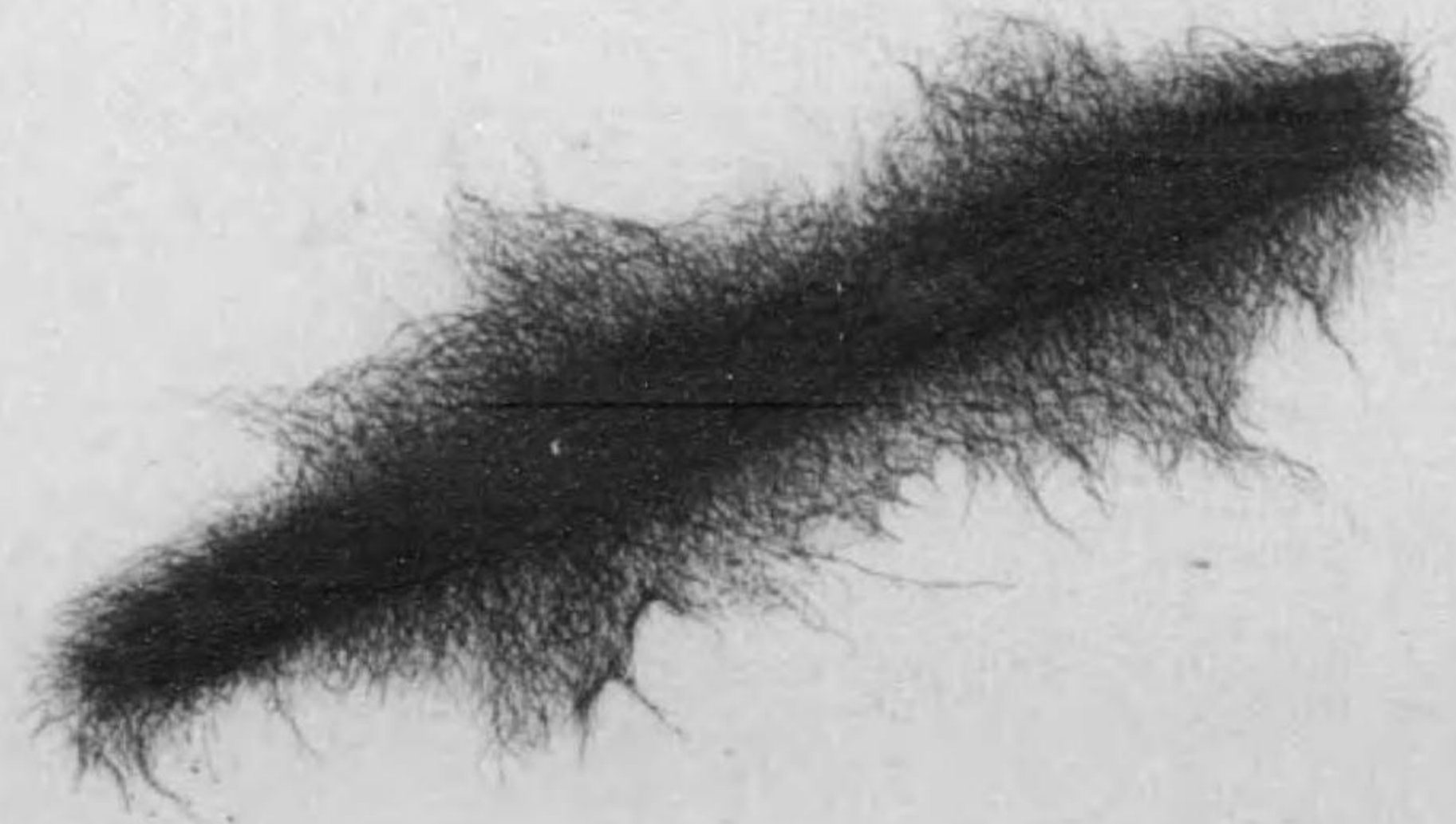
Mit 10% KalilaugeLösung behandelte Haarstück von Microsporidie

Tab. XI.



第十一表

木村豊平(小芽胞菌) 拔毛ヲ普通アガール斜面ニ直接培養セルモノ

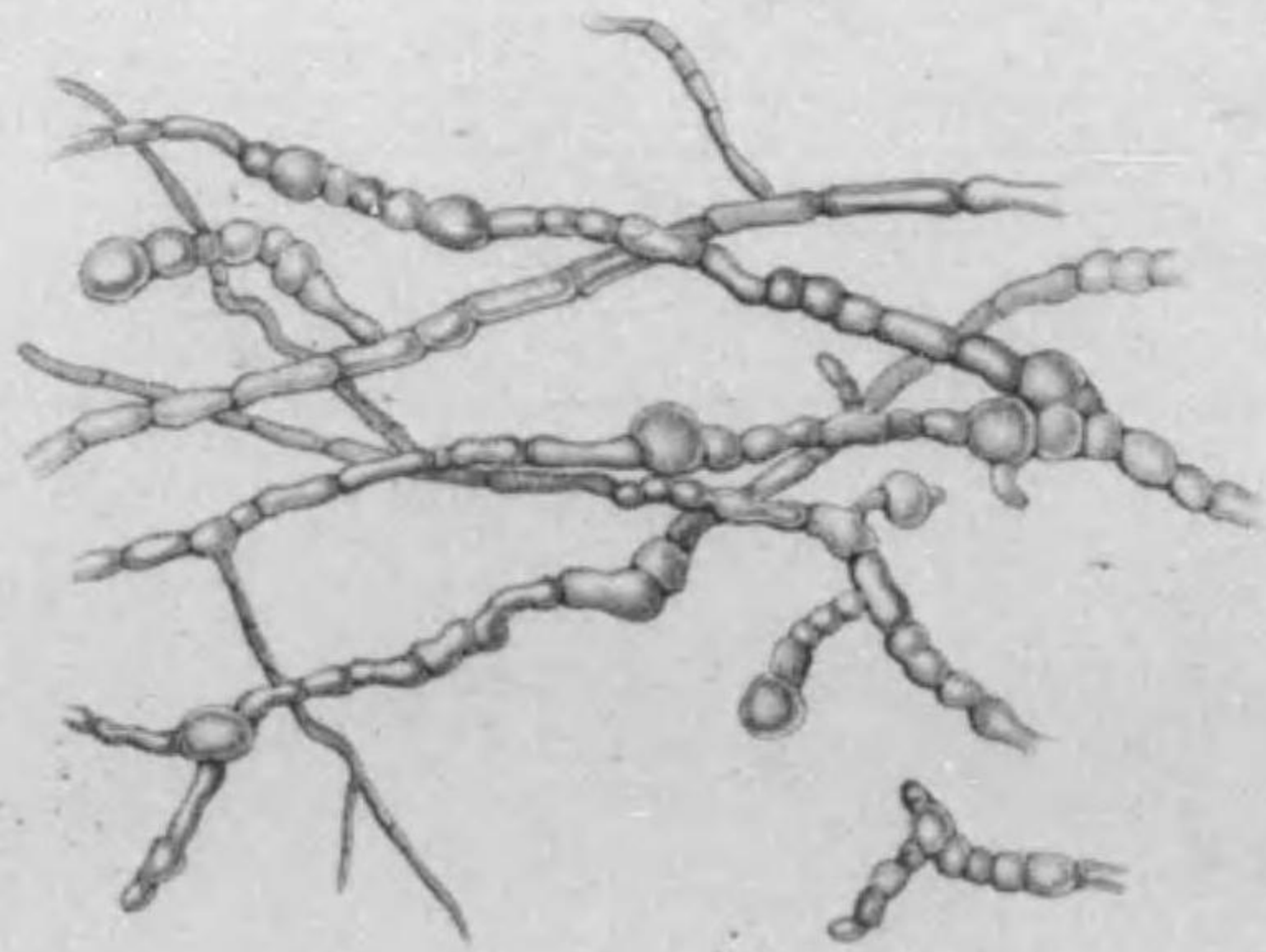
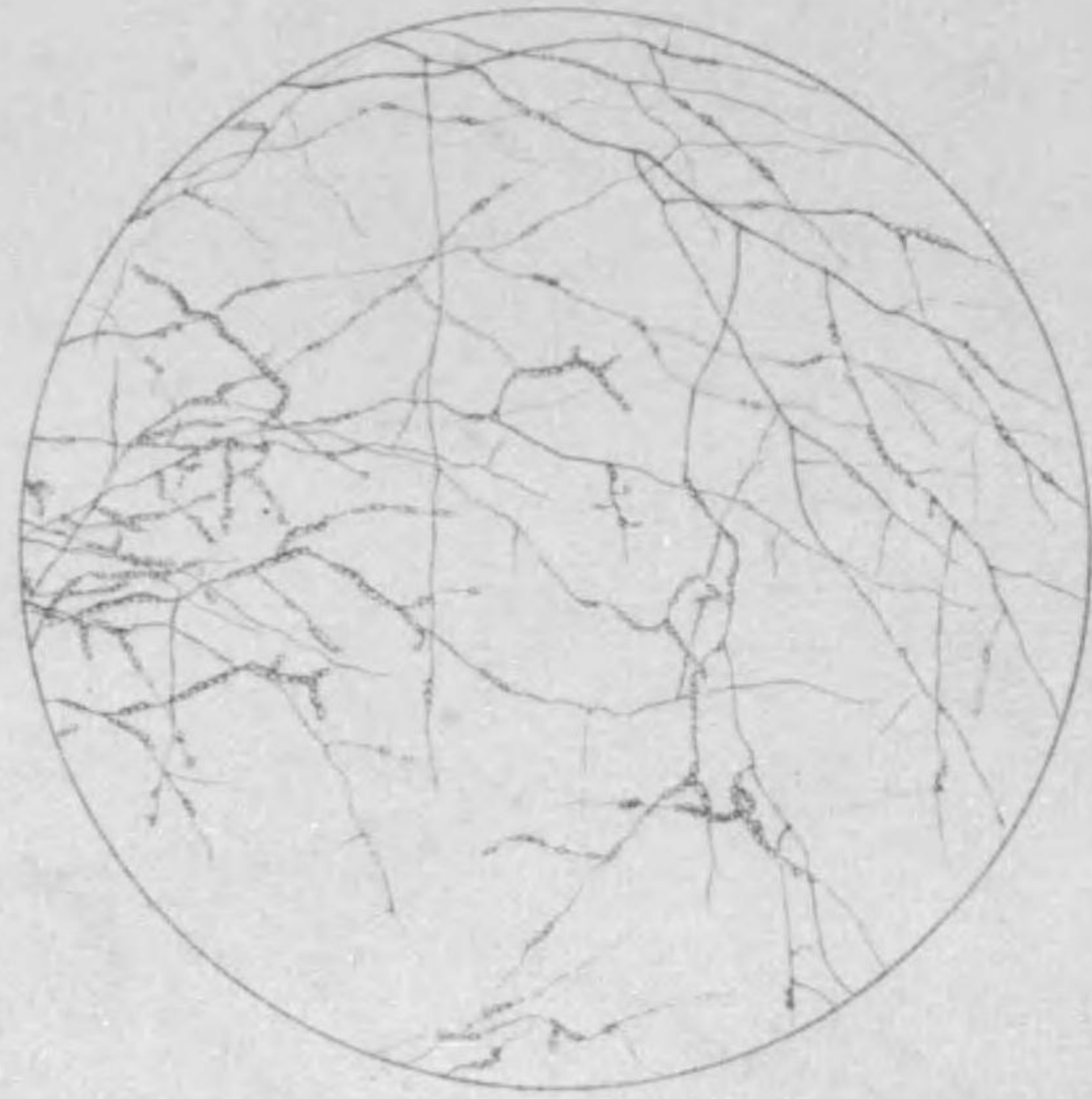


Haarstück von Microsporie dirsekt auf Agar-Agar Röhrrchen

第十二表

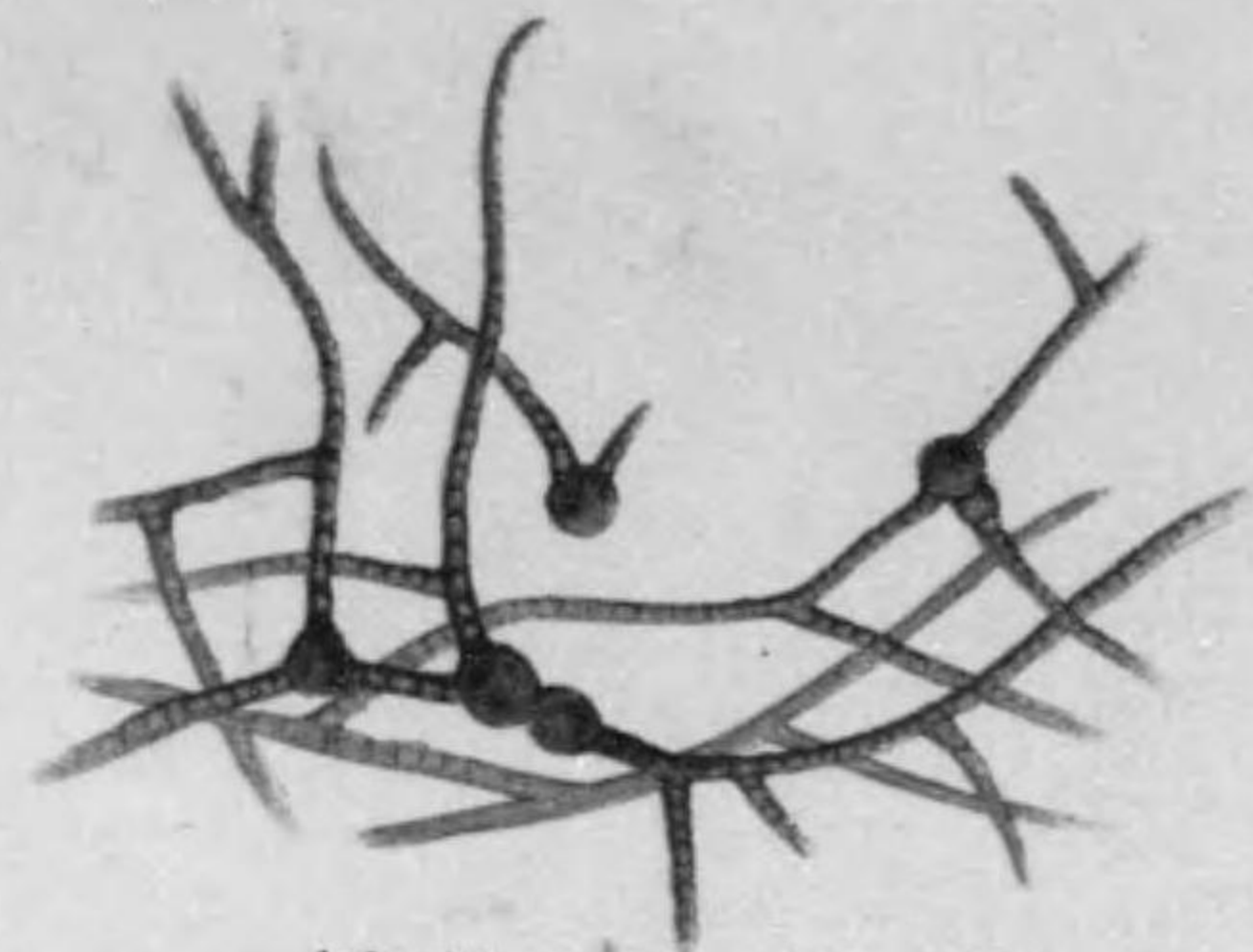
川久保安雄(小芽胞菌)

「ホールルオブエクトグラス」培養十六日ノモノ
菌絲腹様膨脹多數ヲ生シタル狀



Microsporidie, im Hohlobjektglas 16 Tg. lang kultivierte, Bauchige Anschwellungen der Mycelin deutlich.

第
十
三
表



A.

(癬頑ノ手) くふ越村
ノモシセ養培テニ「スラグトクエブオルーホ」
Ekzema Marginatum.



B.

(癬白ノ爪) めと池小
Nageltrichophytie.

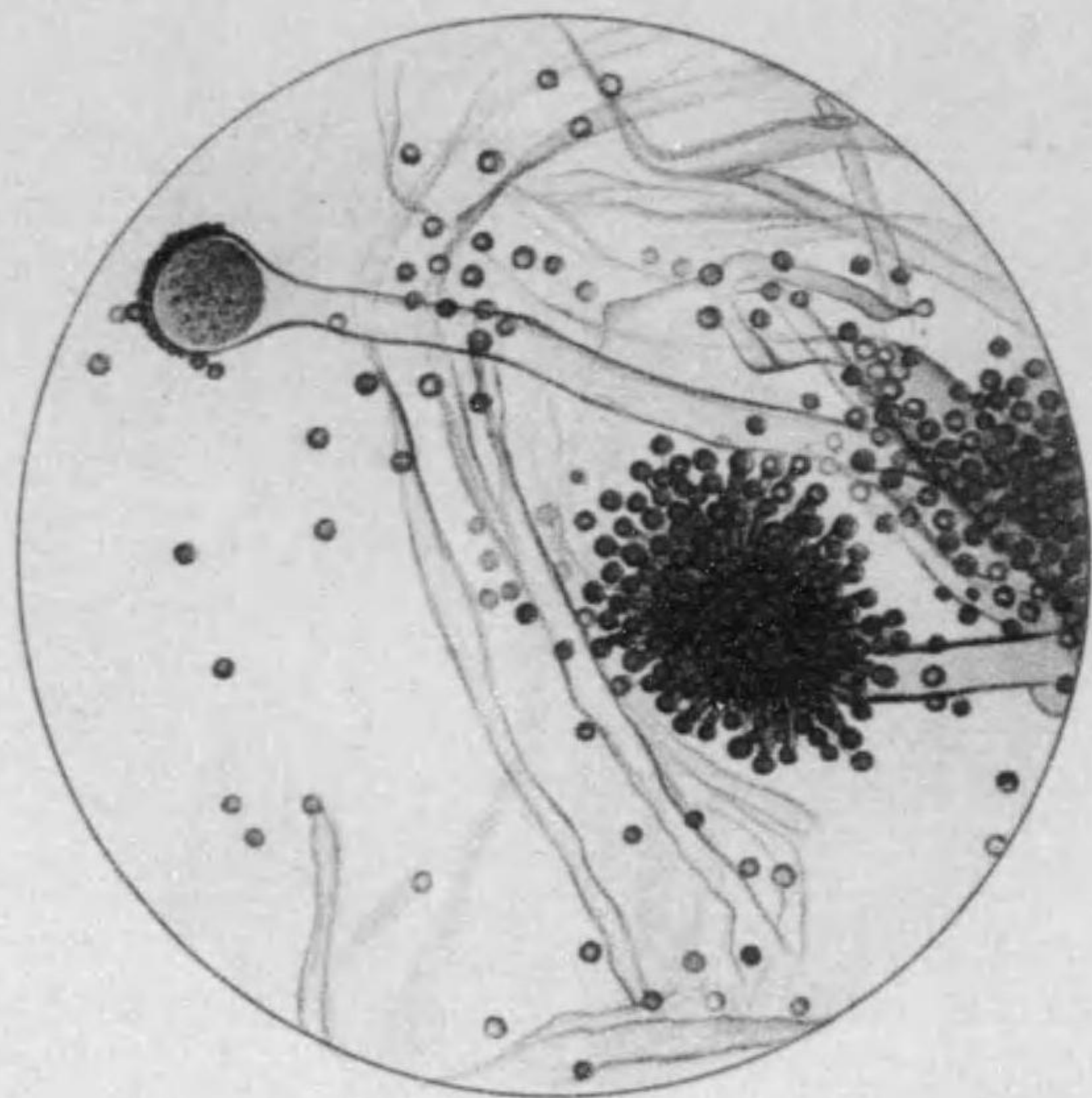


C.

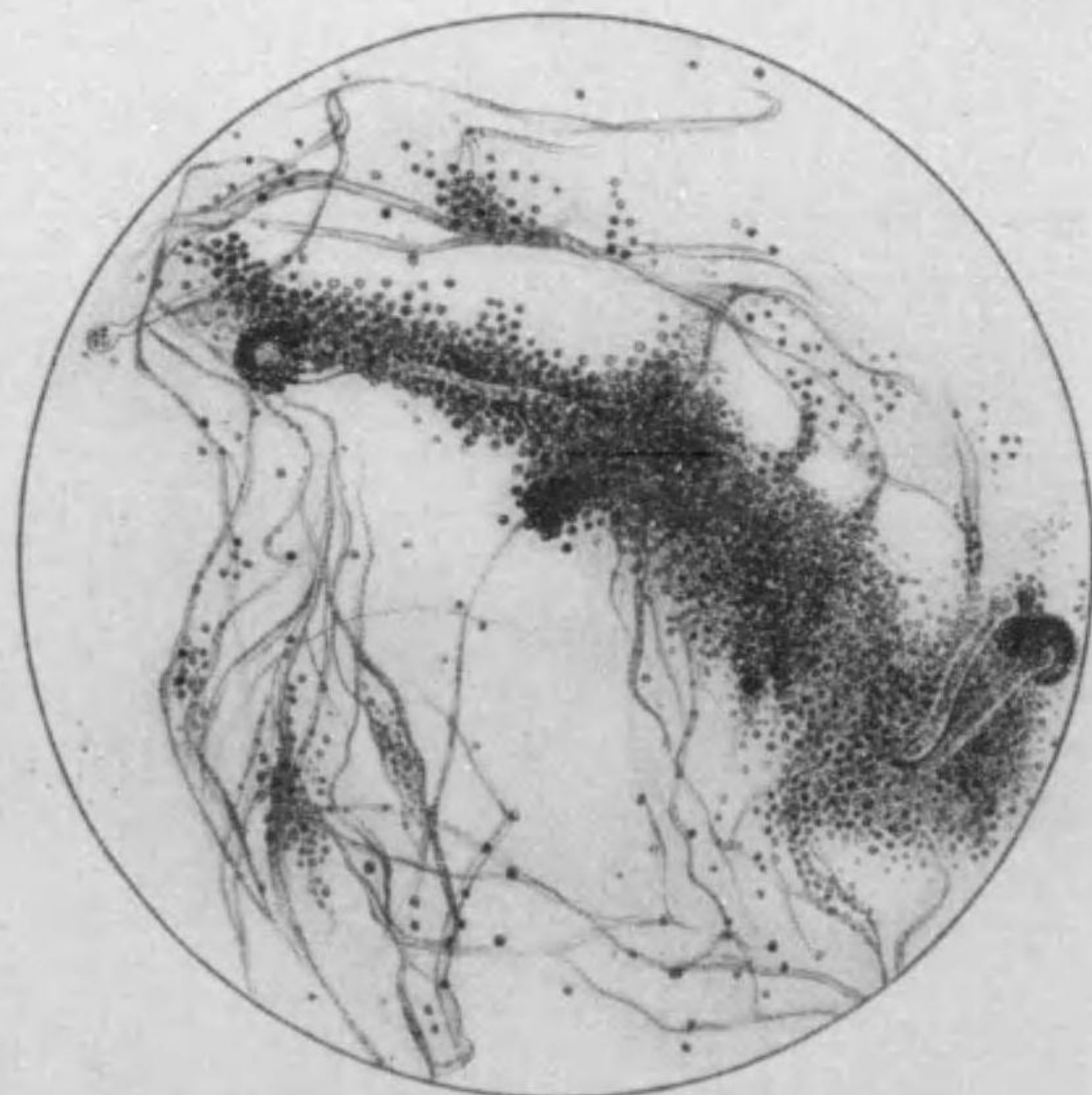
シ養培テニ「スラグトクエブオルーホ」 心正林小
ノモルセ檢鏡シ離剝ニカ静ヲ者ルタ
Microsporidie.

第十四表

飯田ぬい(爪ノ白癬)



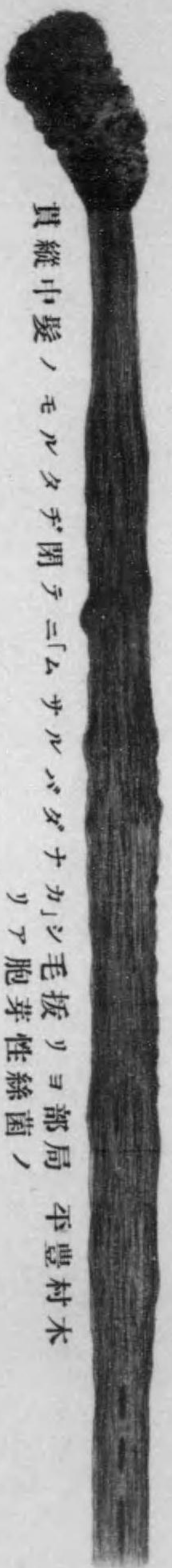
普通ノ「アガール」斜面培養ヲ取リ「グリスリン」ニテ閉チ
タルモノ「アスベルギルス」ヲ「ラブス」ニ酷似スルヲ見ル
ベシ氣胞ハ三μノ大サナリ



Aspergillus flavus ähnliche Nageltrichophytie

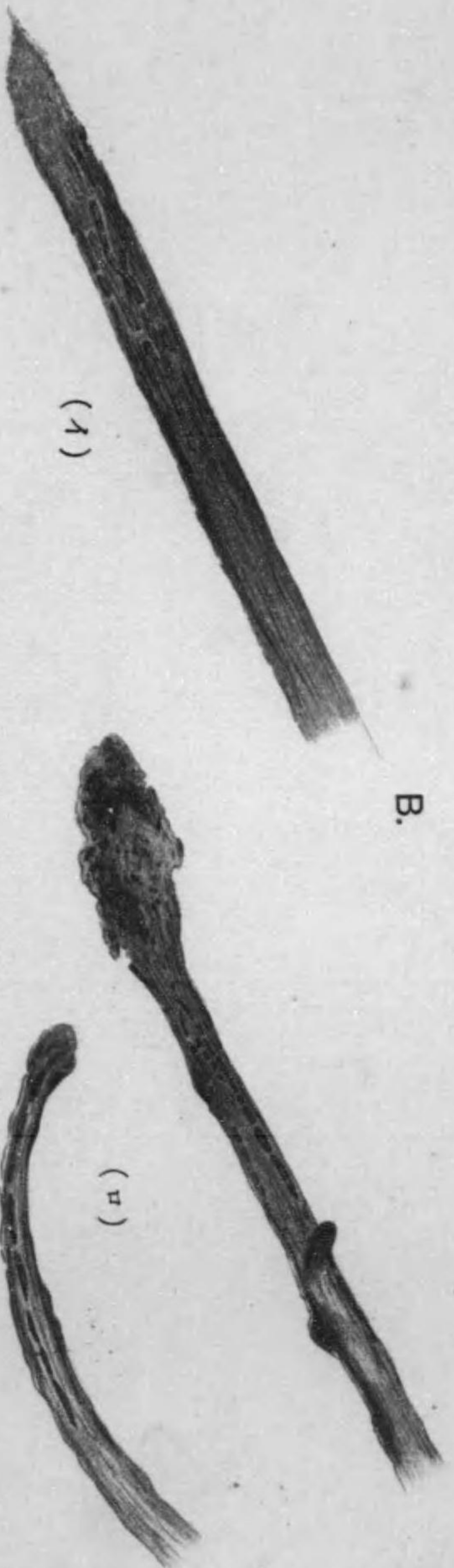
表 五 十 第

A.



貫 縦 中 髪 ノ モ ル タ デ 閉 ラ ニ 「ム サ ル バ」 ガ ナ カ 「シ」 モ 抜 リ ヨ 部 局 平 豊 村 木
リ ア 胞 芽 性 絲 菌 ノ
Microsporichaar.

B.

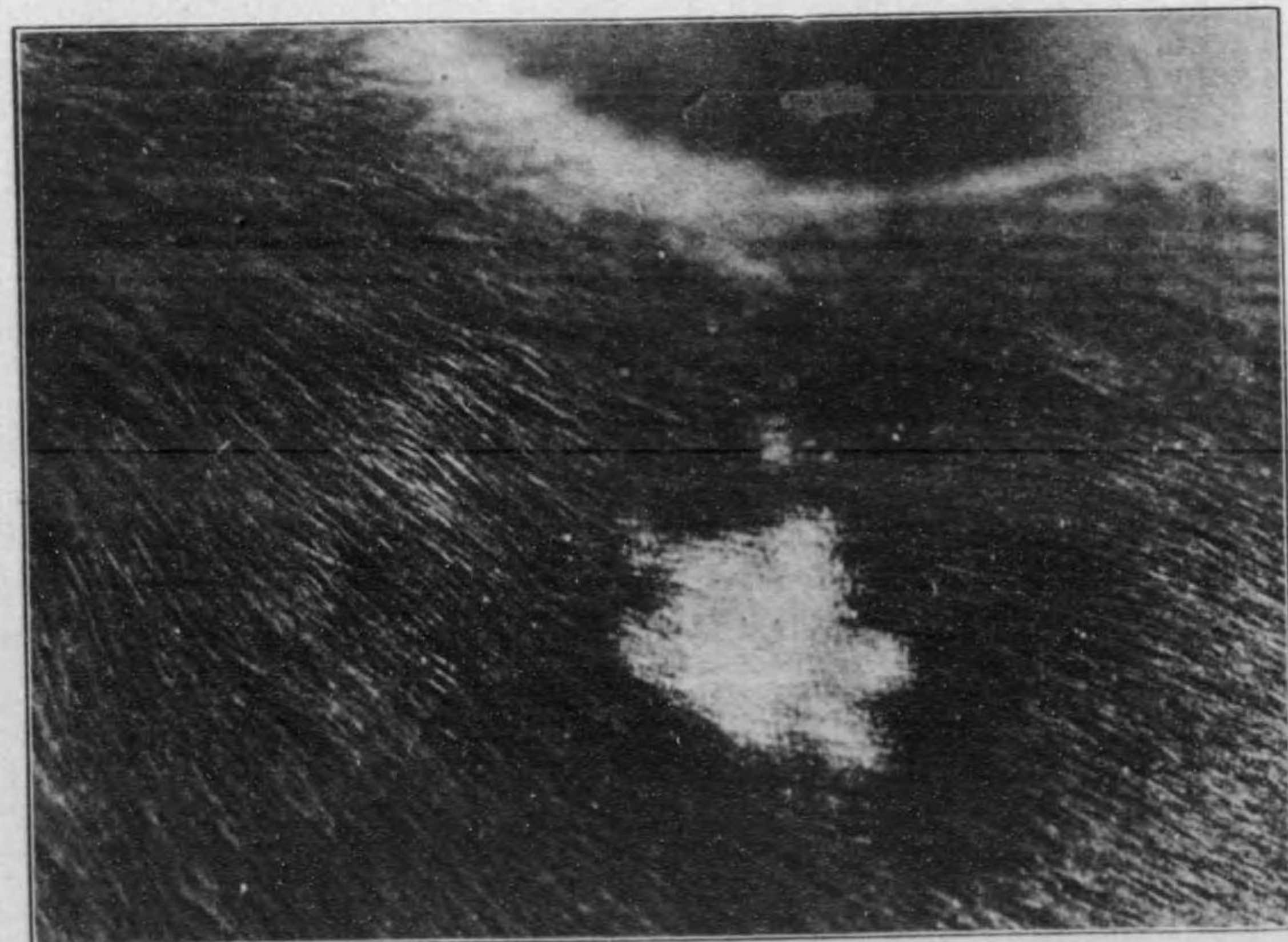


ノ モ ル セ 檢 鏡 キ 抜 ラ モ ノ 「け た は」 (1) 平 豊 村 木
毛 龜 ノ 時 ル タ シ 離 刺 ラ ニ 法 シ デ イ ロ ヂ ヲ 上 全 (2)
Laungohaar von Hatake desselben Patients.



第十六表

馬ノ白癬菌ヲ移植セルモノ
(山田、月塚)



Impfversuch (Stammpilz: von Trichophytie des Pferdes.) (Yamada u. Totsuka)

大正元年十一月廿九日
大正元年十二月一日發行

正價金壹圓貳拾錢

不許
複製

著者 山田弘倫

發行者 東京市本郷區龍岡町三十四番地 鈴木幹太

印刷者 東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地 矢部政吉

印刷所 右正文舍

發行所

東京市本郷區龍岡町三十四番地

南山堂書店

電話下谷四一七八番
振替貯金東京六三三八番

